

人権についての市民意識調査

報 告 書

平成 26 年（2014 年）3 月

豊 中 市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 配付数と回収率	1
5. 報告書の見方	2
6. 標本誤差	3
7. 調査票の設計と分析	4
II. 調査結果	5
1. 回答者の属性	5
(1) 性別	5
(2) 年齢	6
(3) 最終学歴	8
(4) 居住年数	8
2. 人権や差別問題に対する見方・考え	9
(1) 人権侵害に該当する事象	9
(2) 人権や差別問題に対する考え方	18
(3) 子どもの人権について	23
(4) 「人権」という言葉から連想すること	28
3. 人権侵害の経験と対応	30
(1) 人権侵害の経験の有無	30
(2) 人権侵害を受けたときの対応	32
4. 人権に対する意識や考え方	34
(1) 日本国憲法における国民の権利	34
(2) 人権の観点から問題がある行為	39
(3) 自分自身に対する評価	43
(4) 家族にかかわる人権	52
(5) 身近な人権問題	60
(6) 同和地区出身者との結婚を反対されている親類に対する態度	64
(7) 同和問題に関する発言を聞いた経験	71
(8) 誰から聞いたのか	74
(9) いつ聞いたのか	77
(10) どう感じたのか	79

5. 人権教育について.....	83
(1) 人権教育を受けた経験の有無.....	83
(2) 教育を受けた程度.....	85
(3) 教育を受けた内容.....	87
6. 人権や差別問題の動向.....	96
7. 人権に関わる施設の認知状況.....	101
(1) 人権に関連する事業を行う施設の認知状況.....	101
(2) 人権に関連する事業を行う施設の利用状況.....	103
(3) 人権まちづくりセンターの名称変更の認知状況.....	107
(4) 人権まちづくりセンターの印象.....	109
8. 自由記述について.....	112
9. 今回の調査からみえてきたこと.....	120
III. 使用した調査票.....	125

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の人権に関する意識を把握し、豊中市が行う人権教育・啓発など、今後の人権に関する施策を推進するうえでの基礎資料とすることを目的として実施した。

2. 調査項目

- (1) 人権や差別問題に対する見方・考え
- (2) 人権侵害を受けた経験とそのときの対応
- (3) 差別的な言動に接した時の態度
- (4) 人権教育を受けた経験とその内容
- (5) 人権にかかわる施設の認知と利用の状況
- (6) 回答者の属性

3. 調査設計

- (1) 調査地域：豊中市全域
- (2) 調査対象：豊中市内に居住している満16歳以上の男女5,000人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳から、市内の性別・年齢別構成を考慮し、4,000人を層化抽出した（これを標準サンプルという）。そして、回収率が低いとみられる16～19歳、20～29歳については、別に1,000人を抽出し、これを追加した（これを追加サンプルという）。
- (4) 調査方法：郵送配付、郵送回収（調査期間中に、はがきによるお礼状兼督促状を1回送付）
- (5) 調査期間：2013年9月24日（火）～10月7日（月）

4. 配付数と回収率

(1) 配付数

豊中市民の性別・年齢別構成を反映した標準サンプルと、16～19歳、20～29歳の追加サンプルの調査票配付数は、つぎのようである。

		総数	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
標準	男性	1,888	100	220	307	348	249	300	364
	女性	2,112	112	243	349	389	279	333	407
追加	男性	471	282	189					
	女性	529	317	212					

(2) 回収状況

調査票の回収状況は、以下の表のとおりである。

	割当 標本数	不到達 標本数	到達 標本数	回収数	無効 回答数	有効 回答数	割当標本数に 対する 有効回答率	到達標本数に 対する 有効回答率
	(a)	(b)	(c)=(a)-(b)	(d)	(e)	(f)=(d)-(e)	(g)=(f)/(a)	(h)=(f)/(c)
満16歳以上	4,000	42	3,958	1,554	3	1,551	38.8%	39.2%
満16歳以上 29歳以下	1,000	6	994	261	0	261	26.1%	26.3%
合計	5,000	48	4,952	1,815	3	1,812	36.2%	36.6%

※不到達：転居先不明等で市に返戻されたもの ※無効回答：白票

(3) 年齢別回収率

回収率を性別・年齢別に示すと、以下の表のようになる。

	総数	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
男性	28.9%	19.9%	19.8%	22.8%	24.4%	29.7%	38.3%	48.9%
女性	41.3%	27.3%	27.3%	44.7%	46.5%	56.6%	52.6%	44.2%
計	36.2%	24.0%	23.7%	34.5%	36.2%	43.9%	45.8%	46.8%

回収率は女性のほうが高く、年齢では、男性が70歳以上で、女性は30歳以上の各年齢階層でそれぞれ高くなっている。

5. 報告書の見方

- (1) 調査結果を総数、男女別で示す場合は、市内の性別・年齢別構成を反映した4,000人（標準サンプル）についてのデータ（回収1,551件）で示し、年齢別に調査結果を示す場合は、16～19歳と20～29歳に追加分1,000人（追加サンプル）についてのデータ（回収261件）を加えたもので示している。
- (2) 今回の調査では、前回調査と同じように、回答者の性別を問う設問の選択肢を「男性」「女性」「その他」とした。「その他」を加えたのは、自分の性別を「男性」でも「女性」でもないとする市民がいることに配慮したからである。回収した調査票で、性別を「その他」とした回答者は1人いたが、調査結果を「男性」「女性」「その他」で表示すると、性別を「その他」とした回答者の各質問への回答状況がそのまま出てしまうため、性別による調査結果の表示は「男性」「女性」とし、「その他」はあげないことにした。
- (3) 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してある。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。また、複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。なお、図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer）を意味する。総数と性別における集計は満16歳以上の男女4,000人の有効回答数である1,551件を対象とし、年齢別における集計は満16歳以上の男女4,000人と満16歳以上29歳以下の男女1,000人の有効回答数である1,812件を対象としている。
- (4) 回答者数（N）が少ない場合は、比率の数字に偏りが生じやすく、厳密な比較をすることは難しいので、おおよその回答の傾向をみることになる。

- (5) 図表において、コンピューターの入力の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- (6) 設問間のクロス集計では、カイ二乗検定による p 値を示しており、 $p < 0.05$ (5%) の場合に「*」、 $p < 0.01$ (1%) の場合に「**」、 $p < 0.001$ (0.1%) の場合に「***」を付記している。p 値とは、設問の回答の間の差が有意（偶然とは考えにくい）であるかどうかを示すもので、p 値が小さいほど有意であると判断をする。例えば、 $p = 0.01$ とは、観測結果が偶然に起こる確率は 1% という意味になる。

6. 標本誤差

本調査は、標本調査であり、調査結果の誤差の計算は、下記の計算式によって計算できる。

※信頼度95%の場合

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \times \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(100-p)}{n}}$$

N=母集団数(338,308)、n=有効回答者数(1,551)、p=回答の比率
ただし、本調査の母集団は無限母集団であるので、

$$\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$$

よって、

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \times \sqrt{2 \times \frac{p(100-p)}{n}} \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

※母集団数は 2013 年 4 月 1 日時点

①式によって計算された総数及び主な属性別の標本誤差は下表のとおりである。

■信頼度 95%における主要な%の信頼区間 1 / 2 幅

	n	p(%)									
		5 95	10 90	15 85	20 80	25 75	30 70	35 65	40 60	45 55	50 50
総数	1,551	1.6	2.2	2.6	2.9	3.1	3.3	3.4	3.5	3.6	3.6
〈性別〉											
男性	574	2.6	3.5	4.2	4.7	5.1	5.4	5.6	5.8	5.9	5.9
女性	944	2.0	2.8	3.3	3.7	4.0	4.2	4.4	4.5	4.6	4.6
〈年齢別〉											
16～19歳	195	4.4	6.1	7.2	8.1	8.8	9.3	9.7	9.9	10.1	10.1
20歳代	205	4.3	5.9	7.1	7.9	8.6	9.1	9.4	9.7	9.8	9.9
30歳代	226	4.1	5.6	6.7	7.5	8.1	8.6	9.0	9.2	9.4	9.4
40歳代	267	3.8	5.2	6.2	6.9	7.5	7.9	8.3	8.5	8.6	8.7
50歳代	232	4.0	5.6	6.6	7.4	8.0	8.5	8.9	9.1	9.2	9.3
60歳代	290	3.6	5.0	5.9	6.6	7.2	7.6	7.9	8.1	8.3	8.3
70歳以上	361	3.2	4.5	5.3	6.0	6.4	6.8	7.1	7.3	7.4	7.4

例えば、回答者総数 n (1,551 人) を 100.0% とする質問で、選択肢に対する回答比率 p (%) が 80% であった場合、信頼度 95% (この種の調査を 100 回行えば 95 回はこの範囲に収まるという精度) では母集団 (16 歳以上の市民全体) における回答比率の誤差の範囲は $\pm 2.9\%$ (77.1~82.9%) の間であると推測できる。

7. 調査票の設計と分析

調査票の設計と分析は、関西大学人権問題研究室が行った。

報告書の執筆にかかわった人権問題研究室の研究者等は、以下のとおりである。なお、各自が担当した設問番号を付した。

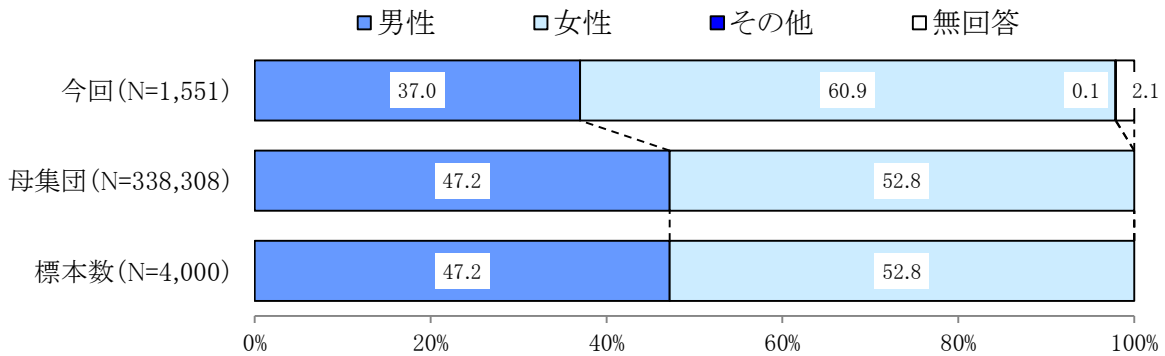
石元清英 (室長)	問 3、問 15 全体の編集
守 如子 (研究員)	問 2、問 9
酒井千絵 (研究員)	問 7、問 10
若槻 健 (研究員)	問 8、問 13
宮橋國臣 (委嘱研究員)	問 4、問 5、問 6
宮前千雅子 (委嘱研究員)	問 11、問 12、問 14
松波めぐみ (委嘱研究員)	問 16、問 21
杉谷眞佐子 (元研究員)	問 1

II. 調査結果

1. 回答者の属性

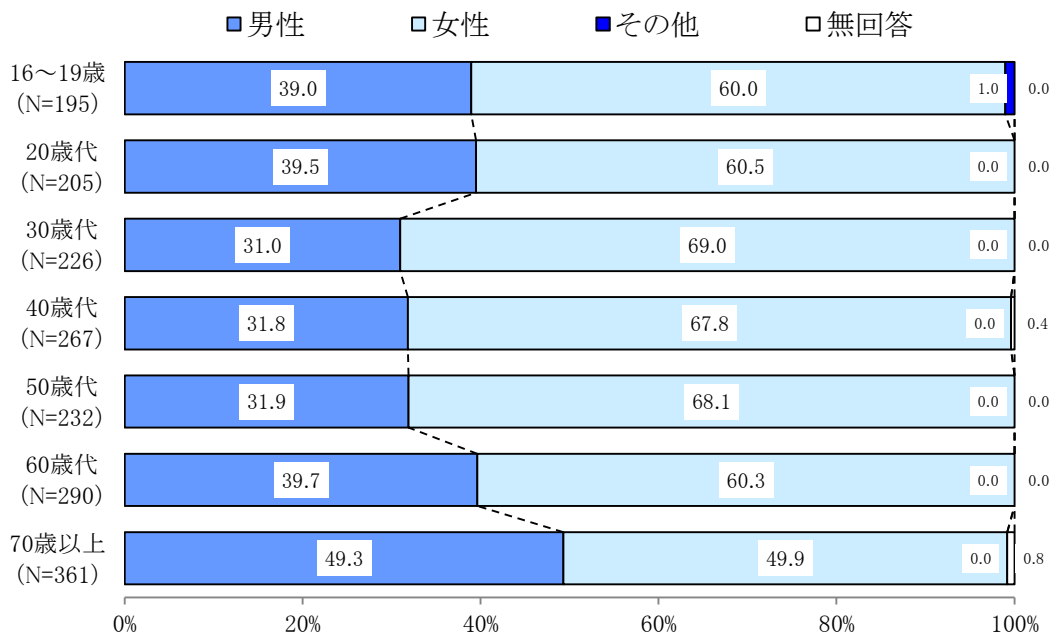
(1) 性別

【図 1-1 性別】



回答者の性別は、「男性」が 37.0%、「女性」が 60.9%で、「女性」のほうが 23.9 ポイント高くなっている。これは調査の概要でも述べたように、女性からの調査票の回収率が高かったからである。なお、「その他」は 0.1%であった。(図 1-1)

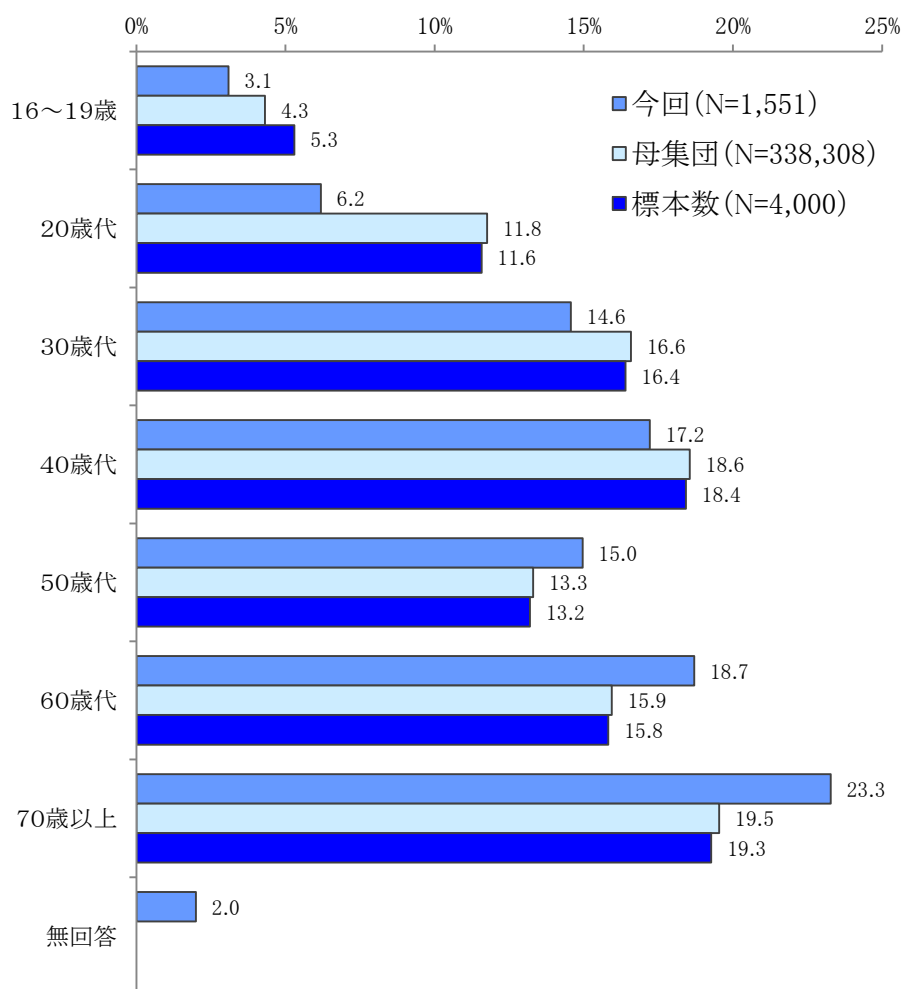
【図 1-1-1 年齢別・性別】



年齢別にみると、60歳代までは女性が男性を大きく上回っており、とくに「30歳代」「40歳代」「50歳代」では、女性の構成比が男性のその2倍以上となっている。しかし、「70歳以上」では、男女の構成比はほぼ同じである。(図 1-1-1)

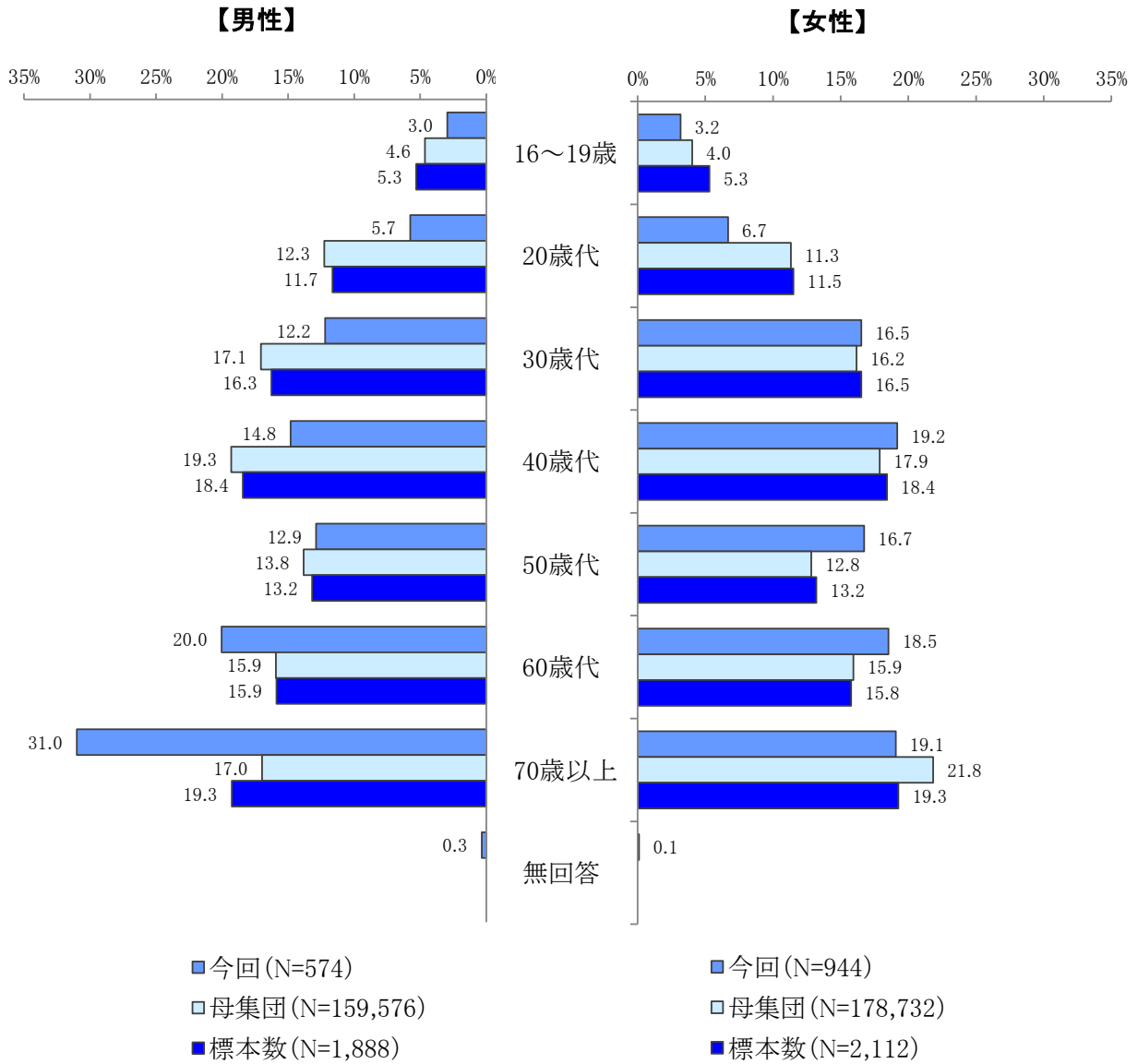
(2) 年齢

【図1-2 年齢】



年齢構成は、「70歳以上」が23.3%と、もっとも多く、「60歳代」が18.7%、「40歳代」が17.2%とつづき、「16~19歳」は3.1%、「20歳代」は6.2%と、少なくなっている。母集団の年齢構成と比較すると、50歳以上の各年齢層では母集団の構成比を上回っているが、40歳代までの年齢層では、いずれも母集団の構成比よりも低くなっている。とりわけ、20歳代の構成比が母集団のその2分の1ほど大きさである。(図1-2)

【図 1-2-1 性別 年齢】

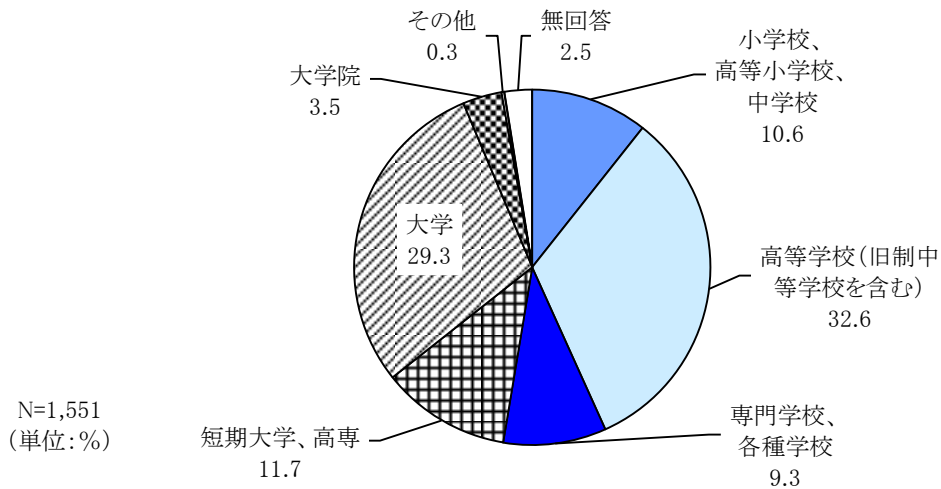


性別で見ると、男性では、「60歳代」と「70歳以上」が多く、女性では、「40歳代」「60歳代」「70歳以上」が多くなっている。(図 1-2-1)

このように、今回の調査結果は、総数では女性の比重が大きくなっており、男女別にみた場合は、男性では60歳以上、女性では40歳以上の比重が大きい。したがって、分析にあたっては、こうした性別、年齢の偏りを考慮する必要があるといえる。

(3) 最終学歴

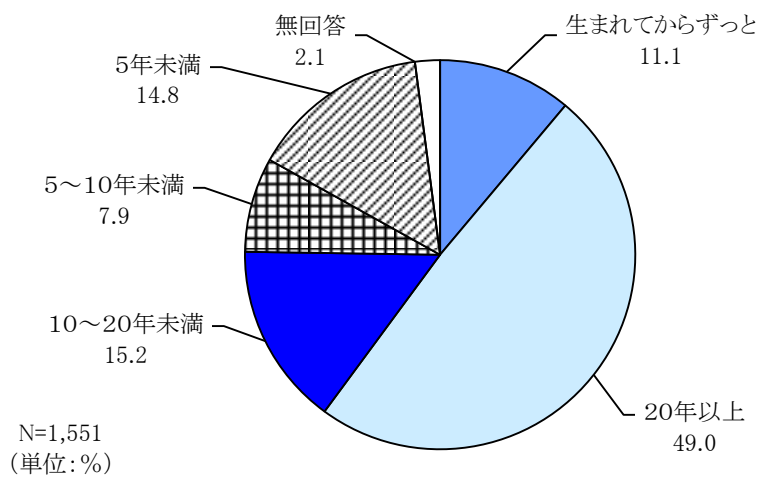
【図1-3 最終学歴】



最終学歴は、「高等学校(旧制中等学校を含む)」が32.6%でもっとも多く、ついで「大学」が29.3%、「短期大学、高専」が11.7%となっている。「小学校、高等小学校、中学校」は10.6%、「専門学校、各種学校」は9.3%となっている。(図1-3)

(4) 居住年数

【図1-4 居住年数】



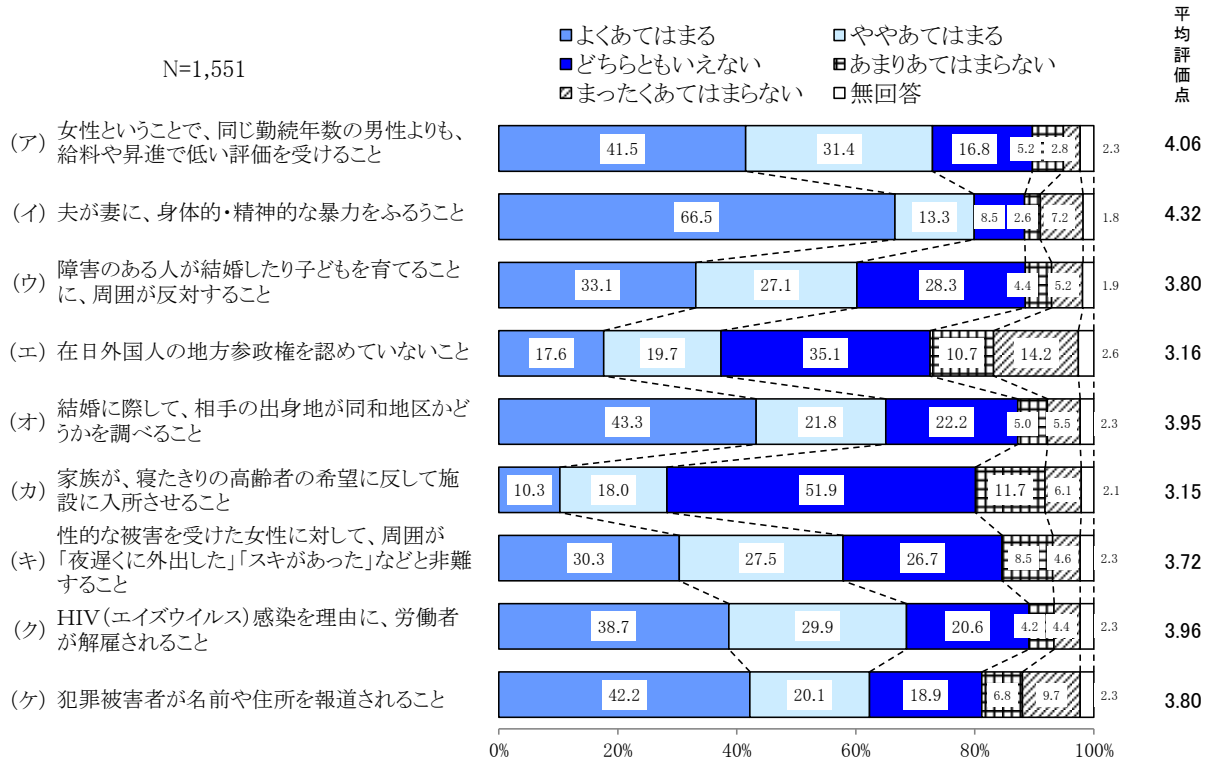
居住年数は、「20年以上」が49.0%と、もっとも多く、「10~20年未満」15.2%、「5年未満」14.8%、「生まれてからずっと」11.1%がつづく。(図1-4)

2. 人権や差別問題に対する見方・考え

(1) 人権侵害に該当する事象

問1 あなたは、次のようなことは人権侵害にあてはまると思いませんか。
ア～ケのそれぞれについて選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

【図2-1 人権侵害に該当する事象】



* 平均評価点(スコア)

よくあてはまる	5点
ややあてはまる	4点
どちらともいえない	3点
あまりあてはまらない	2点
まったくあてはまらない	1点
無回答	-1点

人権侵害に該当する事象についてみると、「ア」から「ケ」までの項目で、人権侵害に「よくあてはまる」がもっとも高いのは、「イ. 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと」(66.5%、「ややあてはまる」を合わせると、79.8%)。以下、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた数値を「あてはまる」というで、つぎに40%台で「オ. 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べること」(43.3%、「あてはまる」65.1%)、「ケ. 犯罪被害者が名前や住所を報道されること」(42.2%、「あてはまる」62.3%)、「ア. 女性ということで、同じ勤続年数の男性よりも、給料や昇進で低い評価を受けること」(41.5%、「あてはまる」72.9%)と続く。つぎに、「あてはまる」の割合からみて、人権侵害としての認知が比較的高いといえる項目は、「ク. HIV(エイズウイルス)感染を理由に、労働者が解雇されること」(68.6%)、「ウ. 障害のある人が結婚したり子どもを育てることに、周囲が反対すること」(60.2%)、「キ. 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が『夜遅くに外出した』『スキがあった』などと非難すること」(57.8%)などである。

他方、「あてはまる」の割合からみて、人権侵害としての認知が比較的低い項目に、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」がある。この項目に対しては、「どちらともいえない」が 35.1%であるのに対し、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の合計は 24.9%と比較的高く、人権侵害としての認知は低いようである。

もう一つの項目「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」に対しては、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」の合計が 17.8%で、「どちらともいえない」が半数以上の 51.9%と高い。これらの2つの項目は、9項目のなかでも平均評価点が、それぞれ 3.16, 3.15 と低い。平均評価点がもっとも高いのは、「イ. 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと」(4.32)で、ついで「ア. 女性ということで、同じ勤続年数の男性よりも、給料や昇進で低い評価を受けること」(4.06)と、この2つの項目が4を超える。(図2-1)

【表2-1-1 性・年齢別 人権侵害に該当する事象①】

(ア) 女性ということで、同じ勤続年数の男性よりも、給料や昇進で低い評価を受けること

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	41.5 644	31.4 487	16.8 260	5.2 81	2.8 44	2.3 35	4.06
性別	男性	100.0 574	38.7 222	31.4 180	17.8 102	5.2 30	3.8 22	3.1 18	3.99
	女性	100.0 944	43.5 411	31.3 295	16.2 153	5.3 50	2.3 22	1.4 13	4.10
年齢別	16～19歳	100.0 195	59.0 115	27.7 54	8.7 17	1.0 2	3.6 7	-	4.37
	20歳代	100.0 205	45.9 94	26.3 54	16.1 33	5.9 12	4.9 10	1.0 2	4.03
	30歳代	100.0 226	48.7 110	30.5 69	14.6 33	3.5 8	1.8 4	0.9 2	4.22
	40歳代	100.0 267	53.2 142	30.7 82	9.0 24	4.9 13	1.5 4	0.7 2	4.30
	50歳代	100.0 232	48.7 113	30.6 71	16.4 38	3.0 7	1.3 3	-	4.22
	60歳代	100.0 290	33.8 98	32.4 94	20.3 59	6.9 20	4.5 13	2.1 6	3.86
	70歳以上	100.0 361	26.9 97	33.2 120	23.0 83	6.9 25	3.9 14	6.1 22	3.77

(イ) 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	66.5 1032	13.3 207	8.5 132	2.6 40	7.2 112	1.8 28	4.32
性別	男性	100.0 574	66.9 384	13.1 75	8.7 50	2.4 14	7.1 41	1.7 10	4.32
	女性	100.0 944	66.9 632	13.6 128	8.3 78	2.5 24	7.2 68	1.5 14	4.32
年齢別	16～19歳	100.0 195	75.9 148	11.8 23	6.2 12	2.1 4	4.1 8	-	4.53
	20歳代	100.0 205	70.7 145	12.2 25	7.3 15	2.0 4	7.3 15	0.5 1	4.38
	30歳代	100.0 226	69.9 158	11.5 26	8.4 19	3.1 7	6.6 15	0.4 1	4.36
	40歳代	100.0 267	77.2 206	12.0 32	6.7 18	0.7 2	3.0 8	0.4 1	4.60
	50歳代	100.0 232	72.0 167	12.5 29	8.6 20	2.6 6	4.3 10	-	4.45
	60歳代	100.0 290	68.3 198	13.8 40	5.9 17	2.1 6	9.0 26	1.0 3	4.32
	70歳以上	100.0 361	51.8 187	16.3 59	11.1 40	3.6 13	11.6 42	5.5 20	3.99

(ウ) 障害のある人が結婚したり子どもを育てることに、周囲が反対すること

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	33.1 513	27.1 420	28.3 439	4.4 69	5.2 80	1.9 30	3.80
性別	男性	100.0 574	33.4 192	28.4 163	26.0 149	3.8 22	6.1 35	2.3 13	3.81
	女性	100.0 944	32.8 310	26.7 252	29.8 281	4.4 42	4.8 45	1.5 14	3.80
年齢別	16～19歳	100.0 195	54.4 106	23.6 46	14.4 28	2.6 5	5.1 10	-	4.19
	20歳代	100.0 205	32.2 66	30.2 62	28.8 59	2.9 6	5.4 11	0.5 1	3.81
	30歳代	100.0 226	35.4 80	28.8 65	28.3 64	4.0 9	3.1 7	0.4 1	3.90
	40歳代	100.0 267	34.5 92	28.8 77	31.1 83	3.0 8	2.2 6	0.4 1	3.91
	50歳代	100.0 232	38.4 89	26.3 61	29.7 69	2.6 6	2.6 6	0.4 1	3.96
	60歳代	100.0 290	31.4 91	24.1 70	30.7 89	5.2 15	6.9 20	1.7 5	3.69
	70歳以上	100.0 361	25.8 93	26.9 97	25.8 93	6.4 23	9.7 35	5.5 20	3.56

(エ) 在日外国人の地方参政権を認めていないこと

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	17.6 273	19.7 306	35.1 545	10.7 166	14.2 221	2.6 40	3.16
性別	男性	100.0 574	18.3 105	19.2 110	30.8 177	12.2 70	17.8 102	1.7 10	3.08
	女性	100.0 944	17.1 161	20.2 191	37.8 357	10.0 94	12.2 115	2.8 26	3.21
年齢別	16～19歳	100.0 195	33.3 65	28.7 56	23.1 45	5.6 11	9.2 18	-	3.71
	20歳代	100.0 205	24.4 50	18.5 38	29.8 61	11.7 24	15.6 32	-	3.24
	30歳代	100.0 226	16.4 37	22.1 50	38.5 87	9.3 21	13.3 30	0.4 1	3.19
	40歳代	100.0 267	15.0 40	21.0 56	34.8 93	13.1 35	14.6 39	1.5 4	3.09
	50歳代	100.0 232	20.3 47	23.7 55	35.3 82	9.1 21	11.6 27	-	3.32
	60歳代	100.0 290	15.9 46	19.7 57	36.6 106	11.7 34	14.5 42	1.7 5	3.11
	70歳以上	100.0 361	14.1 51	14.7 53	36.8 133	10.8 39	16.1 58	7.5 27	3.00

【表2-1-1 性・年齢別 人権侵害に該当する事象②】

(オ) 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べること

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	43.3 671	21.8 338	22.2 344	5.0 77	5.5 85	2.3 36	3.95
性別	男性	100.0 574	46.3 266	19.0 109	21.6 124	4.9 28	5.7 33	2.4 14	3.98
	女性	100.0 944	41.4 391	23.6 223	22.8 215	5.0 47	5.4 51	1.8 17	3.92
年齢別	16～19歳	100.0 195	43.1 84	23.6 46	19.0 37	8.7 17	5.1 10	0.5 1	3.91
	20歳代	100.0 205	44.9 92	22.0 45	22.4 46	3.9 8	6.3 13	0.5 1	3.96
	30歳代	100.0 226	43.8 99	30.1 68	18.1 41	3.5 8	3.5 8	0.9 2	4.08
	40歳代	100.0 267	50.9 136	19.9 53	20.6 55	2.6 7	4.5 12	1.5 4	4.12
	50歳代	100.0 232	48.7 113	22.4 52	22.0 51	4.3 10	2.2 5	0.4 1	4.12
	60歳代	100.0 290	37.6 109	21.7 63	28.3 82	5.5 16	5.9 17	1.0 3	3.80
	70歳以上	100.0 361	36.3 131	17.5 63	23.0 83	7.8 28	9.4 34	6.1 22	3.68

(カ) 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること (上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	10.3 159	18.0 279	51.9 805	11.7 181	6.1 95	2.1 32	3.15
性別	男性	100.0 574	11.5 66	20.6 118	48.8 280	10.6 61	7.0 40	1.6 9	3.19
	女性	100.0 944	9.0 85	16.7 158	54.2 512	12.2 115	5.7 54	2.1 20	3.11
年齢別	16～19歳	100.0 195	19.5 38	23.1 45	42.1 82	10.3 20	4.6 9	0.5 1	3.43
	20歳代	100.0 205	8.3 17	20.5 42	46.3 95	15.1 31	8.8 18	1.0 2	3.04
	30歳代	100.0 226	9.7 22	12.8 29	61.5 139	8.4 19	6.6 15	0.9 2	3.11
	40歳代	100.0 267	8.2 22	18.4 49	50.6 135	15.0 40	7.1 19	0.7 2	3.06
	50歳代	100.0 232	7.3 17	21.1 49	52.6 122	12.9 30	5.2 12	0.9 2	3.13
	60歳代	100.0 290	12.1 35	14.1 41	56.2 163	10.7 31	6.2 18	0.7 2	3.15
	70歳以上	100.0 361	10.8 39	21.1 76	47.6 172	9.1 33	5.5 20	5.8 21	3.24

(キ) 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が「夜遅くに外出した」「スキがあった」などと非難すること

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	30.3 470	27.5 427	26.7 414	8.5 132	4.6 72	2.3 36	3.72
性別	男性	100.0 574	26.7 153	28.6 164	28.7 165	8.9 51	5.1 29	2.1 12	3.64
	女性	100.0 944	32.6 308	27.1 256	25.6 242	8.2 77	4.6 43	1.9 18	3.77
年齢別	16～19歳	100.0 195	37.9 74	30.3 59	21.0 41	7.2 14	3.6 7	-	3.92
	20歳代	100.0 205	35.1 72	32.7 67	20.0 41	6.8 14	5.4 11	-	3.85
	30歳代	100.0 226	36.7 83	25.2 57	25.2 57	6.6 15	4.4 10	1.8 4	3.85
	40歳代	100.0 267	37.5 100	27.0 72	22.5 60	7.9 21	4.9 13	0.4 1	3.85
	50歳代	100.0 232	34.1 79	34.1 79	22.0 51	6.9 16	2.6 6	0.4 1	3.90
	60歳代	100.0 290	27.6 80	27.9 81	29.7 86	7.6 22	5.9 17	1.4 4	3.65
	70歳以上	100.0 361	18.3 66	25.2 91	34.1 123	11.4 41	5.3 19	5.8 21	3.42

(ク) HIV（エイズウイルス）感染を理由に、労働者が解雇されること (上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	38.7 600	29.9 463	20.6 320	4.2 65	4.4 68	2.3 35	3.96
性別	男性	100.0 574	34.7 199	32.1 184	21.4 123	4.7 27	5.2 30	1.9 11	3.88
	女性	100.0 944	41.2 389	28.8 272	20.4 193	3.6 34	3.9 37	2.0 19	4.02
年齢別	16～19歳	100.0 195	52.8 103	27.7 54	12.3 24	2.1 4	5.1 10	-	4.21
	20歳代	100.0 205	49.3 101	29.8 61	15.1 31	2.4 5	3.4 7	-	4.19
	30歳代	100.0 226	47.8 108	27.4 62	17.3 39	3.5 8	3.5 8	0.4 1	4.13
	40歳代	100.0 267	43.1 115	33.7 90	18.4 49	3.0 8	1.5 4	0.4 1	4.14
	50歳代	100.0 232	45.3 105	30.6 71	19.8 46	1.7 4	2.2 5	0.4 1	4.16
	60歳代	100.0 290	32.8 95	33.8 98	24.5 71	3.1 9	4.8 14	1.0 3	3.87
	70歳以上	100.0 361	23.8 86	26.3 95	25.8 93	8.3 30	8.9 32	6.9 25	3.51

【表2-1-1 性・年齢別 人権侵害に該当する事象③】

(ケ) 犯罪被害者が名前や住所を報道されること

(上段：％、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1551	42.2 654	20.1 312	18.9 293	6.8 106	9.7 150	2.3 36	3.80
性別	男性	100.0 574	41.3 237	20.6 118	18.6 107	7.3 42	10.5 60	1.7 10	3.76
	女性	100.0 944	43.1 407	20.0 189	19.0 179	6.5 61	9.2 87	2.2 21	3.83
年齢別	16～19歳	100.0 195	37.4 73	26.2 51	17.9 35	8.7 17	9.2 18	0.5 1	3.74
	20歳代	100.0 205	45.4 93	18.5 38	16.6 34	7.8 16	11.7 24	-	3.78
	30歳代	100.0 226	49.1 111	17.3 39	16.8 38	6.6 15	8.8 20	1.3 3	3.92
	40歳代	100.0 267	53.6 143	19.5 52	11.6 31	4.9 13	10.1 27	0.4 1	4.02
	50歳代	100.0 232	48.7 113	20.7 48	16.4 38	4.3 10	9.9 23	-	3.94
	60歳代	100.0 290	37.2 108	21.7 63	22.4 65	7.2 21	10.0 29	1.4 4	3.70
	70歳以上	100.0 361	29.9 108	19.4 70	25.5 92	8.9 32	9.7 35	6.6 24	3.55

平均評価点が高い項目に関しては、性別の相違はあまりみられないが、年齢層による相違がみられる項目もある。例えば、給料や昇進で女性が差別されることへの問題意識は、16～19歳が4.37であるのに対し、60歳代は3.86、70歳以上は3.77である。

他方、平均評価点が低い項目である「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」に関しては、総数の平均評価点は3.16であるのに対し、16～19歳は3.71で比較的高い。20歳代は3.24と若干開きがあり、60歳代は3.11、70歳以上は3.00と低くなっている。性別の相違もみられ、男性3.08、女性3.21と女性の平均評価点は、20歳代(3.24)、30歳代(3.19)に近い数値である。この問題に関する年齢層の変化には特徴がみられる。20歳代までに比べ、30歳代、40歳代(3.09)は相対的に低く、60歳代、70歳以上も低い。50歳代のみは3.32と比較的高い点数を示している。

もう一つの平均評価点が低い項目である「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」(3.15)に関しては、総数では既述のように51.9%が「どちらともいえない」と回答していた。「どちらともいえない」の割合は、性別で見ると男性が48.8%に対し、女性は54.2%である。年齢別では、16～19歳代42.1%、20歳代46.3%であるが、30歳代61.5%、40歳代50.6%、50歳代52.6%、60歳代56.2%、70歳以上47.6%というように、とくに30歳代で、回答に迷う様子が見られる。

以上の2項目を比較すると、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」に関しては、年齢による相違がみられたが、「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」に関しては身近な問題のせい、ほぼ全年齢層が、基本的人権の問題として判断することへの迷いがみられるといえるのではないだろうか。なお、これらの2項目でも若年層の16～19歳と20歳代に若干開きが見られるのは興味深い現象である。すなわち、「エ」の「あてはまる」は16～19歳で62.0%、20歳代で42.9%、「カ」の「あてはまる」は16～19歳で42.6%、20歳代で28.8%と、いずれも16～19歳で高くなっている。

「キ. 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が『夜遅くに外出した』『スキがあった』などと非難すること」については、男女とも「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」は、それぞれ10%未満ではあるが、「よくあてはまる」が男性26.7%、女性32.6%と、必ずしも高い数字となっているとはいえ、70歳以上では人権侵害に「よくあてはまる」と回答したのは18.3%と、性的被害を受けた女性に対する批判の根強さがうかがわれる。(表2-1-1)

平均評価点が低かった「エ」と「カ」に関して経年変化を調べると、以下の表のようである。

【表2-1-2 時系列にみた人権侵害に該当する事象（平均評価点）】

	2000年	2007年	2013年
エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと	3.43	3.42	3.16
カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること	3.34	3.20	3.15

これによると、個別項目の平均評価点は年とともに低下しており、人権侵害としての認識が低くなる傾向がみられる。特に「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」に関しては、2000年、2007年の数値があまり変わらないのに比べ、2013年の数値の低さが目立つ。(表2-1-2)

【表2-1-3 時系列にみた人権侵害に該当する事象（年齢別平均評価点）】

	エ. 在日外国人の地方参政権			カ. 寝たきりの高齢者の施設入所		
	2000年	2007年	2013年	2000年	2007年	2013年
16～19歳	4.09	3.53	3.71	3.55	3.49	3.43
20歳代	3.68	3.78	3.24	3.39	3.31	3.04
30歳代	3.86	3.55	3.19	3.40	3.17	3.11
40歳代	3.73	3.61	3.09	3.31	3.15	3.06
50歳代	3.19	3.28	3.32	3.31	3.18	3.13
60歳代	3.06	3.19	3.11	3.29	3.10	3.15
70歳以上	2.83	3.20	3.00	3.38	3.30	3.24

年齢別にみると、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」についての平均評価点は、2000年から2013年にかけて、40歳代までの年齢層で大きく減少しており、とくに30歳代と40歳代の減少が大きい。

「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」についての平均評価点は、60歳代で2007年から2013年にかけてわずかに上昇しているのを除けば、いずれの年齢層でも2000年から平均評価点は一貫して減少しており、60歳代でも2000年と2013年を比べれば、平均評価点は減少している。その減少率は、50歳以降に比べて、20歳代から40歳代までの年齢層のほうが大きくなっている。(表2-1-3)

今回の調査で相対的に評価点が低い2項目「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」と「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」に関して、問2の「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」という項目とクロスしてみた（これらの表では、問2について、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて「あてはまる」、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせて「あてはまらない」としている。以下、3区分のクロス表については同じ）。

【表2-1-4 「みんな同じがよいという考え」×「在日外国人の地方参政権」】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問1-エ 在日外国人の地方参政権					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 1,551	17.6 273	19.7 306	35.1 545	10.7 166	14.2 221	2.6 40
問2 キ	あてはまる	100.0 972	21.0 204	21.4 208	32.2 313	10.7 104	13.6 132	1.1 11
	どちらともいえない	100.0 420	11.9 50	16.0 67	46.0 193	10.7 45	14.8 62	0.7 3
	あてはまらない	100.0 122	13.1 16	22.1 27	26.2 32	13.9 17	21.3 26	3.3 4

p=0.0000***

【表2-1-5 「みんな同じがよいという考え」×「寝たきりの高齢者の施設入所」】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問1-カ 寝たきりの高齢者の施設入所					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 1,551	10.3 159	18.0 279	51.9 805	11.7 181	6.1 95	2.1 32
問2 キ	あてはまる	100.0 972	12.1 118	19.2 187	51.9 504	10.6 103	5.1 50	1.0 10
	どちらともいえない	100.0 420	6.2 26	16.7 70	58.1 244	11.4 48	7.1 30	0.5 2
	あてはまらない	100.0 122	9.0 11	14.8 18	41.0 50	22.1 27	12.3 15	0.8 1

p=0.0000***

これらの表をみると、回答の選択傾向から、いずれにおいても「どちらともいえない」が多く選択されているが、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」では、問2「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」という意見を支持する層と支持しない層を比較すると、前者には「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」を人権侵害と認める層が多いのに対し後者では「どちらともいえない」は相対的に少なく、「あてはまらない」、

換言すれば「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」は人権侵害ではないとみなす傾向の層が相対的に多いことがわかる。(表2-1-4)

問1の「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」とのクロスで、表が示すように、「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」を支持する層と支持しない層を比較すると、支持する層に「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」を人権侵害とみなす傾向が相対的に高いことがわかる。(表2-1-5)

すなわち、相対的に平均評価点が低かった問1の「エ」「カ」の項目では、問2の「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」という考えを支持する層のなかに、それぞれ人権侵害とみなす傾向が強いといえよう。

つぎに問8の「セ. デモや集会など、市民の自発的な意思表示の機会などには参加するほうだ」と問1の評価点の低かった「エ」と「カ」とのクロス結果をみることにする(これらの表についても「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせて「あてはまる」、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせて「あてはまらない」としている)。

【表2-1-6 「デモや集会などへの参加」×「在日外国人の地方参政権」】

(上段：%、下段：人)

	回答者数	問1-エ 在日外国人の地方参政権					無回答	
		よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
合計	100.0 1,551	17.6 273	19.7 306	35.1 545	10.7 166	14.2 221	2.6 40	
問 8 セ	あてはまる	100.0 66	28.8 19	28.8 19	19.7 13	12.1 8	10.6 7	0.0 0
	どちらともいえない	100.0 234	18.4 43	20.1 47	38.9 91	5.1 12	12.8 30	4.7 11
	あてはまらない	100.0 1,225	16.7 204	19.5 239	35.6 436	11.8 145	14.9 183	1.5 18

p=0.0035**

【表 2-1-7 「デモや集会などへの参加」 × 「寝たきりの高齢者の施設入所」】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問1-カ 寝たきりの高齢者の施設入所					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりはまらない	まったくはまらない	
合計		100.0 1,551	10.3 159	18.0 279	51.9 805	11.7 181	6.1 95	2.1 32
問 8 セ	あてはまる	100.0 66	18.2 12	22.7 15	47.0 31	7.6 5	4.5 3	0.0 0
	どちらともいえない	100.0 234	11.1 26	17.9 42	53.0 124	7.3 17	6.4 15	4.3 10
	あてはまらない	100.0 1,225	9.8 120	17.8 218	52.3 641	12.8 157	6.3 77	1.0 12

p=0.1554

表 2-1-6 から、「自発的意思表示」をする層は、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」を人権侵害とみなす層が多いのに対し、「あてはまらない」層では、そのような明確な傾向はみられない。(表 2-1-6)

つぎに表 2-1-7 が示すように、問 8 の「セ. デモや集会など、市民の自発的な意思表示の機会などには参加するほうだ」について「あてはまる」と回答する層に、「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」を人権侵害とみなす人々が、そうでない人々より多い。(表 2-1-7)

要約すると、以上のクロス表から、次のような特徴がみられた。

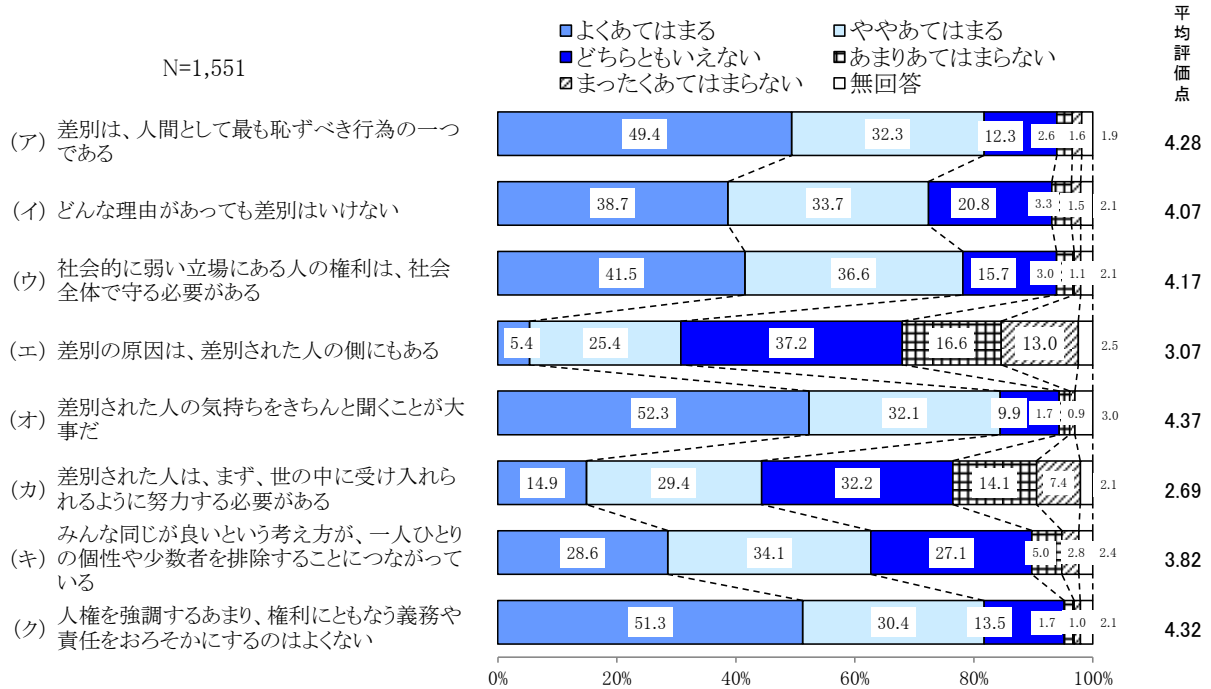
問 1 の 9 項目の中で、平均評価点が低く、かつ経年変化でも平均値が低下傾向にある 2 項目「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」および「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」に関して他の項目とのクロス調査の結果、問 2 の「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」と問 8 の「セ. デモや集会など、市民の自発的な意思表示の機会などには参加するほうだ」を支持する層に、問 1 の「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」を人権侵害とみなす層が多い傾向がみられた。

他方、問 1 の「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」でも同様の傾向がみられたが、問 1 の「エ」ほど明確ではなかった。

(2) 人権や差別問題に対する考え方

問 2 人権や差別の問題について、次のような考え方があります。これらの考え方に対し、あなたはどの程度あてはまるとお考えですか。ア～クのそれぞれについて選んでください。
(○はそれぞれ1つ)

【図 2-2 人権や差別問題に対する考え方】



* 平均評価点(スコア) : (ア)(イ)(ウ)(オ)(キ)(ク)

よくあてはまる	5点
ややあてはまる	4点
どちらともいえない	3点
あまりあてはまらない	2点
まったくあてはまらない	1点
無回答	-点

* 平均評価点(スコア) : (エ)(カ)

よくあてはまる	1点
ややあてはまる	2点
どちらともいえない	3点
あまりあてはまらない	4点
まったくあてはまらない	5点
無回答	-点

人権や差別問題に関する考え方を尋ねると、「よくあてはまる」がもっとも高いのは「オ. 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ」(52.3%)で、ついで「ク. 人権を強調するあまり、権利にともなう義務や責任をおろそかにするのはよくない」(51.3%)、「ア. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」(49.4%)であった。「よくあてはまる」と「まあまああてはまる」を合わせた「あてはまる」の割合は、「オ. 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ」(84.4%)で、ついで「ア. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」(81.7%)、「ク. 人権を強調するあまり、権利にともなう義務や責任をおろそかにするのはよくない」(81.7%)が並んだ。

他方、被差別者に差別の原因を求めたり、努力を強いるといった、差別を他者の責任に押し付ける考え方については、「あてはまる」とする人の割合は比較的低く、「エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある」(30.8%)、「カ. 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある」(44.3%)と、半数を超えない結果となった。

平均評価点でみると、もっとも高いのは「オ. 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ」

(4.37) で、ついで「ク. 人権を強調するあまり、権利にともなう義務や責任をおろそかにするのはよくない」(4.32)、「ア. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」(4.28) であった。

【表2-2-1 性・年齢別 人権や差別問題に対する考え方①】

(ア) 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである

	回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点	
総数	1,551	49.4 766	32.3 501	12.3 190	2.6 40	1.6 25	1.9 29	4.28	
性別	男性	100.0 574	49.5 284	30.1 173	12.9 74	3.8 22	1.4 8	2.3 13	4.25
	女性	100.0 944	49.6 468	33.9 320	11.7 110	1.8 17	1.7 16	1.4 13	4.30
年齢別	16～19歳	100.0 195	50.8 99	34.4 67	11.3 22	2.6 5	1.0 2	-	4.31
	20歳代	100.0 205	40.0 82	40.0 82	15.1 31	3.9 8	1.0 2	-	4.14
	30歳代	100.0 226	46.0 104	36.7 83	14.6 33	1.8 4	0.4 1	0.4 1	4.27
	40歳代	100.0 267	43.8 117	45.3 121	7.9 21	1.9 5	0.7 2	0.4 1	4.30
	50歳代	100.0 232	54.3 126	33.6 78	11.2 26	0.9 2	-	-	4.41
	60歳代	100.0 290	56.2 163	23.8 69	13.8 40	2.8 8	1.7 5	1.7 5	4.32
	70歳以上	100.0 361	51.2 185	23.5 85	12.2 44	3.6 13	4.2 15	5.3 19	4.20

(イ) どんな理由があっても差別はいけない

(上段：%、下段：人)

	回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点	
総数	1,551	38.7 600	33.7 522	20.8 322	3.3 51	1.5 24	2.1 32	4.07	
性別	男性	100.0 574	38.5 221	32.1 184	21.6 124	4.4 25	1.6 9	1.9 11	4.04
	女性	100.0 944	38.8 366	35.2 332	20.0 189	2.6 25	1.5 14	1.9 18	4.09
年齢別	16～19歳	100.0 195	45.6 89	29.2 57	19.0 37	4.1 8	2.1 4	-	4.12
	20歳代	100.0 205	28.3 58	36.1 74	25.9 53	6.8 14	2.9 6	-	3.80
	30歳代	100.0 226	33.2 75	41.6 94	21.2 48	2.2 5	1.3 3	0.4 1	4.04
	40歳代	100.0 267	32.2 86	42.7 114	20.6 55	3.0 8	0.7 2	0.7 2	4.03
	50歳代	100.0 232	41.4 96	37.5 87	18.5 43	2.2 5	0.4 1	-	4.17
	60歳代	100.0 290	41.4 120	29.0 84	23.4 68	2.4 7	1.7 5	2.1 6	4.08
	70歳以上	100.0 361	45.7 165	23.3 84	18.8 68	3.9 14	2.5 9	5.8 21	4.12

(ウ) 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある

	回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点	
総数	1,551	41.5 644	36.6 568	15.7 244	3.0 46	1.1 17	2.1 32	4.17	
性別	男性	100.0 574	43.4 249	35.5 204	14.6 84	3.0 17	1.0 6	2.4 14	4.20
	女性	100.0 944	40.3 380	37.7 356	16.2 153	3.1 29	1.2 11	1.6 15	4.15
年齢別	16～19歳	100.0 195	40.0 78	43.6 85	13.8 27	2.1 4	0.5 1	-	4.21
	20歳代	100.0 205	31.2 64	41.5 85	19.5 40	5.9 12	1.0 2	1.0 2	3.97
	30歳代	100.0 226	39.4 89	35.8 81	19.9 45	3.1 7	0.4 1	1.3 3	4.12
	40歳代	100.0 267	38.2 102	42.7 114	16.1 43	2.2 6	0.4 1	0.4 1	4.17
	50歳代	100.0 232	40.1 93	41.4 96	15.5 36	1.7 4	-	1.3 3	4.21
	60歳代	100.0 290	41.4 120	35.5 103	15.2 44	4.5 13	2.1 6	1.4 4	4.11
	70歳以上	100.0 361	51.2 185	27.1 98	13.0 47	1.4 5	2.2 8	5.0 18	4.30

(エ) 差別の原因は、差別された人の側にもある

(上段：%、下段：人)

	回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点	
総数	1,551	5.4 83	25.4 394	37.2 577	16.6 258	13.0 201	2.5 38	3.07	
性別	男性	100.0 574	7.3 42	26.5 152	36.4 209	15.2 87	12.7 73	1.9 11	2.99
	女性	100.0 944	4.0 38	24.8 234	37.7 356	17.8 168	13.0 123	2.6 25	3.11
年齢別	16～19歳	100.0 195	10.3 20	27.7 54	39.5 77	12.8 25	9.7 19	-	2.84
	20歳代	100.0 205	5.4 11	27.3 56	40.0 82	18.5 38	8.3 17	0.5 1	2.97
	30歳代	100.0 226	3.1 7	18.1 41	38.9 88	25.2 57	13.7 31	0.9 2	3.29
	40歳代	100.0 267	3.0 8	25.8 69	38.6 103	16.9 45	15.0 40	0.7 2	3.15
	50歳代	100.0 232	3.4 8	25.4 59	37.1 86	19.0 44	14.7 34	0.4 1	3.16
	60歳代	100.0 290	4.1 12	23.8 69	37.2 108	18.6 54	14.1 41	2.1 6	3.15
	70歳以上	100.0 361	9.1 33	28.3 102	34.9 126	9.1 33	11.9 43	6.6 24	2.85

【表2-2-1 性・年齢別 人権や差別問題に対する考え方②】

(オ) 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	52.3 811	32.1 498	9.9 154	1.7 27	0.9 14	3.0 47	4.37
性別	男性	100.0 574	50.9 292	33.1 190	10.1 58	2.1 12	0.7 4	3.1 18	4.36
	女性	100.0 944	53.4 504	31.8 300	9.7 92	1.5 14	1.0 9	2.6 25	4.39
年齢別	16～19歳	100.0 195	55.4 108	34.9 68	8.7 17	- -	- -	1.0 2	4.47
	20歳代	100.0 205	47.8 98	41.0 84	7.8 16	2.0 4	1.0 2	0.5 1	4.33
	30歳代	100.0 226	52.2 118	32.7 74	11.1 25	2.2 5	0.4 1	1.3 3	4.36
	40歳代	100.0 267	51.3 137	38.2 102	9.0 24	0.7 2	0.4 1	0.4 1	4.40
	50歳代	100.0 232	55.2 128	34.1 79	9.5 22	0.9 2	- -	0.4 1	4.44
	60歳代	100.0 290	53.1 154	26.9 78	14.5 42	1.4 4	1.4 4	2.8 8	4.33
	70歳以上	100.0 361	54.0 195	25.5 92	8.3 30	2.2 8	1.9 7	8.0 29	4.39

(カ) 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある
(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	14.9 231	29.4 456	32.2 499	14.1 218	7.4 114	2.1 33	2.69
性別	男性	100.0 574	15.0 86	29.3 168	31.5 181	13.8 79	8.9 51	1.6 9	2.72
	女性	100.0 944	14.1 133	29.3 277	32.9 311	14.7 139	6.6 62	2.3 22	2.70
年齢別	16～19歳	100.0 195	14.4 28	33.8 66	33.8 66	15.4 30	2.6 5	- -	2.58
	20歳代	100.0 205	15.6 32	25.9 53	40.0 82	12.2 25	5.9 12	0.5 1	2.67
	30歳代	100.0 226	9.3 21	27.4 62	32.7 74	20.4 46	9.3 21	0.9 2	2.93
	40歳代	100.0 267	7.5 20	29.6 79	34.5 92	21.7 58	6.4 17	0.4 1	2.90
	50歳代	100.0 232	7.8 18	29.3 68	39.2 91	13.8 32	9.1 21	0.9 2	2.87
	60歳代	100.0 290	12.8 37	30.3 88	31.7 92	14.1 41	9.3 27	1.7 5	2.76
	70歳以上	100.0 361	27.7 100	29.6 107	23.5 85	7.2 26	6.4 23	5.5 20	2.31

(キ) みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	28.6 443	34.1 529	27.1 420	5.0 78	2.8 44	2.4 37	3.82
性別	男性	100.0 574	24.9 143	33.4 192	29.8 171	5.9 34	4.4 25	1.6 9	3.70
	女性	100.0 944	30.8 291	35.1 331	25.3 239	4.3 41	1.8 17	2.6 25	3.91
年齢別	16～19歳	100.0 195	35.9 70	28.2 55	27.7 54	7.2 14	1.0 2	- -	3.91
	20歳代	100.0 205	35.1 72	35.6 73	21.0 43	5.4 11	2.9 6	- -	3.95
	30歳代	100.0 226	32.3 73	31.0 70	29.2 66	5.3 12	1.8 4	0.4 1	3.87
	40歳代	100.0 267	32.2 86	40.1 107	19.5 52	5.6 15	1.9 5	0.7 2	3.96
	50歳代	100.0 232	31.5 73	39.2 91	21.6 50	5.6 13	1.7 4	0.4 1	3.94
	60歳代	100.0 290	29.3 85	33.8 98	27.6 80	4.8 14	2.4 7	2.1 6	3.85
	70歳以上	100.0 361	20.2 73	27.4 99	36.8 133	3.6 13	5.3 19	6.6 24	3.58

(ク) 人権を強調するあまり、権利にともなう義務や責任をおろそかにするのはよくない
(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	51.3 795	30.4 472	13.5 209	1.7 26	1.0 16	2.1 33	4.32
性別	男性	100.0 574	50.0 287	31.7 182	13.4 77	2.4 14	0.9 5	1.6 9	4.30
	女性	100.0 944	52.2 493	29.8 281	13.7 129	1.1 10	1.1 10	2.2 21	4.34
年齢別	16～19歳	100.0 195	42.1 82	36.4 71	21.0 41	0.5 1	- -	- -	4.20
	20歳代	100.0 205	51.7 106	32.2 66	14.6 30	0.5 1	1.0 2	- -	4.33
	30歳代	100.0 226	53.5 121	28.3 64	16.4 37	0.9 2	- -	0.9 2	4.36
	40歳代	100.0 267	53.9 144	32.6 87	11.6 31	0.4 1	0.4 1	1.1 3	4.41
	50歳代	100.0 232	49.1 114	34.9 81	14.2 33	0.9 2	0.9 2	- -	4.31
	60歳代	100.0 290	49.3 143	33.1 96	11.7 34	3.1 9	2.1 6	0.7 2	4.25
	70歳以上	100.0 361	52.1 188	23.8 86	13.6 49	2.5 9	1.7 6	6.4 23	4.30

平均評価点を性別でみると、「エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある」と「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」の2つは女性のほうがやや高く、それ以外では同程度で、いずれも性別による大きな差はみられない。

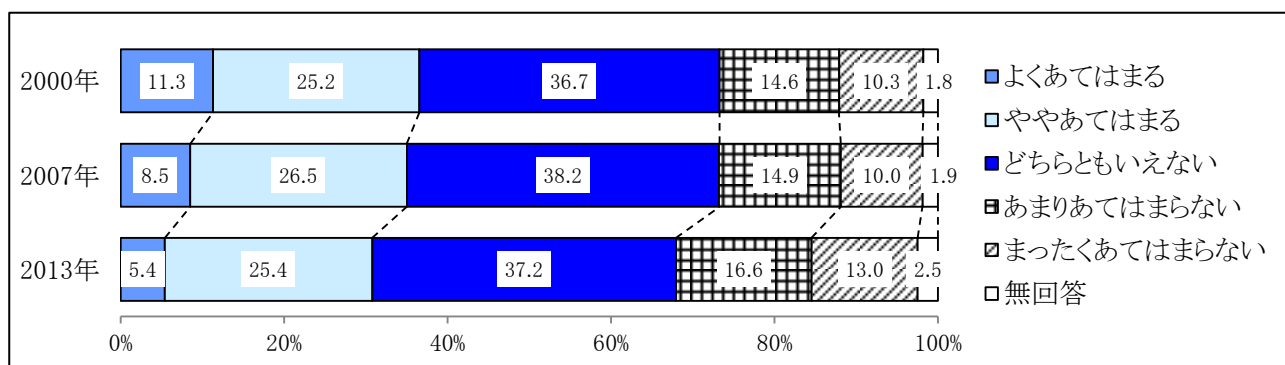
年齢別にみると、「よくあてはまる」という回答は、「ア. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」では、50歳代、60歳代で多く、「イ. どんな理由があっても差別はいけない」では、16～19歳と70歳以上で多い。また、「ウ. 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある」では、70歳以上で多く、「オ. 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ」では、16～19歳、50歳代、60歳代、70歳以上で多くなっている。差別は恥ずべき行為で、どのような理由があろうとも差別を否定し、弱者や当事者の側に寄り添うことが大事だと考えるのは、50歳代以上に多くみられる。ここで注目されるのは、「ア」「イ」「ウ」「オ」において、「よくあてはまる」がもっとも少なかったのが、いずれも20歳代であったということである。平均評価点でも、この4つの項目については、20歳代がそれぞれもっとも低くなっている。そして、「エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある」で「よくあてはまる」と回答したのは、16～19歳と70歳以上に多く、「カ. 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある」では、「よくあてはまる」の回答は、16～19歳、20歳代、70歳以上に多い。

反差別の感情と、弱者や被差別者への共感の弱さが、20歳代の人たちにみられるとともに、被差別者に差別の原因を求めたり、努力を強いるという見方をもつ人が16～19歳と20歳代に少なくないことは、近年の学校における人権教育の課題の大きさを示唆するものといえる。(表2-2-1)

問2については、2000年調査、2007年調査でも同様の項目を尋ねている。過去の回答と比較してみたとき、いくつかの項目については、回答の変化をみることができる。

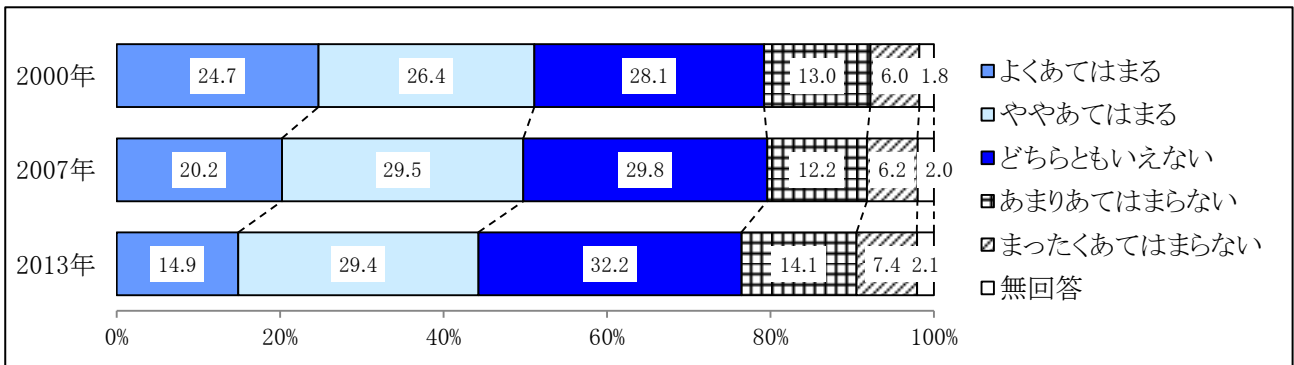
【図2-2-1 人権や差別問題に対する考え方(経年変化)①】

(エ) 差別の原因は、差別された人の側にもある



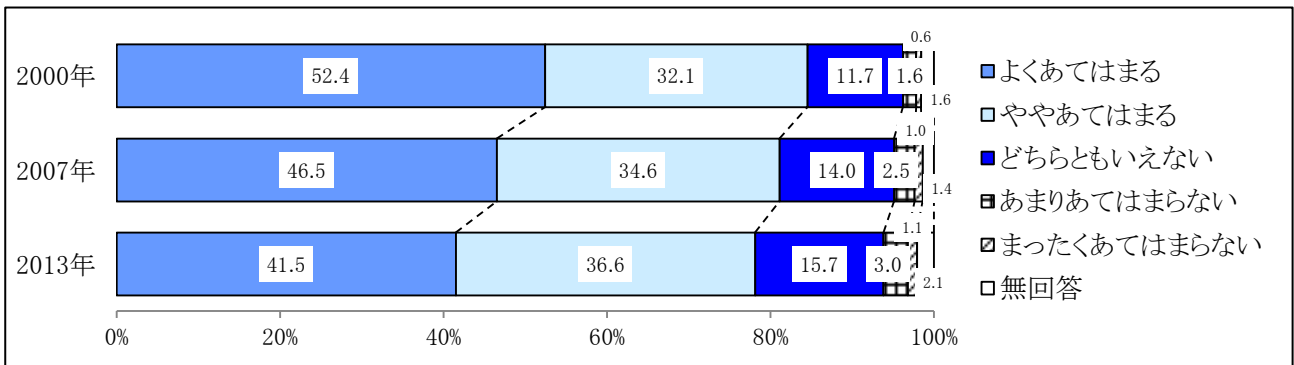
【図2-2-1 人権や差別問題に対する考え方（経年変化）②】

(カ) 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある



【図2-2-1 人権や差別問題に対する考え方（経年変化）③】

(ウ) 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある

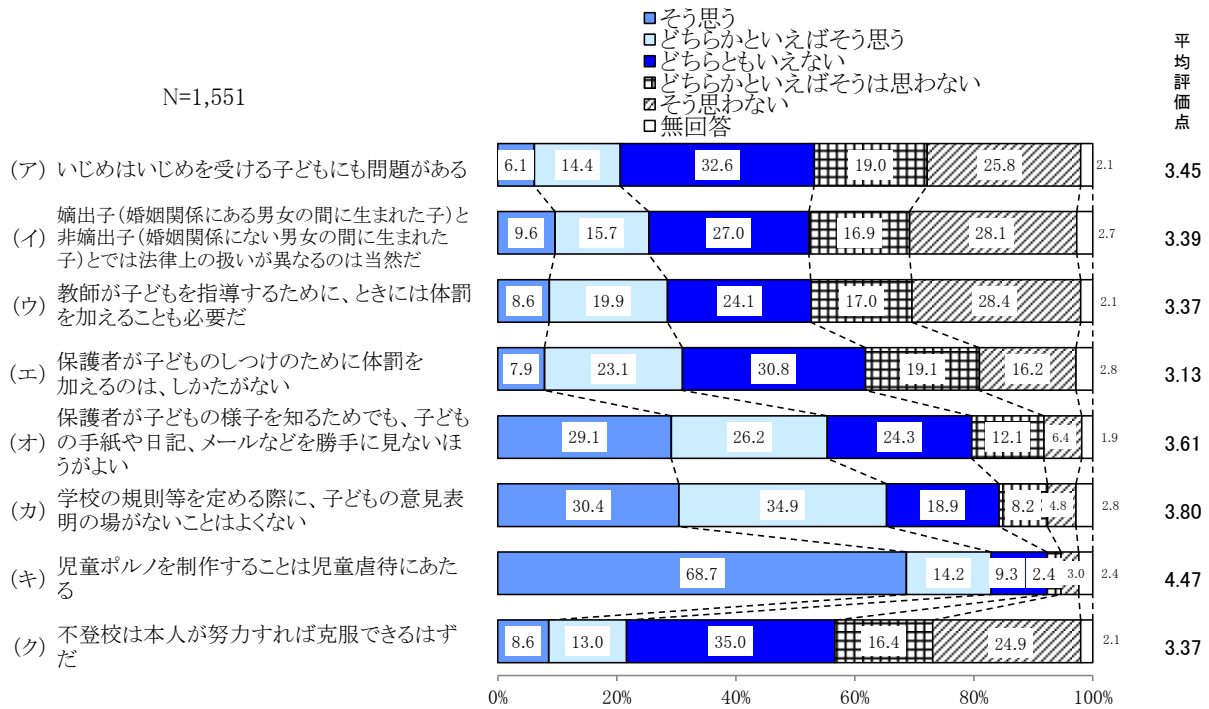


まず、差別を他者の責任に押し付ける考え方である「エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある」と「カ. 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある」について、「あてはまる」とするものの割合が顕著に減っていることを指摘できる。ただし、同時に、「ウ. 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある」の項目についても、「あてはまる」とするものの割合が減りつつあることには注意が必要だ。今後の動向を注視していく必要があるだろう。(図2-2-1)

(3) 子どもの人権について

問3 あなたは、子どもの人権に関する次のような意見についてどのように思いますか。
 ア～クのそれぞれについて、最もお考えに近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図2-3 子どもの人権について】



* 平均評価点(スコア):(ア)(イ)(ウ)(エ)(ク)

そう思う	1点
どちらかといえばそう思う	2点
どちらともいえない	3点
どちらかといえばそうは思わない	4点
そう思わない	5点
無回答	-点

* 平均評価点(スコア):(オ)(カ)(キ)

そう思う	5点
どちらかといえばそう思う	4点
どちらともいえない	3点
どちらかといえばそうは思わない	2点
そう思わない	1点
無回答	-点

子どもの人権について尋ねると、「ア. いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある」「イ. 嫡出子と非嫡出子とでは法律上の扱いが異なるのは当然だ」「ウ. 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」「エ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのは、しかたがない」「ク. 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ」、以上の5つの項目については、「そう思わない」という回答が「そう思う」を大きく上回っている。この5つは、いずれも「そう思う」の構成比が10%を下回っており、「そう思わない」は、「エ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのは、しかたがない」(16.2%)を除き、20%を超えている。

これに対し、「オ. 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい」「カ. 学校の規則等を定める際に、子供の意見表明の場がないことはよくない」「キ. 児童ポルノを制作することは児童虐待にあたる」、以上の3つの項目については、「そう思う」が「そう思わない」を大きく上回っている。とりわけ、「キ. 児童ポルノを制作することは児童虐待にあたる」では、「そう思う」という回答が68.7%を占めており、「どちらかといえばそう思う」を加えると、82.9%となる。(図2-3)

【表2-3-1 性・年齢別 子どもの人権について①】

(ア) いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある

		回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない	ど ち ら か と い え ば そ う	そ う 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	6.1 95	14.4 224	32.6 506	19.0 294	25.8 400	2.1 32		3.45
性別	男性	100.0 574	6.3 36	12.9 74	30.7 176	19.9 114	28.6 164	1.7 10		3.52
	女性	100.0 944	5.9 56	15.1 143	33.9 320	18.8 177	24.4 230	1.9 18		3.41
年齢別	16～19歳	100.0 195	10.3 20	25.1 49	34.9 68	14.4 28	15.4 30	-		2.99
	20歳代	100.0 205	7.8 16	18.5 38	33.7 69	17.6 36	22.4 46	-		3.28
	30歳代	100.0 226	4.0 9	19.0 43	35.0 79	16.4 37	25.2 57	0.4 1		3.40
	40歳代	100.0 267	5.6 15	12.4 33	34.5 92	21.3 57	25.5 68	0.7 2		3.49
	50歳代	100.0 232	2.6 6	9.9 23	36.2 84	24.6 57	26.7 62	-		3.63
	60歳代	100.0 290	4.5 13	10.0 29	26.9 78	23.8 69	32.4 94	2.4 7		3.71
	70歳以上	100.0 361	8.6 31	15.8 57	33.2 120	13.6 49	23.5 85	5.3 19		3.29

(イ) 嫡出子（婚姻関係にある男女の間に生まれた子）と非嫡出子（婚姻関係にない男女の間に生まれた子）とでは法律上の扱いが異なるのは当然だ
(上段：%、下段：人)

		回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない	ど ち ら か と い え ば そ う	そ う 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	9.6 149	15.7 244	27.0 418	16.9 262	28.1 436	2.7 42		3.39
性別		100.0 574	8.7 50	15.3 88	25.6 147	17.8 102	30.3 174	2.3 13		3.47
女性		100.0 944	10.2 96	16.3 154	27.6 261	16.5 156	26.7 252	2.6 25		3.34
年齢別		100.0 195	9.2 18	11.8 23	26.7 52	15.9 31	34.9 68	1.5 3		3.56
20歳代		100.0 205	12.7 26	14.6 30	23.9 49	21.0 43	27.8 57	-		3.37
30歳代		100.0 226	8.4 19	19.0 43	28.8 65	16.8 38	26.5 60	0.4 1		3.34
40歳代		100.0 267	7.1 19	19.9 53	28.8 77	17.6 47	25.5 68	1.1 3		3.35
50歳代		100.0 232	7.8 18	15.1 35	28.4 66	19.4 45	28.4 66	0.9 2		3.46
60歳代		100.0 290	9.0 26	15.9 46	24.5 71	15.2 44	33.1 96	2.4 7		3.49
70歳以上		100.0 361	12.2 44	13.3 48	26.0 94	16.1 58	25.5 92	6.9 25		3.32

(ウ) 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ

		回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない	ど ち ら か と い え ば そ う	そ う 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	8.6 134	19.9 308	24.1 374	17.0 263	28.4 440	2.1 32		3.37
性別	男性	100.0 574	11.7 67	24.6 141	22.6 130	13.6 78	25.1 144	2.4 14		3.16
	女性	100.0 944	6.8 64	17.3 163	25.1 237	19.1 180	30.4 287	1.4 13		3.50
年齢別	16～19歳	100.0 195	12.8 25	18.5 36	21.5 42	19.0 37	27.7 54	0.5 1		3.30
	20歳代	100.0 205	7.8 16	22.4 46	30.7 63	17.6 36	21.0 43	0.5 1		3.22
	30歳代	100.0 226	8.8 20	19.9 45	27.0 61	20.4 46	23.5 53	0.4 1		3.30
	40歳代	100.0 267	8.2 22	21.0 56	23.6 63	22.1 59	24.0 64	1.1 3		3.33
	50歳代	100.0 232	4.7 11	17.2 40	26.7 62	19.4 45	31.9 74	-		3.56
	60歳代	100.0 290	9.0 26	17.6 51	23.1 67	15.2 44	33.4 97	1.7 5		3.47
	70歳以上	100.0 361	11.4 41	21.6 78	19.9 72	12.2 44	29.6 107	5.3 19		3.29

(エ) 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのは、しかたがない
(上段：%、下段：人)

		回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない	ど ち ら か と い え ば そ う	そ う 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	7.9 122	23.1 359	30.8 477	19.1 297	16.2 252	2.8 44		3.13
性別		100.0 574	9.9 57	28.2 162	26.3 151	16.7 96	15.7 90	3.1 18		3.00
女性		100.0 944	6.6 62	20.2 191	33.5 316	20.9 197	16.5 156	2.3 22		3.21
年齢別		100.0 195	8.2 16	20.5 40	29.7 58	16.4 32	25.1 49	-		3.30
20歳代		100.0 205	8.8 18	26.8 55	29.3 60	19.5 40	14.6 30	1.0 2		3.04
30歳代		100.0 226	4.9 11	21.7 49	35.8 81	19.9 45	16.8 38	0.9 2		3.22
40歳代		100.0 267	7.5 20	22.5 60	30.3 81	22.1 59	16.1 43	1.5 4		3.17
50歳代		100.0 232	3.4 8	17.7 41	38.4 89	22.8 53	17.2 40	0.4 1		3.33
60歳代		100.0 290	10.3 30	21.4 62	29.0 84	21.7 63	13.8 40	3.8 11		3.08
70歳以上		100.0 361	10.5 38	28.8 104	25.2 91	13.6 49	15.8 57	6.1 22		2.95

【表2-3-1 性・年齢別 子どもの人権について②】

(オ) 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい

	回答者数	そう思う	思う どちらかといえ ばそう	どちらともい えない	どちらかとい え ば そ う は 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	29.1 452	26.2 406	24.3 377	12.1 188	6.4 99	1.9 29	3.61	
性別	男性	100.0 574	27.7 159	26.0 149	24.4 140	12.5 72	7.1 41	2.3 13	3.56
	女性	100.0 944	29.7 280	26.8 253	24.2 228	12.0 113	6.0 57	1.4 13	3.63
年齢別	16～19歳	100.0 195	49.7 97	28.7 56	9.7 19	7.7 15	3.6 7	0.5 1	4.14
	20歳代	100.0 205	32.7 67	28.8 59	22.9 47	9.8 20	5.9 12	-	3.73
	30歳代	100.0 226	23.9 54	30.1 68	29.2 66	12.8 29	3.5 8	0.4 1	3.58
	40歳代	100.0 267	24.7 66	28.8 77	22.8 61	16.1 43	6.4 17	1.1 3	3.50
	50歳代	100.0 232	29.3 68	29.7 69	29.3 68	10.3 24	1.3 3	-	3.75
	60歳代	100.0 290	29.3 85	24.5 71	25.2 73	10.7 31	7.9 23	2.4 7	3.58
	70歳以上	100.0 361	28.8 104	20.8 75	22.4 81	13.0 47	10.5 38	4.4 16	3.46

(カ) 学校の規則等を定める際に、子どもの意見表明の場がないこ
とはよくない (上段：%、下段：人)

	回答者数	そう思う	思う どちらかといえ ばそう	どちらともい えない	どちらかとい え ば そ う は 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	30.4 472	34.9 541	18.9 293	8.2 127	4.8 74	2.8 44	3.80	
性別	男性	100.0 574	30.0 172	33.4 192	19.7 113	8.7 50	5.9 34	2.3 13	3.75
	女性	100.0 944	30.9 292	35.8 338	18.5 175	8.1 76	3.8 36	2.9 27	3.84
年齢別	16～19歳	100.0 195	42.1 82	32.3 63	15.9 31	5.6 11	3.6 7	0.5 1	4.04
	20歳代	100.0 205	35.1 72	32.2 66	22.0 45	7.3 15	2.9 6	0.5 1	3.90
	30歳代	100.0 226	25.2 57	40.7 92	21.7 49	8.8 20	2.2 5	1.3 3	3.79
	40歳代	100.0 267	26.6 71	44.2 118	13.1 35	9.4 25	5.6 15	1.1 3	3.78
	50歳代	100.0 232	28.0 65	37.5 87	22.0 51	9.1 21	3.0 7	0.4 1	3.79
	60歳代	100.0 290	32.4 94	29.0 84	21.0 61	8.6 25	6.6 19	2.4 7	3.74
	70歳以上	100.0 361	34.3 124	27.7 100	19.4 70	6.6 24	5.0 18	6.9 25	3.86

(キ) 児童ポルノを制作することは児童虐待にあたる

	回答者数	そう思う	思う どちらかといえ ばそう	どちらともい えない	どちらかとい え ば そ う は 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	68.7 1065	14.2 221	9.3 145	2.4 37	3.0 46	2.4 37	4.47	
性別	男性	100.0 574	64.8 372	15.7 90	12.0 69	2.3 13	3.3 19	1.9 11	4.39
	女性	100.0 944	71.6 676	13.6 128	7.6 72	2.2 21	2.6 25	2.3 22	4.53
年齢別	16～19歳	100.0 195	43.1 84	14.4 28	27.2 53	7.2 14	7.7 15	0.5 1	3.78
	20歳代	100.0 205	50.2 103	19.5 40	19.0 39	4.4 9	6.8 14	-	4.02
	30歳代	100.0 226	66.4 150	18.1 41	10.6 24	1.8 4	2.7 6	0.4 1	4.44
	40歳代	100.0 267	72.3 193	16.1 43	6.7 18	2.2 6	1.5 4	1.1 3	4.57
	50歳代	100.0 232	78.9 183	11.6 27	6.9 16	0.9 2	1.7 4	-	4.65
	60歳代	100.0 290	71.0 206	12.4 36	8.3 24	2.4 7	3.4 10	2.4 7	4.49
	70歳以上	100.0 361	68.4 247	12.5 45	8.6 31	1.4 5	3.0 11	6.1 22	4.51

(ク) 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ

	回答者数	そう思う	思う どちらかといえ ばそう	どちらともい えない	どちらかとい え ば そ う は 思 わ な い	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	8.6 133	13.0 202	35.0 543	16.4 255	24.9 386	2.1 32	3.37	
性別	男性	100.0 574	9.4 54	15.9 91	33.8 194	17.2 99	21.6 124	2.1 12	3.26
	女性	100.0 944	7.6 72	11.3 107	36.3 343	16.2 153	26.8 253	1.7 16	3.44
年齢別	16～19歳	100.0 195	13.8 27	18.5 36	34.9 68	15.9 31	16.9 33	-	3.04
	20歳代	100.0 205	5.9 12	13.2 27	37.1 76	20.5 42	23.4 48	-	3.42
	30歳代	100.0 226	4.0 9	8.0 18	39.4 89	23.0 52	24.8 56	0.9 2	3.57
	40歳代	100.0 267	3.4 9	10.1 27	31.1 83	22.5 60	31.8 85	1.1 3	3.70
	50歳代	100.0 232	2.6 6	9.5 22	36.6 85	17.2 40	34.1 79	-	3.71
	60歳代	100.0 290	9.0 26	12.4 36	35.2 102	13.8 40	27.9 81	1.7 5	3.40
	70歳以上	100.0 361	18.3 66	18.6 67	36.6 132	8.9 32	12.5 45	5.3 19	2.77

性別による差がみられるのは、「ウ．教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」「エ．保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのは、しかたがない」で、こうした意見を肯定する回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計）が男性のほうで多くなっている。肯定する回答は、「ウ」で男性 36.3%、女性 24.1%、「エ」で男性 38.1%、女性 26.8%である。しかし、「ウ」と「エ」以外については、性別による差はそれほどみられない。

年齢別にみると、「ア」「ク」を肯定するのは、16～19歳でやや多く、「イ」「ウ」「エ」を肯定するのは20歳代でやや多くなっている（「イ」「ク」については70歳以上、「エ」については60歳代と70歳以上でも肯定する回答が多くみられる）。いじめを受ける子どもにも問題があると考えたり、嫡出子と非嫡出子とのあいだの法律上の異なる扱いや、教師や保護者による体罰を肯定し、不登校を本人の問題とみるという回答が16～19歳や20歳代といった若い人たちに多くみられるのである。また、「キ．児童ポルノを制作することは児童虐待にあたる」という意見を否定する回答（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の計）は、16～19歳と20歳代で多いことが目立っている（「キ」の平均評価点は、総数が4.47であるが、16～19歳は3.78、20歳代は4.02である）。

年齢が若くなるほど、人権に対する理解が高いという傾向が一般的にみられるといわれるが、今回の調査では、若年層で子どもの人権についての理解が十分ではない点がみとめられるのである。しかし、「オ」と「カ」に関しては、肯定する回答が16～19歳で多くなっており（平均評価点は、「オ」で総数3.61に対し、16～19歳は4.14、「カ」で総数3.80に対し、16～19歳は4.04である）、「ア」「イ」「ウ」「エ」「ク」とは異なった結果を示している。（表2-3-1）

【表2-3-2 子どもの人権について（前回の調査結果との比較）】

(%)

		（よくあてはまる） そう思わない	（まあまああてはまる） どちらかといえば そう思わない	（どちらともいえない） どちらともいえない	（あまりあてはまらない） どちらかといえば そう思う	（まったくあてはまらない） そう思う
教師による体罰	2007年	16.2	20.9	38.4	16.2	6.9
	2013年	28.4	17.0	24.1	19.9	8.6
保護者による体罰	2007年	16.7	18.6	37.1	17.3	8.6
	2013年	16.2	19.1	30.8	23.1	7.9

*前回の調査では、「教師が児童・生徒に体罰を行うこと」と「親が子どものしつけのために体罰を行うこと」について、それらが人権侵害にあてはまるかどうか、問う設問となっていた。

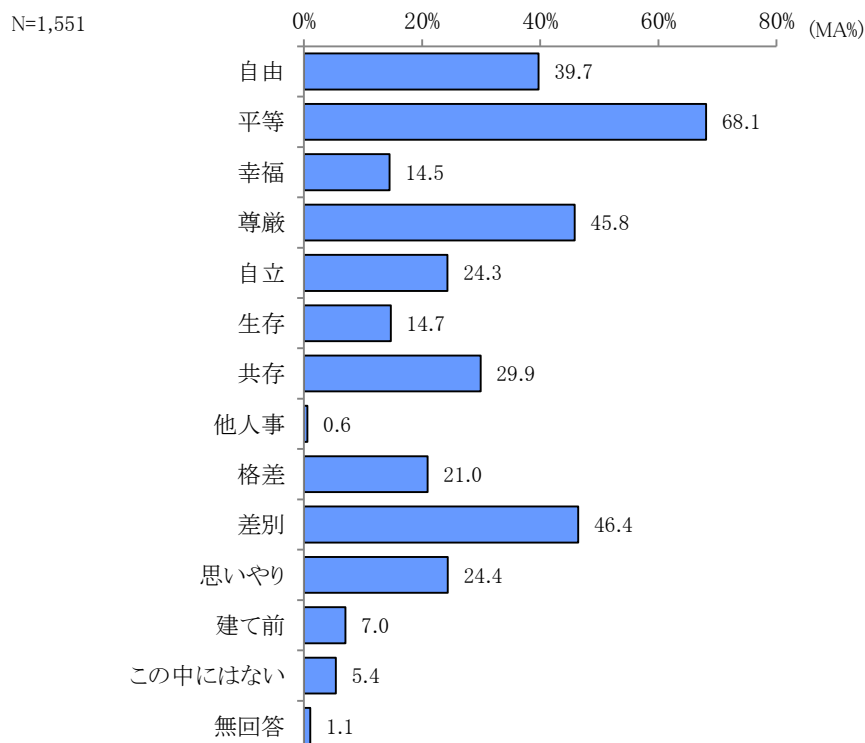
前回の調査（2007年）では、「教師が、児童・生徒に体罰を行うこと」と「親が、子どものしつけのために体罰を行うこと」について、人権侵害にあてはまると思うかという設問があった。今回の調査と問い方が異なるので、厳密な比較はできないが、「教師の体罰は必要だ」については、「そう思わない」（人権侵害に「あてはまる」）が今回28.4%、前回16.2%、「保護者の体罰はしかたがない」については、「そう思わない」（人権侵害に「あてはまる」）が今回16.2%、前回16.7%で、教師の体罰を問題視

する回答がやや増えているが、保護者の体罰を問題視する回答はあまり変わらないように見える。教師の体罰を否定する意見がやや増えているのは、大阪市の高校で教師の体罰に起因する生徒の自殺があった後なので、その影響があったのかもしれない。しかし、子ども虐待に対する社会の関心が高まってきているといわれるが、今回の調査では、そうした関心の高まりは反映されてはいないといえる。なお、平均評価点は、教師の体罰で今回 3.37、前回 3.23、保護者の体罰で今回 3.13、前回 3.18 である。(表 2-3-2)

(4) 「人権」という言葉から連想すること

問4 あなたは、「人権」という言葉からどのようなことを連想しますか。(〇はいくつでも)

【図2-4 「人権」という言葉から連想すること】



「人権」という言葉から連想することを尋ねると、「平等」(68.1%)がもっとも多く、つぎに「差別」(46.4%)が続く。「平等」と「差別」が多くあがったのは、一般に「人権」が差別問題との関連で語られることが多いためと推察される。とりわけ、1970年代から90年代にかけて、関西地方の小中高校で同和問題が重要な人権問題として教えられることが多かったことも影響しているのであろう。また、人権に関しては、日本国憲法や世界人権宣言などで、「個人の尊厳」や「自由」が強調されているが、「尊厳」(45.8%)と「自由」(39.7%)の回答は4割前後にとどまっている。「生存」(14.7%)や「幸福」(14.5%)も低位である。「他人事」や「建て前」といった消極的な回答は少なかったものの、「尊厳」や「自由」が少なく、「平等」と「差別」が多くあがったことから、人権を自分自身にかかわる権利としてではなく、不平等な状態に置かれ、差別されている特定の人たちの問題とみている人が多いのかもしれない。(図2-4)

【表 2-4-1 性・年齢別 「人権」という言葉から連想すること】

(上段：%、下段：人)

		自由	平等	幸福	尊厳	自立	生存	共存	他人事	格差	差別	思いやり	建て前	この中にはない	無回答	
総数		100.0 1,551	39.7 616	68.1 1,056	14.5 225	45.8 711	24.3 377	14.7 228	29.9 464	0.6 9	21.0 325	46.4 720	24.4 378	7.0 109	5.4 84	1.1 17
性別	男性	100.0 574	44.1 253	69.5 399	13.9 80	41.5 238	24.9 143	17.4 100	32.2 185	0.3 2	21.3 122	46.2 265	25.3 145	5.9 34	5.4 31	1.7 10
	女性	100.0 944	37.2 351	67.5 637	14.4 136	48.3 456	23.9 226	12.9 122	28.4 268	0.6 6	20.8 196	46.9 443	23.3 220	7.7 73	5.3 50	0.4 4
年齢別	16～19歳	100.0 195	48.2 94	73.8 144	20.0 39	35.9 70	17.9 35	17.4 34	33.3 65	1.0 2	22.1 43	47.2 92	17.9 35	5.6 11	7.7 15	0.5 1
	20歳代	100.0 205	34.6 71	66.3 136	13.2 27	41.5 85	16.1 33	15.6 32	27.3 56	1.0 2	20.0 41	49.3 101	15.6 32	9.8 20	7.3 15	- -
	30歳代	100.0 226	32.7 74	63.3 143	8.8 20	48.2 109	23.9 54	10.6 24	23.5 53	0.4 1	21.2 48	46.0 104	15.0 34	7.1 16	5.8 13	0.4 1
	40歳代	100.0 267	31.5 84	65.9 176	7.5 20	52.1 139	20.6 55	13.5 36	23.2 62	0.7 2	20.6 55	41.6 111	15.0 40	8.2 22	1.9 5	1.1 3
	50歳代	100.0 232	36.2 84	72.8 169	13.4 31	46.6 108	20.3 47	15.5 36	34.5 80	0.9 2	22.0 51	50.0 116	22.4 52	10.8 25	4.3 10	- -
	60歳代	100.0 290	47.9 139	69.3 201	20.7 60	46.6 135	24.5 71	18.3 53	33.8 98	0.3 1	20.0 58	46.6 135	34.1 99	4.5 13	5.5 16	0.7 2
	70歳以上	100.0 361	46.8 169	68.4 247	19.9 72	40.2 145	32.7 118	15.2 55	32.7 118	0.6 2	21.3 77	46.8 169	32.4 117	5.8 21	7.5 27	2.5 9

性別で見ると、男女ともに「平等」（男性 69.5%、女性 67.5%）がもっとも多く、ついで男性では「差別」（46.2%）、女性では「尊厳」（48.3%）となっている。そして、「平等」と「差別」については、男女差はほとんどないが、「自由」は男性のほうが多く、「尊厳」は女性のほうが多い。

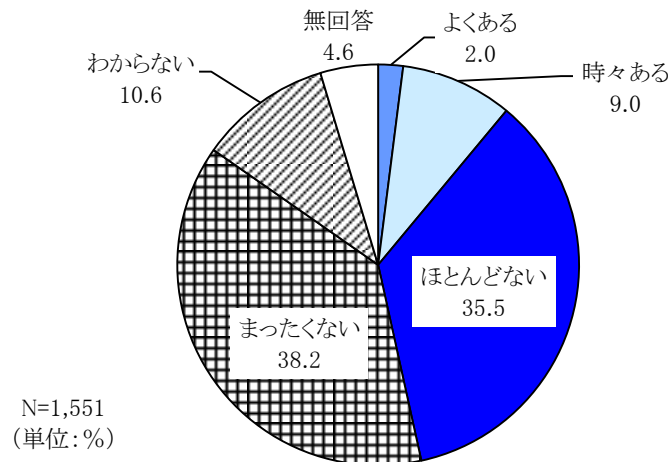
年齢別で見ると、いずれの年齢においても「平等」がもっとも多く、ついで、16～19歳と60歳代では「自由」（順に48.2%、47.9%）、20歳代と50歳代では「差別」（順に49.3%、50.0%）、30歳代と40歳代では「尊厳」（順に48.2%、52.1%）があがり、70歳以上では「自由」と「差別」が46.8%であった。「自立」は70歳以上で32.7%と高く、「思いやり」も60歳代と70歳以上で高いが（順に34.1%、32.4%）、16～19歳、20歳代では、「自立」も「思いやり」も20%を下回っている。（表2-4-1）

3. 人権侵害の経験と対応

(1) 人権侵害の経験の有無

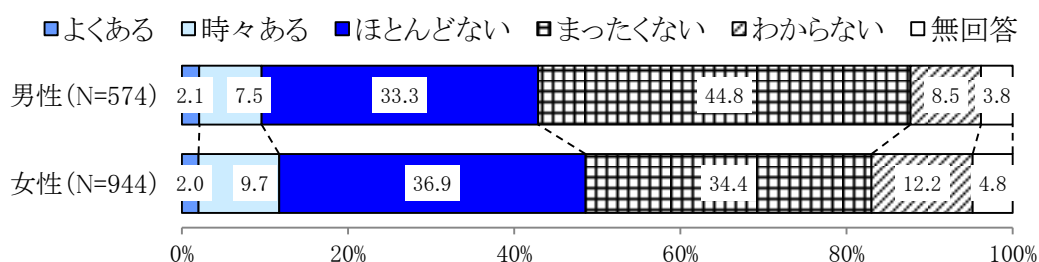
問5 日常生活のなかで、あなたはここ5年くらいの間に、人権を侵害されたことがありますか。
(○は1つ)

【図3-1 人権侵害を受けた経験】



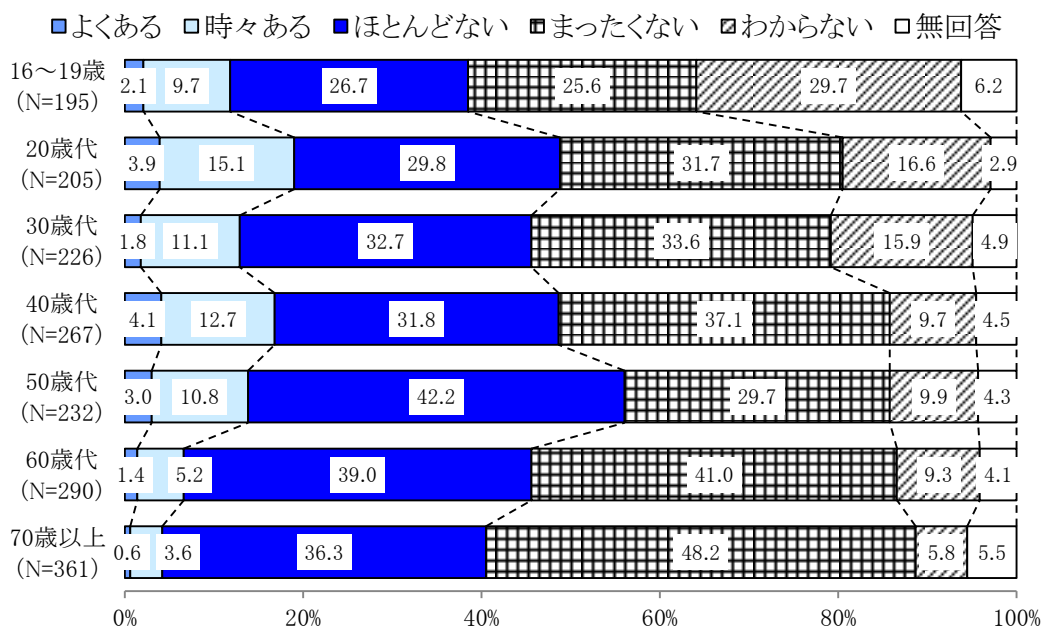
人権侵害の経験の有無を尋ねた。「よくある」と「時々ある」を合わせると11.0%で、約1割の人がここ5年以内に人権を侵害されたことがあると回答している。一方、「ほとんどない」と「まったくない」を合わせて73.7%で、これに「わからない」を加えると8割を超す。前回調査(2007年)では、「よくある」1.7%、「時々ある」7.5%、「ほとんどない」38.7%、「まったくない」32.0%、「わからない」18.0%、「無回答」2.0%であったので、前回調査に比べて、人権侵害を受けた経験があるという回答がやや増えたことになる。しかし、何を人権侵害とみるのかは、その人の主観が入る問題であり、人権意識が高まると、人権侵害に対する認知は高くなるといえる。したがって、前回調査との比較から、人権侵害の事象が増加しているとは、ただちにはいえないだろう。(図3-1)

【図3-1-1 性別 人権侵害を受けた経験】



性別でみると、「よくある」は男女とも2%ほどであるが、「時々ある」は女性でやや多く、「まったくない」は男性のほうが10ポイントほども高くなっている。また、「わからない」は女性でやや多い。(図3-1-1)

【図3-1-2 年齢別 人権侵害を受けた経験】



年齢別では、「よくある」が20歳代と40歳代で多く、「よくある」と「時々ある」を合わせた割合でみると、20歳代(19.0%)、40歳代(16.8%)、50歳代(13.8%)で多く、60歳代(6.6%)と70歳以上(4.2%)で少ない。一方、「わからない」は年齢が若くなるほど多くなっており、70歳以上では5.8%だったが、16～19歳では29.7%である。(図3-1-2)

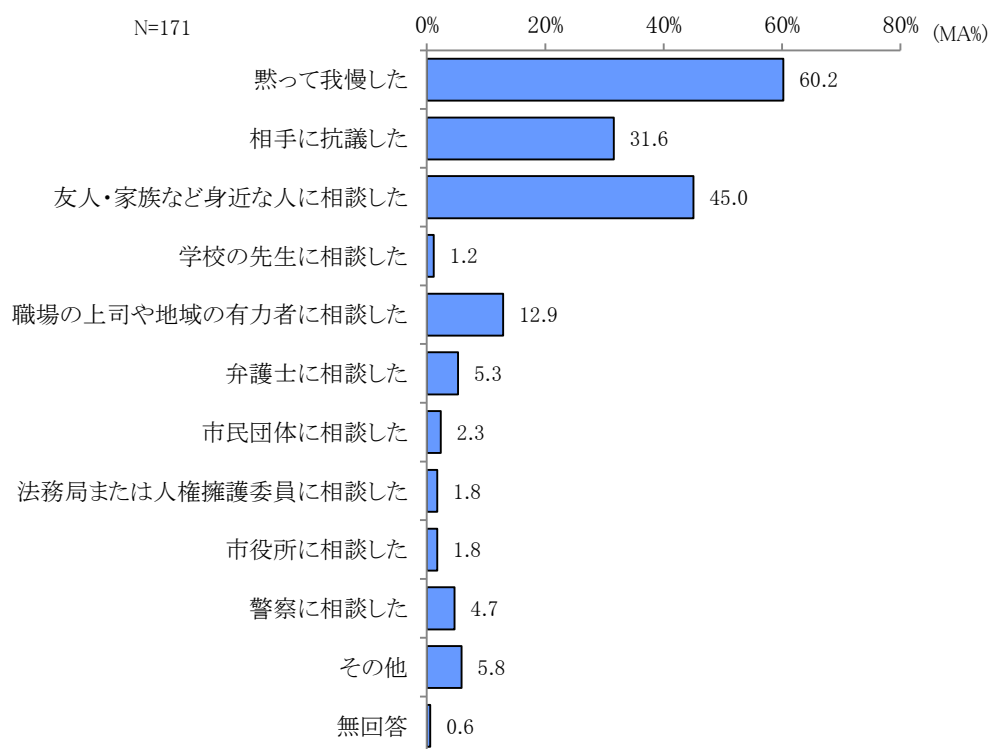
(2) 人権侵害を受けたときの対応

問 5-1 【問 5 で「1」または「2」を選んだ方にお聞きします】

あなたは人権侵害を受けたそのとき、どのように対応しましたか。主なものを選んでください。

(○はいくつでも)

【図 3-2 人権侵害を受けたときの対応】



人権侵害を受けた経験が『ある』と回答した人に、人権侵害を受けたときの対応を尋ねると、「黙って我慢した」が6割強と突出して多く、つぎに「友人・家族など身近な人に相談した」(45.0%)、そして「相手に抗議した」(31.6%)と続く。そして、20ポイント近く急減して、「職場の上司や地域の有力者に相談した」(12.9%)となる。それ以外は1割以下である。相談する相手は、友人や家族、職場の上司、地域の有力者など、個人的な関係のある人が多く、法務局や人権擁護委員、弁護士、警察、市役所などの公的な窓口への相談は非常に少ない。(図 3-2)

【表3-2-1 性・年齢別 人権侵害を受けたときの対応】

(上段：％、下段：人)

		回答者数	黙って我慢した	相手に抗議した	友人・家族など身近な人に相談した	学校の先生に相談した	職場の上司や地域の有力者に相談した	弁護士に相談した	市民団体に相談した	法務局または人権擁護委員に相談した	市役所に相談した	警察に相談した	その他	無回答
総数		100.0 171	60.2 103	31.6 54	45.0 77	1.2 2	12.9 22	5.3 9	2.3 4	1.8 3	1.8 3	4.7 8	5.8 10	0.6 1
性別	男性	100.0 55	60.0 33	38.2 21	27.3 15	- -	12.7 7	9.1 5	1.8 1	1.8 1	- -	3.6 2	12.7 7	- -
	女性	100.0 111	60.4 67	29.7 33	54.1 60	1.8 2	12.6 14	3.6 4	2.7 3	1.8 2	2.7 3	5.4 6	2.7 3	0.9 1
年齢別	16～19歳	100.0 23	73.9 17	47.8 11	47.8 11	13.0 3	- -	- -	- -	- -	- -	4.3 1	4.3 1	- -
	20歳代	100.0 39	69.2 27	23.1 9	48.7 19	5.1 2	10.3 4	2.6 1	- -	- -	- -	- -	7.7 3	- -
	30歳代	100.0 29	62.1 18	34.5 10	55.2 16	- -	20.7 6	3.4 1	6.9 2	- -	3.4 1	3.4 1	- -	- -
	40歳代	100.0 45	60.0 27	28.9 13	42.2 19	2.2 1	13.3 6	6.7 3	4.4 2	2.2 1	4.4 2	6.7 3	6.7 3	- -
	50歳代	100.0 32	62.5 20	31.3 10	37.5 12	- -	6.3 2	9.4 3	- -	6.3 2	- -	3.1 1	15.6 5	- -
	60歳代	100.0 19	36.8 7	42.1 8	52.6 10	5.3 1	15.8 3	5.3 1	- -	- -	- -	5.3 1	- -	- -
	70歳以上	100.0 15	53.3 8	26.7 4	40.0 6	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	13.3 2	- -

「性別」では、「黙って我慢した」が男女ともに6割と、もっとも多く、「友人・家族など身近な人に相談した」は女性が54.1%と、男性のほぼ2倍となっている。しかし、「相手に抗議した」は男性のほうが8.5ポイント多い。概して男性のほうが相手に抗議し、女性のほうは友人や家族に相談する傾向があるといえる。「弁護士に相談した」は男性で多く、「市役所に相談した」と「警察に相談した」は女性でやや多い。

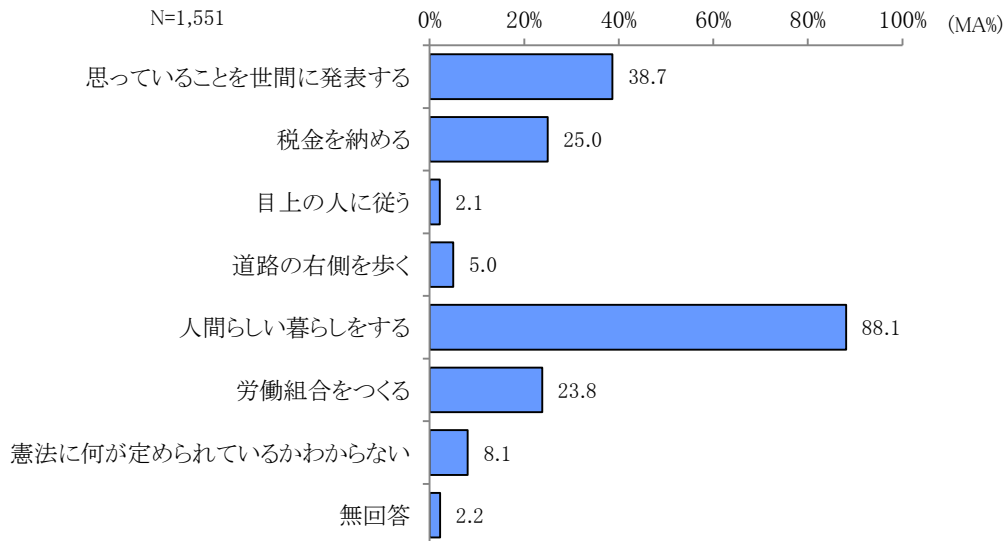
年齢別にみると、60歳代を除いて、「黙って我慢した」がどの年齢でももっとも多く、60歳代では「友人・家族など身近な人に相談した」がもっとも多い。60歳代以外で、そのつぎに多いのが、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、70歳以上では「友人・家族など身近な人に相談した」となっており、16～19歳では「相手に抗議した」である。「友人・家族など身近な人に相談した」という回答が多かった60歳代では、「相手に抗議した」「黙って我慢した」が続く。そして、「学校の先生に相談した」は16～19歳に多く(13.0%)、「職場の上司や地域の有力者に相談した」は30歳代が多い(20.7%)。(表3-2-1)

4. 人権に対する意識や考え方

(1) 日本国憲法における国民の権利

問6 あなたは、憲法により義務ではなく、「国民の権利」と定められているのはどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

【図4-1 憲法で「国民の権利」と定められているもの】



憲法で「国民の権利」と定められているものを尋ねると、「人間らしい暮らしをする」という回答が突出して多く、日本国憲法 25 条の国民の生存権への理解は高いといえる。しかし、21 条の表現の自由にあたる「思っていることを世間に発表する」が 38.7%、28 条の団結権にあたる「労働組合をつくる」が 23.8%しかなく、これらについては学校や職場、地域などで日常的にあまり意識されていない可能性がある。そして、「税金を納める」は 25.0%だが、これは国民の義務であり、義務と権利の混同がみられる。結局、学校教育や社会教育で憲法に関する教育が十分に行われていないのではないだろうか。(図 4-1)

【表4-1-1 性・年齢別 憲法で「国民の権利」と定められているもの】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	に思っ て発表 するこ とを世 間に	税金を 納める	目上 の人に 従う	道路の 右側を 歩く	人間ら しい暮 らしを する	労働組 合をつ くる	憲法に 何が定 められ ていな い	無回答
総数		100.0 1,551	38.7 600	25.0 387	2.1 33	5.0 77	88.1 1,366	23.8 369	8.1 125	2.2 34
性別	男性	100.0 574	44.1 253	21.8 125	2.3 13	4.9 28	89.2 512	26.0 149	5.6 32	1.7 10
	女性	100.0 944	35.8 338	26.9 254	2.0 19	5.1 48	87.6 827	23.0 217	9.7 92	2.0 19
年齢別	16～19歳	100.0 195	55.4 108	24.6 48	6.7 13	4.1 8	78.5 153	39.5 77	8.2 16	2.1 4
	20歳代	100.0 205	48.8 100	21.0 43	2.9 6	1.5 3	85.4 175	29.3 60	11.2 23	1.5 3
	30歳代	100.0 226	48.7 110	19.5 44	2.2 5	1.8 4	87.2 197	34.5 78	7.5 17	0.9 2
	40歳代	100.0 267	43.4 116	20.2 54	0.4 1	0.4 1	89.1 238	28.1 75	3.4 9	1.9 5
	50歳代	100.0 232	37.1 86	16.8 39	0.9 2	2.2 5	90.9 211	23.7 55	7.8 18	1.7 4
	60歳代	100.0 290	31.0 90	27.9 81	2.4 7	5.2 15	90.0 261	17.6 51	7.6 22	2.8 8
	70歳以上	100.0 361	30.5 110	35.5 128	3.3 12	13.6 49	87.0 314	14.7 53	11.4 41	3.3 12

「人間らしい暮らしをする」の男女差はほとんどないが、「思っていることを世間に発表する」は男性のほうが8ポイントほど高く、「労働組合をつくる」についても男性が3ポイント高い。しかし、「税金を納める」は逆に女性が5ポイントほど高くなっている。また、「憲法に何が定められているかわからない」は、女性のほうが4ポイントほど多い。

年齢別にみると、「人間らしい暮らしをする」は20歳代以上の各年齢層で高く、なかでも50歳代と60歳代で90%ほどになっている。これに対し、「思っていることを世間に発表する」は、16～19歳でもっとも高く(55.4%)、50歳代以上の年齢層では30%台と、低くなっている。また、「労働組合をつくる」は、16～19歳と30歳代で30%を超えている。一方、「税金を納める」は、70歳以上で35.5%と、もっとも高く、60歳代でも27.9%である。(表4-1-1)

憲法で定められた権利を理解しているかどうかと、他の項目との関連についてみてみよう。問6の回答において、①「思っていることを世間に発表する」「人間らしい暮らしをする」「労働組合をつくる」の3つの権利をすべて選んだ人を「正答」のグループ（n=249）、②3つのうち、2つか1つのみを答えた人を「部分正答」のグループ（n=766）、③権利（「1」「5」「6」のすべて、またはいずれか）もそれ以外の選択肢も両方を選んだ人を「その他」（n=403）、④権利（「1」「5」「6」）以外の選択肢のみを選んだ人を「誤答」のグループ（「憲法に何が定められているかわからない」を選んだ人を含む）（n=99）に分類した。

権利の理解度と、「人権侵害に該当する事象（問1）」との関係をみてみよう。

【表4-1-2 「権利の理解度」×「夫が妻に、身体的・精神的暴力をふるうこと」】

（上段：％、下段：人）

	回答者数	問1-イ 夫が妻に、身体的・精神的暴力をふるうこと					
		よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
合計	100.0 1,551	66.5 1,032	13.3 207	8.5 132	2.6 40	7.2 112	1.8 28
正答	100.0 249	82.7 206	11.2 28	4.0 10	0.8 2	0.8 2	0.4 1
部分正答	100.0 766	68.7 526	12.9 99	9.5 73	2.2 17	6.1 47	0.5 4
その他	100.0 403	58.6 236	14.1 57	8.4 34	4.7 19	11.4 46	2.7 11
誤答	100.0 99	47.5 47	19.2 19	15.2 15	2.0 2	12.1 12	4.0 4

p=0.0000***

問1の「イ. 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと」についていえば、正答の人のほうが人権侵害に「よくあてはまる」と考えている人の割合が高く、誤答の人のほうが「まったくあてはまらない」と考えている人の割合が高かった。問1の他の項目についても、同様の傾向がみられた（表は示していない。ただし、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」については、正答の人ほど「よくあてはまる」の割合も、「まったくあてはまらない」の割合も高く、誤答の人ほど「どちらともいえない」の割合が高かった）。権利を理解している人ほどさまざまな事象を人権侵害ととらえており、権利を理解していない人ほど、さまざまな事象を人権侵害ではないととらえる傾向がみられた。（表4-1-2）

権利の理解度と「人権や差別問題に対する考え方（問2）」との関係を見てみよう。

【表4-1-3 「権利の理解度」×「差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」】

(上段：%、下段：人)

	回答者数	問2-ア 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである					
		よくあてはまる	ややあてはまる	などいちらともいえ	あてはまらない	あてはまらない	無回答
合計	100.0 1,551	49.4 766	32.3 501	12.3 190	2.6 40	1.6 25	1.9 29
正答	100.0 249	60.2 150	27.7 69	8.4 21	2.8 7	0.4 1	0.4 1
部分正答	100.0 766	49.1 376	34.7 266	12.1 93	2.1 16	1.0 8	0.9 7
その他	100.0 403	47.4 191	31.8 128	12.2 49	3.0 12	2.7 11	3.0 12
誤答	100.0 99	35.4 35	31.3 31	20.2 20	5.1 5	5.1 5	3.0 3

p=0.0001***

問2の「ア. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」についていえば、正答の人のほうが「よくあてはまる」と考えている人の割合が高かった。同様に、「イ. どんな理由があっても差別はいけない」「ウ. 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある」「オ. 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ」「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」「ク. 人権を強調するあまり、権利にともなう義務や責任をおろそかにするのはよくない」についても、正答の人は、他の人に比べて「あてはまる」とする人の割合が高かった。また、「エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある」「カ. 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある」については、正答の人は、他の人に比べて「あてはまらない」とする人の割合が高かった（いずれも表は略）。権利を理解している人ほど、差別を他者の責任に押し付ける考え方をとらず、差別を恥ずべき・いけないことだととらえる傾向がみられた。

憲法を理解することが、人権侵害や差別に対する理解とも関わっていることがわかる。何が憲法に定められた権利なのかについての知識を伝えていくことが重要な課題といえるだろう。（表4-1-3）

【表 4-1-4 憲法で「国民の権利」と定められているもの（全国調査との比較）】

(%)

	豊中市	NHK
思っていることを世間に発表する	38.7	34.8
税金を納める	25.0	42.8
目上の人に従う	2.1	7.1
道路の右側を歩く	5.0	14.9
人間らしい暮らしをする	88.1	77.1
労働組合をつくる	23.8	21.8
わからない、無回答	8.1	5.4

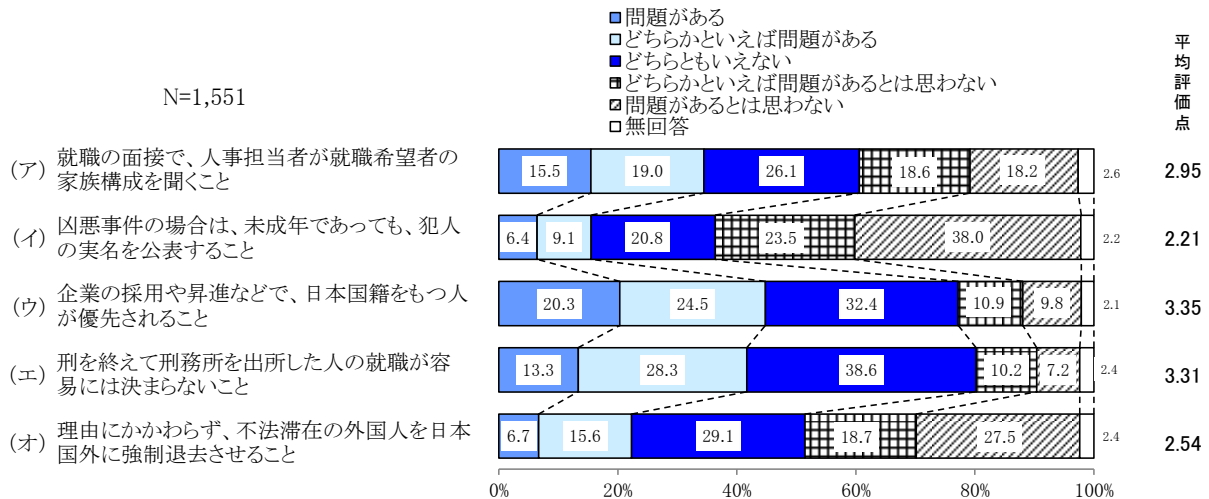
NHK 放送文化研究所「日本人の意識・2008」調査（2008年6月28日、29日実施、対象は全国の16歳以上の国民5,400人、有効回収率57.5%）

問6については、NHK放送文化研究所が5年ごとに実施している意識調査と同じ設問となっているので、これと比較すると、豊中市民のほうが憲法への理解が高いといえる。憲法はそもそも国民の権利を国家が保障する規定であり、項目としては「思っていることを世間に発表する」「人間らしい暮らしをする」「労働組合をつくる」が相当する。「思っていることを世間に発表する」は4ポイント、「人間らしい暮らしをする」は11ポイント、「労働組合をつくる」は2ポイント、それぞれ豊中市のほうが高い。一方、「税金を納める」は豊中市のほうが18ポイントほど低く、権利と義務を混同しているケースは豊中市で少ない。同様に、「目上の人に従う」と「道路の右側を歩く」も憲法とは無関係だが、豊中市がNHKの割合を大きく下回っている。このように、豊中市のほうが全体的に日本国憲法における「国民の権利」に対する理解が高いといえる。（表4-1-4）

(2) 人権の観点から問題がある行為

問7 あなたは、次のようなことは人権の観点から問題があると思いますか。
あなたのお考えを教えてください。ア～オのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図4-2 人権の観点から問題がある行為】



* 平均評価点(スコア)

問題がある	5点
どちらかといえば問題がある	4点
どちらともいえない	3点
どちらかといえば問題があるとは思わない	2点
問題があるとは思わない	1点
無回答	-点

この設問は、就職や報道など、日常的な場面で起こりうる人権侵害に対する意識を調べたものである。各項目について、それぞれ人権の観点から問題があると思うかについて尋ねたところ、「問題である」と答えた人がもっとも多いのは、「ウ. 企業の採用や昇進などで、日本国籍をもつ人が優先されること」(20.3%)、ついで「ア. 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと」(15.5%)となっている。「どちらかといえば問題である」を合わせ、「問題である」と考えている割合が高いのは、「ウ. 企業の採用や昇進などで、日本国籍をもつ人が優先されること」がやはり44.8%と高く、「エ. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないこと」が41.6%と続いている。

逆に問題があると答えた人がもっとも少ないのは、「イ. 凶悪事件の場合は、未成年であっても、犯人の実名を公表すること」で、「問題がある」と答えた割合は6.4%、「どちらかといえば問題である」を加えても、15.5%にすぎない。「問題があるとは思わない」と「どちらかと言えば問題があるとは思わない」の合計が61.5%と、他の項目と比べて大幅に高いことが目を引く。また、「オ. 理由にかかわらず、不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること」についても、「問題がある」は6.7%と低いが、「どちらかといえば問題である」を加えると22.3%が問題を感じているともいえる。

また、平均評価点は、「ウ. 企業の採用や昇進などで、日本国籍をもつ人が優先されること」が3.35、「エ. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないこと」が3.31と高く、「イ. 凶悪事件の場合は、未成年であっても、犯人の実名を公表すること」は2.21と低くなっている。(図4-2)

【表4-2-1 性・年齢別 人権の観点から問題がある行為①】

(ア) 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと

	回答者数	問題がある	どちらかといえ ば問題がある	どちらともい えない	どちらかとい えは問題ない	い問題があ るとは思わな い	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	15.5 240	19.0 295	26.1 405	18.6 288	18.2 282	2.6 41	2.95	
性別	男性	100.0 574	16.4 94	20.2 116	24.4 140	17.4 100	19.7 113	1.9 11	2.96
	女性	100.0 944	14.7 139	18.8 177	27.0 255	19.4 183	17.6 166	2.5 24	2.93
年齢別	16～19歳	100.0 195	21.0 41	33.3 65	20.5 40	11.3 22	13.3 26	0.5 1	3.38
	20歳代	100.0 205	20.5 42	27.8 57	24.4 50	14.6 30	12.7 26	-	3.29
	30歳代	100.0 226	15.0 34	21.7 49	29.2 66	19.5 44	14.6 33	-	3.03
	40歳代	100.0 267	15.0 40	23.2 62	26.2 70	18.0 48	16.5 44	1.1 3	3.02
	50歳代	100.0 232	22.8 53	18.1 42	26.7 62	19.4 45	12.1 28	0.9 2	3.20
	60歳代	100.0 290	12.4 36	15.5 45	23.8 69	21.0 61	24.5 71	2.8 8	2.70
	70歳以上	100.0 361	10.0 36	13.3 48	28.0 101	18.8 68	23.0 83	6.9 25	2.66

(イ) 凶悪事件の場合は、未成年であっても、犯人の実名を公表すること (上段：%、下段：人)

	回答者数	問題がある	どちらかとい えは問題 がある	どちらともい えない	どちらかとい えは問題 ない	い問題があ るとは思わな い	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	6.4 100	9.1 141	20.8 323	23.5 364	38.0 589	2.2 34	2.21	
性別	男性	100.0 574	6.8 39	10.3 59	17.1 98	23.3 134	40.8 234	1.7 10	2.18
	女性	100.0 944	6.1 58	8.5 80	22.9 216	23.7 224	36.7 346	2.1 20	2.22
年齢別	16～19歳	100.0 195	8.7 17	10.8 21	24.1 47	26.2 51	29.7 58	0.5 1	2.42
	20歳代	100.0 205	2.9 6	7.8 16	16.6 34	22.0 45	50.7 104	-	1.90
	30歳代	100.0 226	2.2 5	8.0 18	15.5 35	24.8 56	49.6 112	-	1.88
	40歳代	100.0 267	4.5 12	6.0 16	21.0 56	26.6 71	40.8 109	1.1 3	2.06
	50歳代	100.0 232	7.8 18	8.2 19	26.3 61	20.7 48	35.8 83	1.3 3	2.31
	60歳代	100.0 290	7.2 21	9.0 26	22.8 66	24.1 70	34.5 100	2.4 7	2.29
	70歳以上	100.0 361	9.1 33	11.6 42	21.1 76	21.6 78	31.6 114	5.0 18	2.42

(ウ) 企業の採用や昇進などで、日本国籍をもつ人が優先されること

	回答者数	問題がある	どちらかとい えは問題 がある	どちらともい えない	どちらかとい えは問題 ない	い問題があ るとは思わな い	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	20.3 315	24.5 380	32.4 502	10.9 169	9.8 152	2.1 33	3.35	
性別	男性	100.0 574	19.7 113	22.5 129	34.0 195	10.1 58	12.0 69	1.7 10	3.28
	女性	100.0 944	20.4 193	25.8 244	31.8 300	11.3 107	8.6 81	2.0 19	3.39
年齢別	16～19歳	100.0 195	30.8 60	28.7 56	24.1 47	8.7 17	7.2 14	0.5 1	3.68
	20歳代	100.0 205	22.0 45	23.9 49	30.2 62	9.8 20	14.1 29	-	3.30
	30歳代	100.0 226	26.1 59	23.0 52	32.3 73	10.6 24	8.0 18	-	3.49
	40歳代	100.0 267	21.7 58	26.2 70	28.8 77	10.1 27	12.0 32	1.1 3	3.36
	50歳代	100.0 232	19.4 45	28.9 67	32.3 75	10.3 24	7.8 18	1.3 3	3.42
	60歳代	100.0 290	16.9 49	22.1 64	38.6 112	12.4 36	8.3 24	1.7 5	3.27
	70歳以上	100.0 361	16.6 60	21.9 79	34.6 125	10.2 37	11.1 40	5.5 20	3.24

(エ) 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないこと (上段：%、下段：人)

	回答者数	問題がある	どちらかとい えは問題 がある	どちらともい えない	どちらかとい えは問題 ない	い問題があ るとは思わな い	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	13.3 207	28.3 439	38.6 598	10.2 158	7.2 112	2.4 37	3.31	
性別	男性	100.0 574	16.2 93	28.6 164	33.6 193	10.3 59	9.2 53	2.1 12	3.33
	女性	100.0 944	11.4 108	28.3 267	41.7 394	10.2 96	6.1 58	2.2 21	3.29
年齢別	16～19歳	100.0 195	10.3 20	17.9 35	45.1 88	14.4 28	11.8 23	0.5 1	3.01
	20歳代	100.0 205	7.8 16	20.0 41	38.5 79	16.1 33	17.6 36	-	2.84
	30歳代	100.0 226	8.4 19	23.5 53	41.6 94	17.7 40	8.8 20	-	3.05
	40歳代	100.0 267	13.1 35	22.5 60	39.7 106	13.1 35	10.9 29	0.7 2	3.14
	50歳代	100.0 232	11.2 26	37.5 87	39.7 92	6.5 15	3.9 9	1.3 3	3.46
	60歳代	100.0 290	16.2 47	29.3 85	42.4 123	5.2 15	4.8 14	2.1 6	3.48
	70歳以上	100.0 361	17.2 62	32.4 117	32.1 116	8.0 29	3.9 14	6.4 23	3.54

【表4-2-1 性・年齢別 人権の観点から問題がある行為②】

(オ) 理由にかかわらず、不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること
(上段：％、下段：人)

	回答者数	問題がある	どちらかといえば問題がある	どちらともいえない	どちらかとは思われない問題	問題があるとは思われない	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	6.7 104	15.6 242	29.1 452	18.7 290	27.5 426	2.4 37	2.54	
性別	男性	100.0 574	7.1 41	14.6 84	22.5 129	20.2 116	33.6 193	1.9 11	2.40
	女性	100.0 944	6.6 62	16.1 152	33.4 315	18.1 171	23.6 223	2.2 21	2.63
年齢別	16～19歳	100.0 195	14.4 28	21.0 41	35.9 70	10.8 21	17.4 34	0.5 1	3.04
	20歳代	100.0 205	3.9 8	15.6 32	32.2 66	20.0 41	28.3 58	-	2.47
	30歳代	100.0 226	1.8 4	11.1 25	32.3 73	24.8 56	30.1 68	-	2.30
	40歳代	100.0 267	6.0 16	16.9 45	28.8 77	21.0 56	26.2 70	1.1 3	2.55
	50歳代	100.0 232	8.6 20	19.4 45	35.3 82	17.2 40	18.1 42	1.3 3	2.83
	60歳代	100.0 290	7.9 23	17.2 50	27.9 81	18.3 53	26.2 76	2.4 7	2.61
	70歳以上	100.0 361	7.5 27	13.0 47	25.2 91	14.7 53	34.1 123	5.5 20	2.42

性別による相違は、どの問いに対してもあまり大きくはなく、平均評価点の差もほとんどない。「オ. 理由にかかわらず、不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること」では、「どちらともいえない」という回答が女性で多く、「問題があるとは思わない」が男性で多くなっており、平均評価点は女性のほうが0.23上回っている。

年齢別で違いがもっとも目立つのは、「ア. 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと」であろう。平均評価点が16～19歳で3.38、20歳代で3.29と高く、それぞれ20%以上が「問題がある」と答えているのに対し、年代が上がるほどに平均評価点、「問題がある」と答える割合が下がる。60歳代以上では、1割強が「問題がある」と答えているのに対し、2割以上が、「問題があるとは思えない」としており、若年層とほぼ逆の結果になっている。

また、「イ. 凶悪事件の場合は、未成年であっても、犯人の実名を公表すること」は全体に「問題がある」と考える割合が低いが、とくにこの傾向は20歳代～40歳代で顕著になっており、20歳代で2.9%、30歳代は2.2%、40歳代は4.5%にとどまる。平均評価点も、それぞれ1.90、1.88、2.06となっている。16～19歳および50歳代以上では、他の項目と比して低いとはいえ、7～9%は「問題がある」と答えており、この低さは目を引く。「オ. 理由にかかわらず、不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること」も、16～19歳の14.4%が「問題がある」と答えているのに対し、20歳代は3.9%、30歳代は1.8%にすぎず、問題としない者の割合が大きく上回っている。(表4-2-1)

【表4-2-2 人権の観点から問題がある行為（前回調査との比較）】

(%)

		問題がある	ある どちらかといえば問題がある	どちらともいえない	あるとは思わない どちらかといえば問題がある	問題があるとは思わない	無回答
就職の面接で、家族構成を聞くこと	2007年	13.0	15.8	24.7	22.1	21.1	3.2
	2013年	15.5	19.0	26.1	18.6	18.2	2.6
不法滞在の外国人を強制退去させること	2007年	11.2	17.6	33.3	15.3	19.3	3.2
	2013年	6.7	15.6	29.1	18.7	27.5	2.4

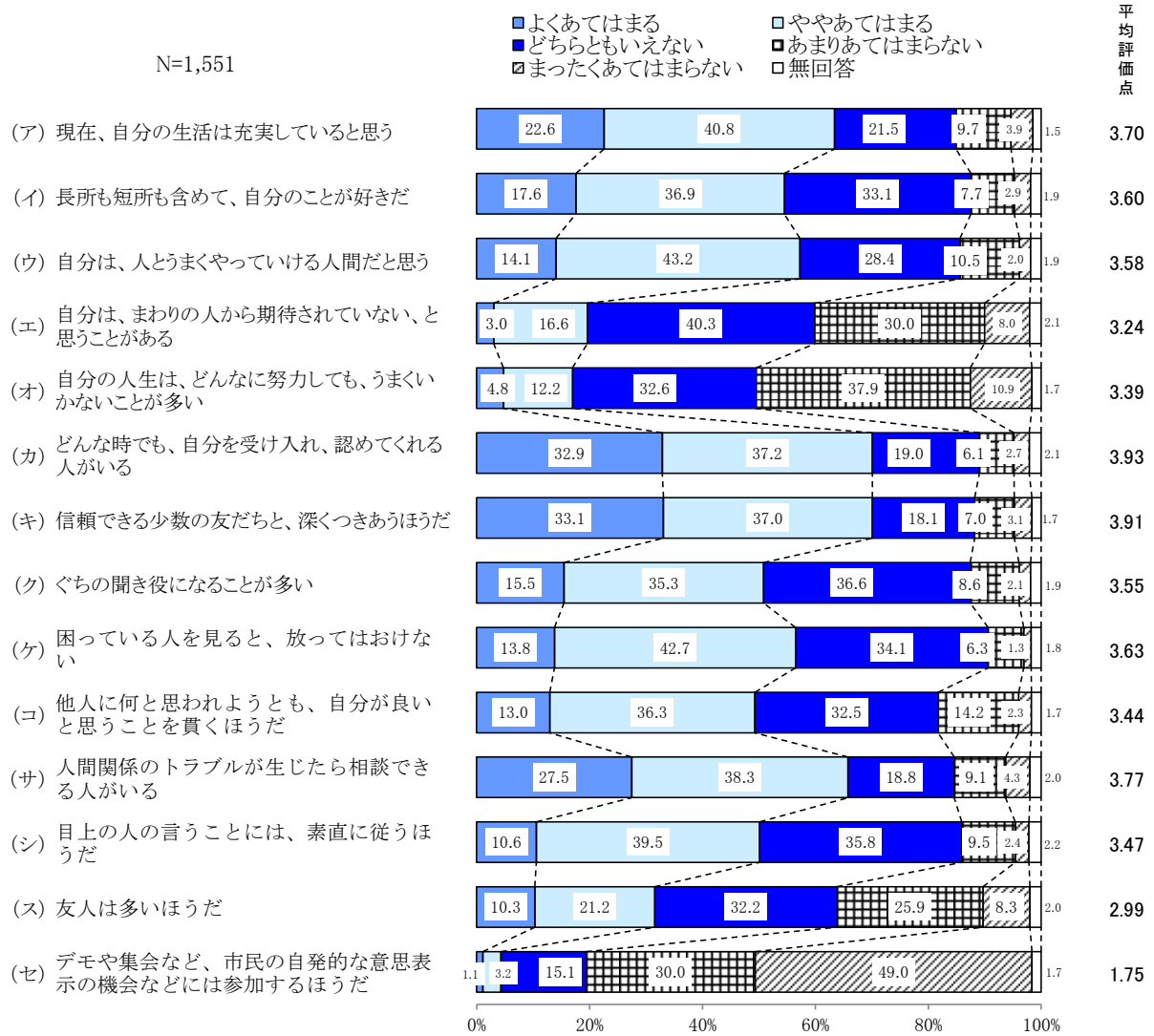
6年前の2007年調査から、今回の調査と同じ設問を抜き出して比較する。まず、「就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと」については、「問題がある」が13.0%から15.5%へ、「どちらかといえば問題がある」も加えると、28.8%から34.5%へと増え、「問題があるとは思わない」と答えた者が21.1%から18.2%に減少した。ここから、6年間の間に、就職時に家族構成を尋ねることは人権の観点から問題と考えられる傾向が強まったことがわかる。

他方、「理由にかかわらず、不法滞在の外国人を強制退去させること」は、2007年には11.2%が「問題がある」と答え、「どちらかといえば問題がある」を合わせると28.8%だったのに対し、2013年には、「問題がある」が6.7%、「どちらかといえば」も合わせても22.3%と、問題を感じる人の割合が6ポイントほど減少した。同様に「問題があるとは思わない」人は、19.3%から27.5%に8ポイントほども増大した。平均評価点も、2.85から2.54に下がっている。「不法滞在の外国人」の割合は、法務省の『出入国管理白書』によれば、2008年1月1日現在の14万9,785人から、2013年1月1日現在の数値では6万2,009人へと、日本国内で大きく減少している。2008年の数値もピークだった1997年の28万2,986人と比べると、大幅に少ない数値であった。にもかかわらず、市民の「不法滞在外国人」への視線は冷淡になっていることがわかる。（表4-2-2）

(3) 自分自身に対する評価

問8 あなたご自身について、次のようなことがどの程度あてはまるとお思いますか。
ア～セのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図4-3 自分自身に対する評価】



* 平均評価点(スコア):(ア)～(ウ)、(カ)～(セ)

よくあてはまる	5点
ややあてはまる	4点
どちらともいえない	3点
あまりあてはまらない	2点
まったくあてはまらない	1点
無回答	-点

* 平均評価点(スコア):(エ)(オ)

よくあてはまる	1点
ややあてはまる	2点
どちらともいえない	3点
あまりあてはまらない	4点
まったくあてはまらない	5点
無回答	-点

自分自身に対する評価を尋ねた。「ア」「イ」「エ」「オ」は、「自尊感情」について尋ねた項目である。「ア. 現在、自分の生活は充実していると思う」や「イ. 長所も短所も含めて、自分のことが好きだ」に肯定的な回答（「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答したのは、アで63.4%、イで54.5%と、過半数の人がある程度充実した生活を送っていることがうかがわれる。その一方で、「エ. 自分は、まわりの人から期待されていない、と思うことがある」や「オ. 自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいかないことが多い」に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答する人も少なからず存在している。

年齢別で違いがみられる項目では、まず「ア. 現在、自分の生活は充実していると思う」が、若い世代ほど肯定的に回答する人が多い。そのいっぽうで、「オ. 自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいかないことが多い」は10歳代のみ「よくあてはまる」と回答する人が多くなっている。(図4-3)

【表4-3-1 性・年齢別 自分自身に対する評価①】

(ア) 現在、自分の生活は充実していると思う

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	22.6 350	40.8 633	21.5 334	9.7 151	3.9 60	1.5 23	3.70
性別	男性	100.0 574	19.0 109	37.1 213	26.8 154	11.3 65	4.7 27	1.0 6	3.55
	女性	100.0 944	25.2 238	43.3 409	17.8 168	8.8 83	3.4 32	1.5 14	3.79
年齢別	16～19歳	100.0 195	40.0 78	37.9 74	13.3 26	5.1 10	3.6 7	-	4.06
	20歳代	100.0 205	29.8 61	37.1 76	16.1 33	12.2 25	4.4 9	0.5 1	3.76
	30歳代	100.0 226	26.1 59	47.8 108	15.5 35	8.0 18	2.7 6	-	3.87
	40歳代	100.0 267	20.6 55	43.1 115	19.9 53	9.0 24	6.7 18	0.7 2	3.62
	50歳代	100.0 232	21.6 50	41.8 97	19.4 45	12.5 29	3.4 8	1.3 3	3.66
	60歳代	100.0 290	19.7 57	38.6 112	26.9 78	9.7 28	4.5 13	0.7 2	3.60
	70歳以上	100.0 361	21.9 79	37.7 136	25.2 91	9.4 34	2.2 8	3.6 13	3.70

(イ) 長所も短所も含めて、自分のことが好きだ

(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	17.6 273	36.9 572	33.1 513	7.7 119	2.9 45	1.9 29	3.60
性別	男性	100.0 574	15.5 89	34.1 196	39.0 224	6.4 37	3.0 17	1.9 11	3.54
	女性	100.0 944	18.8 177	39.1 369	29.1 275	8.6 81	2.9 27	1.6 15	3.63
年齢別	16～19歳	100.0 195	16.4 32	33.3 65	29.2 57	11.8 23	9.2 18	-	3.36
	20歳代	100.0 205	18.5 38	35.1 72	27.8 57	13.7 28	4.4 9	0.5 1	3.50
	30歳代	100.0 226	17.7 40	43.4 98	24.8 56	10.6 24	3.5 8	-	3.61
	40歳代	100.0 267	15.4 41	37.1 99	33.3 89	10.1 27	3.4 9	0.7 2	3.51
	50歳代	100.0 232	17.2 40	40.5 94	33.2 77	6.5 15	1.3 3	1.3 3	3.67
	60歳代	100.0 290	16.2 47	39.3 114	35.9 104	6.6 19	1.4 4	0.7 2	3.63
	70歳以上	100.0 361	18.8 68	32.7 118	36.0 130	5.3 19	1.9 7	5.3 19	3.65

(ウ) 自分は、人とうまくやっっていける人間だと思う

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	14.1 218	43.2 670	28.4 440	10.5 163	2.0 31	1.9 29	3.58
性別	男性	100.0 574	11.8 68	41.3 237	31.9 183	11.0 63	2.3 13	1.7 10	3.50
	女性	100.0 944	15.3 144	44.6 421	26.6 251	10.2 96	1.7 16	1.7 16	3.63
年齢別	16～19歳	100.0 195	19.0 37	36.9 72	22.6 44	13.3 26	8.2 16	-	3.45
	20歳代	100.0 205	14.6 30	37.6 77	26.8 55	17.6 36	2.9 6	0.5 1	3.44
	30歳代	100.0 226	9.7 22	41.6 94	29.6 67	16.4 37	2.7 6	-	3.39
	40歳代	100.0 267	12.4 33	41.6 111	28.8 77	13.9 37	2.6 7	0.7 2	3.48
	50歳代	100.0 232	13.8 32	46.1 107	29.3 68	7.8 18	1.3 3	1.7 4	3.64
	60歳代	100.0 290	13.1 38	46.2 134	29.3 85	9.7 28	1.0 3	0.7 2	3.61
	70歳以上	100.0 361	18.0 65	42.9 155	28.5 103	4.7 17	0.8 3	5.0 18	3.76

(エ) 自分は、まわりの人から期待されていない、と思うことがある

(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	3.0 47	16.6 257	40.3 625	30.0 466	8.0 124	2.1 32	3.24
性別	男性	100.0 574	1.6 9	15.5 89	43.9 252	28.2 162	9.1 52	1.7 10	3.28
	女性	100.0 944	3.7 35	17.3 163	37.9 358	31.6 298	7.5 71	2.0 19	3.22
年齢別	16～19歳	100.0 195	7.2 14	24.6 48	36.4 71	24.6 48	7.2 14	-	3.00
	20歳代	100.0 205	6.3 13	22.9 47	31.2 64	31.7 65	7.3 15	0.5 1	3.11
	30歳代	100.0 226	3.5 8	19.9 45	38.5 87	31.4 71	6.6 15	-	3.18
	40歳代	100.0 267	3.4 9	15.7 42	38.2 102	33.7 90	7.9 21	1.1 3	3.27
	50歳代	100.0 232	3.0 7	14.7 34	37.5 87	35.8 83	7.8 18	1.3 3	3.31
	60歳代	100.0 290	2.1 6	13.8 40	45.9 133	28.6 83	7.9 23	1.7 5	3.27
	70歳以上	100.0 361	2.8 10	13.0 47	44.3 160	25.2 91	9.7 35	5.0 18	3.27

【表4-3-1 性・年齢別 自分自身に対する評価②】

(オ) 自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいかないことが多い

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	4.8 74	12.2 189	32.6 505	37.9 588	10.9 169	1.7 26	3.39
性別	男性	100.0 574	4.7 27	13.2 76	35.5 204	33.8 194	11.0 63	1.7 10	3.34
	女性	100.0 944	4.8 45	11.8 111	30.4 287	40.6 383	11.1 105	1.4 13	3.42
年齢別	16～19歳	100.0 195	10.3 20	19.0 37	29.2 57	29.2 57	12.3 24	-	3.14
	20歳代	100.0 205	3.9 8	14.6 30	23.9 49	42.9 88	14.1 29	0.5 1	3.49
	30歳代	100.0 226	6.2 14	10.6 24	30.1 68	41.6 94	11.5 26	-	3.42
	40歳代	100.0 267	5.2 14	7.5 20	35.2 94	40.1 107	11.2 30	0.7 2	3.45
	50歳代	100.0 232	5.2 12	14.2 33	28.4 66	40.9 95	9.9 23	1.3 3	3.37
	60歳代	100.0 290	2.8 8	12.4 36	34.1 99	39.0 113	11.0 32	0.7 2	3.43
	70歳以上	100.0 361	4.4 16	14.1 51	37.1 134	29.9 108	10.0 36	4.4 16	3.28

(カ) どんな時でも、自分を受け入れ、認めてくれる人がある

(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	32.9 510	37.2 577	19.0 294	6.1 95	2.7 42	2.1 33	3.93
性別	男性	100.0 574	20.2 116	39.0 224	25.8 148	9.8 56	3.3 19	1.9 11	3.64
	女性	100.0 944	41.2 389	35.9 339	14.7 139	4.0 38	2.2 21	1.9 18	4.12
年齢別	16～19歳	100.0 195	34.4 67	36.9 72	16.9 33	10.3 20	1.5 3	-	3.92
	20歳代	100.0 205	48.3 99	30.2 62	16.1 33	2.9 6	2.0 4	0.5 1	4.21
	30歳代	100.0 226	42.9 97	37.2 84	12.8 29	5.3 12	1.8 4	-	4.14
	40歳代	100.0 267	40.4 108	37.5 100	13.9 37	4.9 13	2.6 7	0.7 2	4.09
	50歳代	100.0 232	31.9 74	40.1 93	17.2 40	7.3 17	2.2 5	1.3 3	3.93
	60歳代	100.0 290	27.9 81	35.2 102	23.4 68	7.6 22	4.1 12	1.7 5	3.76
	70歳以上	100.0 361	24.1 87	35.7 129	25.5 92	6.6 24	2.8 10	5.3 19	3.76

(キ) 信頼できる少数の友だちと、深くつきあうほうだ

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	33.1 513	37.0 574	18.1 281	7.0 109	3.1 48	1.7 26	3.91
性別	男性	100.0 574	25.1 144	37.6 216	23.5 135	8.4 48	3.8 22	1.6 9	3.73
	女性	100.0 944	38.0 359	36.9 348	14.6 138	6.4 60	2.6 25	1.5 14	4.03
年齢別	16～19歳	100.0 195	47.7 93	29.7 58	14.4 28	5.1 10	3.1 6	-	4.14
	20歳代	100.0 205	50.2 103	33.2 68	9.8 20	4.4 9	2.0 4	0.5 1	4.26
	30歳代	100.0 226	49.1 111	31.9 72	11.5 26	4.4 10	3.1 7	-	4.19
	40歳代	100.0 267	33.7 90	41.9 112	15.7 42	5.6 15	2.2 6	0.7 2	4.00
	50歳代	100.0 232	24.6 57	44.0 102	15.9 37	9.5 22	4.7 11	1.3 3	3.75
	60歳代	100.0 290	28.3 82	32.8 95	24.5 71	9.7 28	3.8 11	1.0 3	3.73
	70歳以上	100.0 361	28.8 104	36.8 133	21.3 77	6.9 25	1.9 7	4.2 15	3.87

(ク) ぐちの聞き役になることが多い

(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	15.5 240	35.3 548	36.6 568	8.6 134	2.1 32	1.9 29	3.55
性別	男性	100.0 574	11.1 64	33.1 190	40.6 233	10.5 60	3.0 17	1.7 10	3.40
	女性	100.0 944	18.0 170	36.8 347	34.6 327	7.5 71	1.5 14	1.6 15	3.63
年齢別	16～19歳	100.0 195	23.1 45	28.7 56	33.3 65	10.3 20	4.1 8	0.5 1	3.57
	20歳代	100.0 205	24.4 50	34.1 70	29.8 61	7.8 16	3.4 7	0.5 1	3.69
	30歳代	100.0 226	17.7 40	33.6 76	35.8 81	11.5 26	1.3 3	-	3.55
	40歳代	100.0 267	13.9 37	35.6 95	40.1 107	8.6 23	1.1 3	0.7 2	3.53
	50歳代	100.0 232	16.8 39	39.2 91	34.1 79	6.5 15	2.2 5	1.3 3	3.63
	60歳代	100.0 290	10.0 29	39.7 115	37.9 110	9.0 26	2.1 6	1.4 4	3.47
	70歳以上	100.0 361	16.3 59	32.1 116	38.0 137	7.2 26	1.9 7	4.4 16	3.56

【表4-3-1 性・年齢別 自分自身に対する評価③】

(ケ) 困っている人を見ると、放っておけない

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	13.8 214	42.7 662	34.1 529	6.3 98	1.3 20	1.8 28	3.63
性別	男性	100.0 574	10.1 58	41.3 237	38.7 222	6.8 39	1.6 9	1.6 9	3.52
	女性	100.0 944	15.8 149	44.1 416	31.3 295	6.0 57	1.2 11	1.7 16	3.68
年齢別	16～19歳	100.0 195	23.6 46	39.0 76	29.2 57	6.2 12	1.5 3	0.5 1	3.77
	20歳代	100.0 205	14.6 30	44.4 91	27.8 57	10.2 21	2.4 5	0.5 1	3.59
	30歳代	100.0 226	14.2 32	44.2 100	34.1 77	7.5 17	-	-	3.65
	40歳代	100.0 267	9.7 26	44.6 119	39.0 104	5.2 14	0.7 2	0.7 2	3.58
	50歳代	100.0 232	12.5 29	45.7 106	31.9 74	6.9 16	1.3 3	1.7 4	3.62
	60歳代	100.0 290	15.5 45	36.9 107	35.9 104	7.6 22	2.4 7	1.7 5	3.56
	70歳以上	100.0 361	15.5 56	44.0 159	31.9 115	3.6 13	1.1 4	3.9 14	3.72

(コ) 他人に何と思われようとも、自分が良いと思うことを貫くほうだ (上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	13.0 201	36.3 563	32.5 504	14.2 221	2.3 35	1.7 27	3.44
性別	男性	100.0 574	13.9 80	39.5 227	30.5 175	12.5 72	1.9 11	1.6 9	3.52
	女性	100.0 944	12.2 115	34.9 329	33.7 318	15.1 143	2.5 24	1.6 15	3.40
年齢別	16～19歳	100.0 195	21.0 41	35.9 70	28.7 56	12.3 24	2.1 4	-	3.62
	20歳代	100.0 205	15.6 32	36.1 74	26.3 54	16.6 34	4.9 10	0.5 1	3.41
	30歳代	100.0 226	10.2 23	37.6 85	28.8 65	19.0 43	4.4 10	-	3.30
	40歳代	100.0 267	10.9 29	39.0 104	30.7 82	17.2 46	1.5 4	0.7 2	3.41
	50歳代	100.0 232	11.6 27	35.8 83	33.6 78	15.5 36	2.2 5	1.3 3	3.40
	60歳代	100.0 290	14.5 42	33.8 98	37.6 109	11.0 32	1.7 5	1.4 4	3.49
	70歳以上	100.0 361	13.3 48	37.1 134	33.5 121	11.1 40	0.8 3	4.2 15	3.53

(サ) 人間関係のトラブルが生じたら相談できる人がいる

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	27.5 426	38.3 594	18.8 292	9.1 141	4.3 67	2.0 31	3.77
性別	男性	100.0 574	13.9 80	34.1 196	30.7 176	12.9 74	6.6 38	1.7 10	3.37
	女性	100.0 944	35.9 339	41.1 388	11.3 107	6.9 65	2.9 27	1.9 18	4.02
年齢別	16～19歳	100.0 195	34.4 67	35.4 69	14.9 29	10.8 21	4.1 8	0.5 1	3.86
	20歳代	100.0 205	39.5 81	38.0 78	11.7 24	5.9 12	4.4 9	0.5 1	4.03
	30歳代	100.0 226	36.3 82	35.8 81	16.4 37	8.4 19	3.1 7	-	3.94
	40歳代	100.0 267	30.0 80	44.9 120	12.4 33	8.2 22	3.7 10	0.7 2	3.90
	50歳代	100.0 232	25.4 59	42.7 99	19.8 46	5.6 13	4.7 11	1.7 4	3.80
	60歳代	100.0 290	24.5 71	35.2 102	22.4 65	11.4 33	5.2 15	1.4 4	3.63
	70歳以上	100.0 361	20.8 75	34.1 123	24.7 89	11.1 40	4.4 16	5.0 18	3.59

(シ) 目上の人の言うことには、素直に従うほうだ (上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	10.6 164	39.5 613	35.8 556	9.5 147	2.4 37	2.2 34	3.47
性別	男性	100.0 574	9.1 52	38.0 218	35.5 204	12.9 74	3.0 17	1.6 9	3.38
	女性	100.0 944	11.4 108	41.0 387	36.1 341	7.3 69	2.1 20	2.0 19	3.53
年齢別	16～19歳	100.0 195	20.5 40	43.6 85	22.1 43	9.7 19	4.1 8	-	3.67
	20歳代	100.0 205	21.5 44	48.8 100	19.0 39	7.8 16	2.0 4	1.0 2	3.81
	30歳代	100.0 226	11.1 25	42.9 97	31.9 72	11.5 26	2.2 5	0.4 1	3.49
	40歳代	100.0 267	9.7 26	44.6 119	34.1 91	8.6 23	2.2 6	0.7 2	3.51
	50歳代	100.0 232	6.9 16	40.1 93	37.9 88	11.6 27	2.2 5	1.3 3	3.38
	60歳代	100.0 290	7.9 23	35.2 102	40.3 117	11.0 32	4.1 12	1.4 4	3.32
	70歳以上	100.0 361	12.5 45	33.5 121	41.0 148	6.4 23	1.9 7	4.7 17	3.51

【表4-3-1 性・年齢別 自分自身に対する評価④】

(ス) 友人は多いほうだ

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	10.3 160	21.2 329	32.2 500	25.9 402	8.3 129	2.0 31	2.99
性別	男性	100.0 574	6.8 39	19.0 109	37.5 215	26.7 153	8.7 50	1.4 8	2.88
	女性	100.0 944	12.4 117	22.5 212	29.0 274	26.0 245	8.2 77	2.0 19	3.05
年齢別	16～19歳	100.0 195	23.1 45	23.1 45	26.2 51	19.0 37	8.7 17	-	3.33
	20歳代	100.0 205	14.6 30	18.5 38	32.7 67	23.4 48	9.8 20	1.0 2	3.05
	30歳代	100.0 226	8.0 18	17.3 39	33.2 75	30.1 68	11.5 26	-	2.80
	40歳代	100.0 267	7.5 20	18.4 49	33.0 88	31.5 84	9.0 24	0.7 2	2.84
	50歳代	100.0 232	11.6 27	22.8 53	29.3 68	25.0 58	9.9 23	1.3 3	3.01
	60歳代	100.0 290	7.2 21	20.7 60	34.8 101	26.2 76	8.6 25	2.4 7	2.92
	70歳以上	100.0 361	13.6 49	25.2 91	31.9 115	20.5 74	5.0 18	3.9 14	3.23

(セ) デモや集会など、市民の自発的な意思表示の機会などには参加するほうだ (上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	1.1 17	3.2 49	15.1 234	30.0 465	49.0 760	1.7 26	1.75
性別	男性	100.0 574	1.4 8	3.8 22	17.9 103	33.1 190	42.3 243	1.4 8	1.87
	女性	100.0 944	0.6 6	2.8 26	12.9 122	28.1 265	54.0 510	1.6 15	1.66
年齢別	16～19歳	100.0 195	0.5 1	2.6 5	11.8 23	21.5 42	63.6 124	-	1.55
	20歳代	100.0 205	-	2.9 6	8.3 17	20.5 42	67.8 139	0.5 1	1.46
	30歳代	100.0 226	0.4 1	0.9 2	10.6 24	24.8 56	63.3 143	-	1.50
	40歳代	100.0 267	0.4 1	0.7 2	7.9 21	27.0 72	63.3 169	0.7 2	1.47
	50歳代	100.0 232	0.4 1	2.6 6	12.5 29	35.8 83	47.4 110	1.3 3	1.71
	60歳代	100.0 290	1.7 5	2.8 8	18.6 54	35.5 103	40.0 116	1.4 4	1.89
	70歳以上	100.0 361	1.7 6	6.1 22	24.7 89	31.0 112	32.7 118	3.9 14	2.10

性別でみると、「サ. 人間関係のトラブルが生じたら相談できる人がいる」については、「あてはまる」（「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合）で男女差が大きく、女性のほうが男性に比べて29ポイント高くなっている。

また、平均評価点を性別でみると、「エ. 自分は、まわりの人から期待されていない、と思うことがある」「コ. 他人に何と思われようとも、自分が良いと思うことを貫くほうだ」「セ. デモや集会など、市民の自発的な意思表示の機会などには参加するほうだ」では男性の点数のほうが高いが、それ以外の項目では女性のほうが高くなっている。

平均評価点を年齢別でみると、点数がもっとも高いのは「ア. 現在、自分の生活は充実していると思う」（4.06）、「ケ. 困っている人を見ると、放ってはおけない」（3.77）、「コ. 他人に何と思われようとも、自分が良いと思うことを貫くほうだ」（3.62）、「ス. 友人は多いほうだ」（3.33）では16～19歳、「オ. 自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいかないことが多い」（3.49）、「カ. どんな時でも、自分を受け入れ、認めてくれる人がいる」（4.21）、「キ. 信頼できる少数の友人と、深くつきあうほうだ」（4.26）、「ク. ぐちの聞き役になることが多い」（3.69）、「サ. 人間関係のトラブルが生じたら相談できる人がいる」（4.03）、「シ. 目上の人の言うことには、素直に従うほうだ」（3.81）では20歳代、「イ. 長所も短所も含めて、自分のことが好きだ」（3.67）では50歳代、「ウ. 自分は、人とうまくやっていける人間だと思う」（3.76）、「セ. デモや集会など、市民の自発的な意表表示の機会などには参加するほうだ」（2.10）では70歳以上となっている。（表4-3-1）

「ア」「イ」「エ」「オ」について、「自尊感情得点」として指標化した。「ア」と「イ」については、「よくあてはまる」を5点、「ややあてはまる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点、「エ」と「オ」については、逆に「よくあてはまる」を1点、「ややあてはまる」を2点、「どちらともいえない」を3点、「あまりあてはまらない」を4点、

「全く当てはまらない」を5点として、合計20点満点である。この得点が高いほど、自己に肯定的な感情をもっているといえる。

また、「ウ」「カ」「サ」「ス」を「人間関係得点」として指標化した。「よくあてはまる」を5点、「ややあてはまる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点の合計20点満点である。この得点が高いほど、良好な人間関係を気づいているといえる。

では、「自尊感情」や「人間関係」と人権意識の間に関連はみられるだろうか。自尊感情と人権意識の関係を見るため、前項で作成した「自尊感情得点」を得点別に「上位」「中位」「下位」に三分割し、人権意識を聞いている問1の項目との間で分散分析を行った。自尊感情得点「上位」「中位」「下位」グループ間で、人権意識を尋ねる質問項目への回答の傾向(ばらつき)に差があるかどうかを確かめるものである。

例えば、自尊感情が「低」グループの「人権意識の平均」(表中2列目の(I))が、「中」「高」(表中3列目の(J))グループの「人権意識の平均」に比して統計的に違いがあるか(表中4列目の「平均の差(I-J)」)を見るものである。「人権意識の平均」とは、アからケのそれぞれの問いに対して、「よくあてはまる」から「全く当てはまらない」までの5段階で回答したものを得点化し、自尊感情「高」「中」「低」グループごとにその平均を取ったものである。「表中の各質問(ア～ケ)は、3段になっているが、それぞれ上から「低位と中位」、「低位と高位」、「中位と高位」の間の差を示している。表中4列目の「平均の差(I-J)」に*がついている項目が、5%水準で統計的に有意な差がある。

「ア. 女性ということで、男性より、給料や昇進で低い評価を受けること」は、自尊感情が「低」グループと「中」グループの差は、0.120、「低」グループと「高」グループの差は0.169、「中」グループと「高」グループとの差は、0.049であり、「低」グループと「高」グループの間に統計的な差がみられる。いっぽう、「低」グループと「中」グループの間および「中」グループと「高」グループの間には統計的な差は見られない。言い換えると自尊感情が高いグループは、低いグループに比して「女性ということで、男性より、給料や昇進で低い評価を受けること」を望ましいとは思っていないということがわかる。

【表4-3-2 多重比較】

従属変数	(I) 自尊	(J) 自尊	平均の差 (I-J)	標準誤差	有意確率	95% 信頼区間	
	感情	感情				下限	上限
ア. 女性ということで、男性より、給料や昇進で低い評価を受けること	低位	中位	.120	.060	.111	-.02	.26
		高位	.169*	.063	.019	.02	.32
	中位	高位	.049	.060	.690	-.09	.19
イ. 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと	低位	中位	.154	.068	.060	-.01	.31
		高位	.229*	.071	.004	.06	.40
	中位	高位	.075	.068	.508	-.08	.23
ウ. 障害のある人が結婚したり子どもを育てることに、周囲が反対すること	低位	中位	.120	.065	.151	-.03	.27
		高位	.191*	.068	.013	.03	.35
	中位	高位	.071	.065	.514	-.08	.22
エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと	低位	中位	.038	.074	.861	-.13	.21
		高位	.206*	.077	.021	.03	.39
	中位	高位	.167	.074	.060	-.01	.34
オ. 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べること	低位	中位	.138	.068	.108	-.02	.30
		高位	.195*	.071	.018	.03	.36
	中位	高位	.057	.068	.679	-.10	.22
カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること	低位	中位	-.023	.058	.918	-.16	.11
		高位	-.016	.060	.964	-.16	.13
	中位	高位	.007	.057	.992	-.13	.14
キ. 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が「夜遅くに外出した」「スキがあった」などと非難すること	低位	中位	.011	.065	.984	-.14	.16
		高位	.122	.068	.176	-.04	.28
	中位	高位	.110	.065	.210	-.04	.26
ク. HIV感染を理由に、労働者が解雇されること	低位	中位	.123	.063	.124	-.02	.27
		高位	.154*	.065	.049	.00	.31
	中位	高位	.031	.063	.871	-.12	.18
ケ. 犯罪被害者が名前や住所を報道されること	低位	中位	.151	.077	.124	-.03	.33
		高位	.152	.080	.141	-.04	.34
	中位	高位	.002	.077	1.000	-.18	.18

* . 平均値の差は 0.05 水準で有意

同様に、「イ. 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと」「ウ. 障害のある人が結婚したり子どもを育てることに、周囲が反対すること」「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」「オ. 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べること」「ク. HIV感染を理由に、労働者が解雇されること」の項目で、弱いながら自尊感情「上位」と「下位」グループの間に有意な差がみられた（表中の太字）。自尊感情が高いグループが、低いグループと比べてこれらの項目において「人権意識」が高いことがうかがわれる。

一方、「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」「キ. 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が『夜遅くに外出した』『スキがあった』などと非難すること」「ケ. 犯罪被害者が名前や住所を報道されること」については、自尊感情との間に関連がみられなかった。

表は省略するが、同様の操作を問2、問3との間においても行ったが、自尊感情との間に高い関連をみることはできなかった。

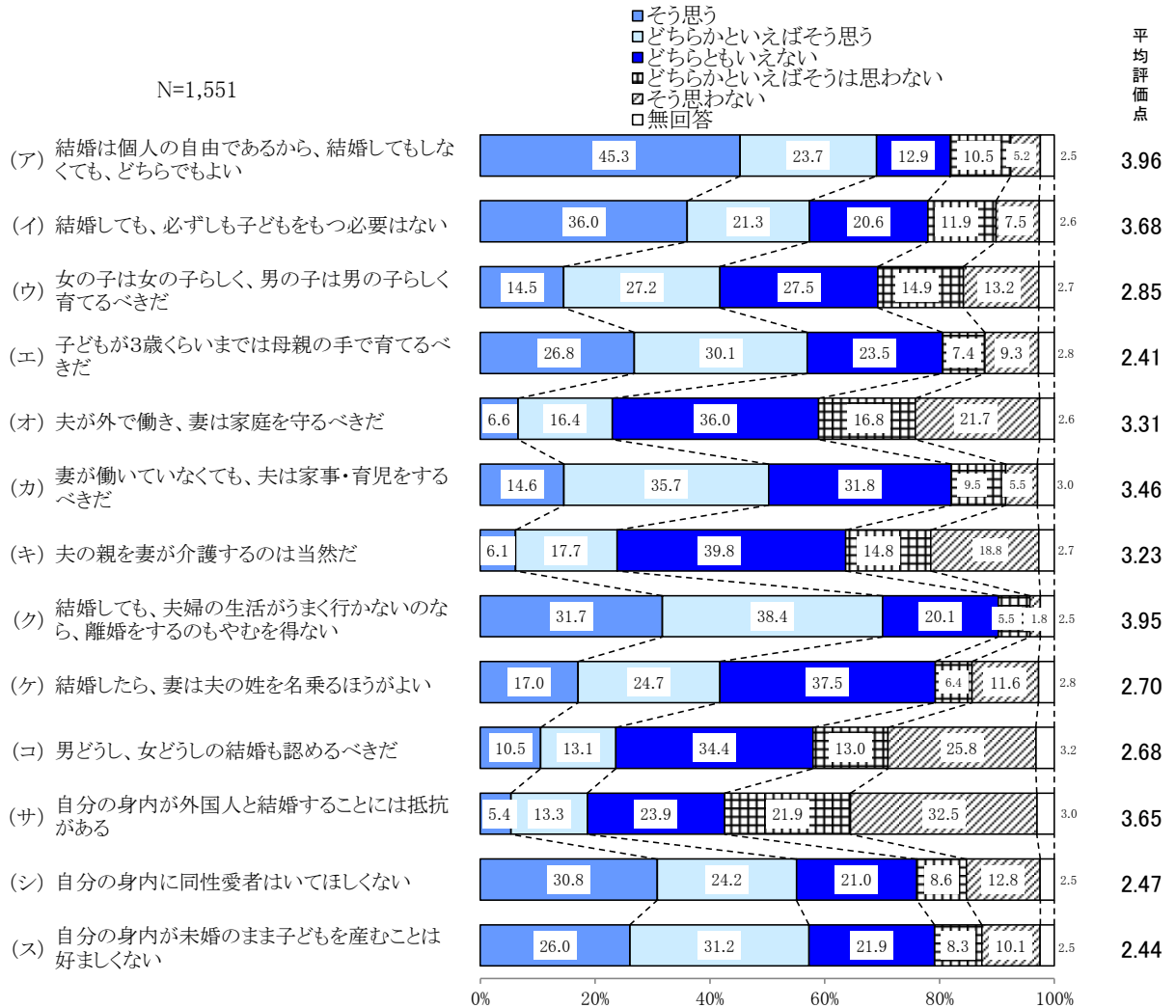
次に、人間関係と人権意識についても、自尊感情と同様の操作を行ったが、高い関連をみることはできなかった。

自尊感情は、項目によっては、人権意識と関連をみることができたが、人間関係については、人権意識とは関連がないことがうかがわれる。（表4-3-2）

(4) 家族にかかわる人権

問9 次のような家族に関わるいろいろな見方や考え方について、あなたはどのように思いますか。ア～スのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図4-4 家族にかかわる人権】



* 平均評価点(スコア) : (ウ)(エ)(オ)(キ)(ケ)(サ)(シ)(ス)

そう思う	1点
どちらかといえばそう思う	2点
どちらともいえない	3点
どちらかといえばそうは思わない	4点
そう思わない	5点
無回答	-点

* 平均評価点(スコア) : (ア)(イ)(カ)(ク)(コ)

そう思う	5点
どちらかといえばそう思う	4点
どちらともいえない	3点
どちらかといえばそうは思わない	2点
そう思わない	1点
無回答	-点

家族にかかわる人権について尋ねると、「ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい」については、「そう思う」(45.3%)、「どちらかといえばそう思う」(23.7%)と、7割近くの人が結婚は個人の自由であると考えている。「イ. 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」については、「そう思う」(36.0%)、「どちらかといえばそう思う」(21.3%)と、半数を超える人が子どもをもつことは個人の自由であると考えていることがわかる。「ウ. 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ」については、「そう思う」(14.5%)、「どちらかといえばそう思う」

(27.2%) と、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ」という意見を肯定した人は半数を下回っている。

「エ. 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」については、「そう思う」(26.8%)、「どちらかといえばそう思う」(30.1%) と、半数を超える人が肯定していることがわかる。「オ. 夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ」については、「そう思う」6.6%、「どちらかといえばそう思う」16.4% と、肯定する人の率が非常に低い。一方、「カ. 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ」については、「そう思う」14.6%、「どちらかといえばそう思う」35.7%と、半数を超える人が肯定している。しかし、「キ. 夫の親を妻が介護するのは当然だ」については、「そう思う」6.1%、「どちらかといえばそう思う」17.7%と、肯定する人の率が非常に低い(ただし、「どちらともいえない」を選択した人の率をもっとも高かったことに注意されたい)。

「ク. 結婚しても、夫婦の生活がうまく行かないのなら、離婚をするのもやむを得ない」については、「そう思う」31.7%、「どちらかといえばそう思う」38.4%と、肯定する人の率が7割を超えているが、「ケ. 結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい」については、「そう思う」17.0%、「どちらかといえばそう思う」24.7%と、肯定する人の率が半数を下回っている。「コ. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ」については、「そう思う」10.5%、「どちらかといえばそう思う」13.1%と、肯定する人の率が非常に低い。

「サ. 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある」については、「そう思う」5.4%、「どちらかといえばそう思う」13.3%と、抵抗があると思う人の割合は非常に低いものとなっている。「シ. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」については、「そう思う」30.8%、「どちらかといえばそう思う」24.2%と、「自分の身内に同性愛者はいてほしくない」と思う人の割合は半数に達する。「ス. 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない」については、「そう思う」26.0%、「どちらかといえばそう思う」31.2%と、「自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない」という意見を肯定する人の割合は半数を超えている。

平均評価点をみると、高いのは、「ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい」と「ク. 結婚しても、夫婦の生活がうまく行かないのなら、離婚をするのもやむを得ない」で、4に近くなっており、逆に低いのは、「エ. 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」「シ. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」「ス. 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない」で、いずれも2.5を下回っている。結婚や離婚を個人の選択の自由だと考える人が増えている一方で、3歳児神話は依然として根強く、セクシュアル・マイノリティやシングルマザーに対する理解は低いといえる。

【表4-4-1 性・年齢別 家族にかかわる人権①】

(ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい

	回答者数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそうは思わない	そう思わない	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	45.3 702	23.7 368	12.9 200	10.5 163	5.2 80	2.5 38	3.96	
性別	男性	100.0 574	39.4 226	21.1 121	16.7 96	13.4 77	7.1 41	2.3 13	3.74
	女性	100.0 944	49.6 468	25.7 243	10.4 98	8.6 81	3.8 36	1.9 18	4.11
年齢別	16～19歳	100.0 195	65.6 128	21.5 42	9.2 18	2.1 4	0.5 1	1.0 2	4.51
	20歳代	100.0 205	62.0 127	23.4 48	7.3 15	4.4 9	2.4 5	0.5 1	4.39
	30歳代	100.0 226	63.7 144	19.5 44	9.3 21	5.3 12	1.8 4	0.4 1	4.39
	40歳代	100.0 267	49.4 132	25.5 68	12.4 33	9.0 24	1.9 5	1.9 5	4.14
	50歳代	100.0 232	44.0 102	29.7 69	12.5 29	9.5 22	2.6 6	1.7 4	4.05
	60歳代	100.0 290	38.6 112	26.6 77	16.2 47	10.7 31	6.6 19	1.4 4	3.81
	70歳以上	100.0 361	30.2 109	20.2 73	15.2 55	18.6 67	11.4 41	4.4 16	3.41

(イ) 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない

(上段：%、下段：人)

	回答者数	そう思う	思う	どちらかといえばそう	どちらともいえない	は思わない	どちらかといえばそう	そう思わない	無回答	平均評価点
総数	100.0 1,551	36.0 559	21.3 330	20.6 320	11.9 184	7.5 117	2.6 41	2.6 41	3.68	
性別	男性	100.0 574	32.1 184	21.1 121	20.0 115	13.9 80	10.6 61	2.3 13	3.51	
	女性	100.0 944	39.1 369	21.6 204	21.0 198	10.5 99	5.6 53	2.2 21	3.80	
年齢別	16～19歳	100.0 195	63.6 124	19.0 37	12.8 25	3.6 7	1.0 2	- -	4.41	
	20歳代	100.0 205	57.6 118	22.9 47	12.7 26	3.9 8	2.4 5	0.5 1	4.30	
	30歳代	100.0 226	52.7 119	26.1 59	12.8 29	5.8 13	2.2 5	0.4 1	4.22	
	40歳代	100.0 267	43.1 115	22.8 61	17.2 46	11.2 30	3.7 10	1.9 5	3.92	
	50歳代	100.0 232	35.8 83	21.1 49	22.8 53	12.9 30	5.2 12	2.2 5	3.71	
	60歳代	100.0 290	26.9 78	21.0 61	26.9 78	14.5 42	9.3 27	1.4 4	3.42	
	70歳以上	100.0 361	18.6 67	16.6 60	25.8 93	16.9 61	16.9 61	5.3 19	3.03	

(ウ) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ

	回答者数	そう思う	思う	どちらかといえばそう	どちらともいえない	は思わない	どちらかといえばそう	そう思わない	無回答	平均評価点
総数	100.0 1,551	14.5 225	27.2 422	27.5 427	14.9 231	13.2 204	2.7 42	2.7 42	2.85	
性別	男性	100.0 574	20.7 119	32.9 189	25.8 148	9.1 52	9.2 53	2.3 13	2.52	
	女性	100.0 944	10.5 99	24.0 227	28.8 272	18.8 177	15.6 147	2.3 22	3.05	
年齢別	16～19歳	100.0 195	12.3 24	14.4 28	29.7 58	22.1 43	21.5 42	- -	3.26	
	20歳代	100.0 205	7.3 15	25.9 53	33.7 69	14.6 30	18.0 37	0.5 1	3.10	
	30歳代	100.0 226	7.5 17	23.9 54	30.5 69	19.9 45	17.3 39	0.9 2	3.16	
	40歳代	100.0 267	11.6 31	25.8 69	24.7 66	21.0 56	15.0 40	1.9 5	3.02	
	50歳代	100.0 232	10.3 24	23.7 55	29.7 69	18.1 42	15.9 37	2.2 5	3.06	
	60歳代	100.0 290	11.4 33	27.9 81	34.1 99	13.1 38	10.7 31	2.8 8	2.83	
	70歳以上	100.0 361	27.7 100	33.8 122	19.7 71	6.6 24	8.0 29	4.2 15	2.31	

(エ) 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ

(上段：%、下段：人)

	回答者数	そう思う	思う	どちらかといえばそう	どちらともいえない	は思わない	どちらかといえばそう	そう思わない	無回答	平均評価点
総数	100.0 1,551	26.8 416	30.1 467	23.5 365	7.4 115	9.3 145	2.8 43	2.8 43	2.41	
性別	男性	100.0 574	23.3 134	28.6 164	25.6 147	8.4 48	11.7 67	2.4 14	2.55	
	女性	100.0 944	29.3 277	31.4 296	22.2 210	6.8 64	8.1 76	2.2 21	2.31	
年齢別	16～19歳	100.0 195	24.6 48	22.6 44	32.8 64	8.2 16	11.3 22	0.5 1	2.59	
	20歳代	100.0 205	20.5 42	22.4 46	28.3 58	16.1 33	12.2 25	0.5 1	2.77	
	30歳代	100.0 226	13.7 31	27.0 61	31.4 71	11.9 27	15.5 35	0.4 1	2.88	
	40歳代	100.0 267	19.1 51	26.2 70	28.8 77	11.2 30	12.7 34	1.9 5	2.72	
	50歳代	100.0 232	24.6 57	32.8 76	23.3 54	7.8 18	9.5 22	2.2 5	2.44	
	60歳代	100.0 290	31.0 90	36.6 106	20.0 58	3.1 9	6.6 19	2.8 8	2.15	
	70歳以上	100.0 361	42.1 152	31.6 114	15.2 55	2.5 9	4.2 15	4.4 16	1.90	

【表 4-4-1 性・年齢別 家族にかかわる人権②】

(オ) 夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ

	回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない とい え ば そ う	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	6.6 102	16.4 254	36.0 558	16.8 261	21.7 336	2.6 40	3.31	
性別	男性	100.0 574	8.4 48	20.2 116	35.7 205	14.3 82	19.3 111	2.1 12	3.16
	女性	100.0 944	5.5 52	14.2 134	36.1 341	18.6 176	23.3 220	2.2 21	3.41
年齢別	16～19歳	100.0 195	4.6 9	9.7 19	29.7 58	19.5 38	36.4 71	-	3.73
	20歳代	100.0 205	4.9 10	16.1 33	26.3 54	21.0 43	31.2 64	0.5 1	3.58
	30歳代	100.0 226	4.4 10	12.8 29	36.3 82	18.6 42	27.4 62	0.4 1	3.52
	40歳代	100.0 267	3.7 10	13.9 37	34.5 92	22.1 59	24.0 64	1.9 5	3.50
	50歳代	100.0 232	3.4 8	11.2 26	36.6 85	20.3 47	25.9 60	2.6 6	3.55
	60歳代	100.0 290	6.2 18	16.6 48	42.4 123	13.8 40	19.3 56	1.7 5	3.24
	70歳以上	100.0 361	13.3 48	24.9 90	35.2 127	8.9 32	13.3 48	4.4 16	2.83

(カ) 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ

(上段：%、下段：人)

	回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない とい え ば そ う	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	14.6 226	35.7 553	31.8 493	9.5 147	5.5 86	3.0 46	3.46	
性別	男性	100.0 574	14.5 83	36.1 207	32.1 184	8.5 49	6.3 36	2.6 15	3.45
	女性	100.0 944	14.9 141	35.6 336	31.8 300	10.3 97	5.1 48	2.3 22	3.46
年齢別	16～19歳	100.0 195	23.6 46	42.1 82	24.1 47	6.2 12	4.1 8	-	3.75
	20歳代	100.0 205	24.4 50	31.7 65	24.4 50	11.7 24	6.8 14	1.0 2	3.56
	30歳代	100.0 226	21.2 48	35.8 81	28.8 65	8.8 20	4.9 11	0.4 1	3.60
	40歳代	100.0 267	16.1 43	43.1 115	27.0 72	7.9 21	4.1 11	1.9 5	3.60
	50歳代	100.0 232	12.9 30	40.9 95	27.6 64	12.9 30	3.4 8	2.2 5	3.48
	60歳代	100.0 290	12.8 37	32.4 94	36.6 106	9.7 28	6.6 19	2.1 6	3.36
	70歳以上	100.0 361	9.4 34	28.3 102	39.9 144	10.0 36	6.9 25	5.5 20	3.25

(キ) 夫の親を妻が介護するのは当然だ

	回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない とい え ば そ う	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	6.1 95	17.7 274	39.8 618	14.8 230	18.8 292	2.7 42	3.23	
性別	男性	100.0 574	7.1 41	18.5 106	44.3 254	13.4 77	14.3 82	2.4 14	3.09
	女性	100.0 944	5.5 52	17.3 163	37.3 352	15.9 150	21.9 207	2.1 20	3.32
年齢別	16～19歳	100.0 195	3.6 7	9.2 18	39.0 76	20.5 40	27.7 54	-	3.59
	20歳代	100.0 205	2.0 4	12.7 26	36.6 75	19.5 40	28.8 59	0.5 1	3.61
	30歳代	100.0 226	1.3 3	14.2 32	37.6 85	17.7 40	28.8 65	0.4 1	3.59
	40歳代	100.0 267	2.6 7	14.2 38	39.3 105	17.6 47	24.0 64	2.2 6	3.47
	50歳代	100.0 232	1.3 3	14.7 34	43.5 101	16.8 39	21.1 49	2.6 6	3.43
	60歳代	100.0 290	6.2 18	20.7 60	43.8 127	13.4 39	13.1 38	2.8 8	3.07
	70歳以上	100.0 361	15.8 57	22.4 81	41.0 148	8.0 29	9.1 33	3.6 13	2.71

(ク) 結婚しても、夫婦の生活がうまく行かないのなら、離婚を

するのもやむを得ない

(上段：%、下段：人)

	回答者数	そう思う	思う どちらか といえ ばそう	どちら ともい えない	は 思わ ない とい え ば そ う	そう 思 わ な い	無 回 答	平均 評 価 点	
総数	100.0 1,551	31.7 492	38.4 595	20.1 312	5.5 86	1.8 28	2.5 38	3.95	
性別	男性	100.0 574	28.7 165	37.1 213	23.0 132	6.8 39	2.3 13	2.1 12	3.85
	女性	100.0 944	34.1 322	39.8 376	18.0 170	4.6 43	1.6 15	1.9 18	4.02
年齢別	16～19歳	100.0 195	30.8 60	34.4 67	25.1 49	5.1 10	4.6 9	-	3.82
	20歳代	100.0 205	34.1 70	36.1 74	18.5 38	7.8 16	2.4 5	1.0 2	3.93
	30歳代	100.0 226	39.8 90	38.9 88	13.7 31	5.8 13	1.3 3	0.4 1	4.11
	40歳代	100.0 267	33.0 88	41.6 111	17.2 46	4.9 13	1.5 4	1.9 5	4.02
	50歳代	100.0 232	32.3 75	39.7 92	21.1 49	2.2 5	2.2 5	2.6 6	4.00
	60歳代	100.0 290	31.4 91	39.3 114	20.7 60	4.5 13	2.8 8	1.4 4	3.93
	70歳以上	100.0 361	26.3 95	35.5 128	25.8 93	7.5 27	1.1 4	3.9 14	3.82

【表 4-4-1 性・年齢別 家族にかかわる人権③】

(ケ) 結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい

		回答者数	そう思う	思う どちらか かといえ ばそう	どちらとも いえない	どちらか かといえ ばそう は 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	17.0 264	24.7 383	37.5 582	6.4 99	11.6 180	2.8 43	2.70
性別	男性	100.0 574	22.8 131	26.0 149	33.4 192	6.3 36	8.7 50	2.8 16	2.51
	女性	100.0 944	13.5 127	24.2 228	40.4 381	6.6 62	13.5 127	2.0 19	2.82
年齢別	16～19歳	100.0 195	9.2 18	22.1 43	41.0 80	9.7 19	17.9 35	- -	3.05
	20歳代	100.0 205	11.2 23	25.4 52	42.0 86	7.3 15	13.2 27	1.0 2	2.86
	30歳代	100.0 226	8.0 18	22.6 51	44.7 101	8.4 19	15.9 36	0.4 1	3.02
	40歳代	100.0 267	10.5 28	24.0 64	43.1 115	4.9 13	15.4 41	2.2 6	2.90
	50歳代	100.0 232	11.2 26	21.6 50	42.7 99	8.2 19	13.8 32	2.6 6	2.92
	60歳代	100.0 290	18.3 53	29.3 85	36.6 106	5.2 15	8.6 25	2.1 6	2.56
	70歳以上	100.0 361	32.1 116	23.3 84	29.1 105	4.7 17	6.4 23	4.4 16	2.27

(コ) 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ

		回答者数	そう思う	思う どちらか かといえ ばそう	どちらとも いえない	どちらか かといえ ばそう は 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	10.5 163	13.1 203	34.4 533	13.0 202	25.8 400	3.2 50	2.68
性別	男性	100.0 574	7.1 41	9.1 52	31.7 182	13.9 80	35.4 203	2.8 16	2.37
	女性	100.0 944	12.6 119	15.8 149	36.7 346	12.5 118	19.8 187	2.6 25	2.89
年齢別	16～19歳	100.0 195	23.6 46	25.6 50	33.3 65	8.7 17	8.7 17	- -	3.47
	20歳代	100.0 205	25.9 53	22.9 47	30.7 63	10.2 21	9.3 19	1.0 2	3.46
	30歳代	100.0 226	18.1 41	24.8 56	39.8 90	6.2 14	10.6 24	0.4 1	3.34
	40歳代	100.0 267	11.6 31	16.1 43	43.1 115	10.9 29	15.4 41	3.0 8	2.98
	50歳代	100.0 232	10.3 24	16.8 39	39.7 92	10.8 25	20.3 47	2.2 5	2.86
	60歳代	100.0 290	6.2 18	6.9 20	35.5 103	19.7 57	29.7 86	2.1 6	2.39
	70歳以上	100.0 361	2.5 9	2.8 10	22.2 80	16.9 61	49.9 180	5.8 21	1.84

(サ) 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある

		回答者数	そう思う	思う どちらか かといえ ばそう	どちらとも いえない	どちらか かといえ ばそう は 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	5.4 83	13.3 206	23.9 371	21.9 340	32.5 504	3.0 47	3.65
性別	男性	100.0 574	7.1 41	15.5 89	26.3 151	21.3 122	26.8 154	3.0 17	3.46
	女性	100.0 944	4.3 41	11.7 110	22.6 213	22.6 213	36.5 345	2.3 22	3.77
年齢別	16～19歳	100.0 195	2.6 5	9.2 18	14.4 28	20.0 39	53.8 105	- -	4.13
	20歳代	100.0 205	3.9 8	11.2 23	13.2 27	25.9 53	45.4 93	0.5 1	3.98
	30歳代	100.0 226	1.8 4	9.3 21	16.4 37	20.8 47	50.9 115	0.9 2	4.11
	40歳代	100.0 267	3.7 10	9.7 26	19.9 53	33.7 90	31.1 83	1.9 5	3.80
	50歳代	100.0 232	2.6 6	12.1 28	23.3 54	25.4 59	33.6 78	3.0 7	3.78
	60歳代	100.0 290	5.2 15	16.2 47	30.3 88	20.7 60	25.9 75	1.7 5	3.47
	70歳以上	100.0 361	11.4 41	16.9 61	31.6 114	12.2 44	22.4 81	5.5 20	3.18

(シ) 自分の身内に同性愛者はいてほしくない

		回答者数	そう思う	思う どちらか かといえ ばそう	どちらとも いえない	どちらか かといえ ばそう は 思わ ない	そう 思わ ない	無 回 答	平均 評 価 点
総数		100.0 1,551	30.8 478	24.2 376	21.0 325	8.6 134	12.8 199	2.5 39	2.47
性別	男性	100.0 574	39.7 228	23.5 135	19.0 109	6.3 36	9.2 53	2.3 13	2.20
	女性	100.0 944	25.5 241	25.1 237	22.1 209	10.4 98	14.9 141	1.9 18	2.63
年齢別	16～19歳	100.0 195	15.4 30	16.9 33	23.1 45	12.3 24	32.3 63	- -	3.29
	20歳代	100.0 205	14.1 29	22.9 47	22.0 45	13.7 28	26.3 54	1.0 2	3.15
	30歳代	100.0 226	18.6 42	20.8 47	23.0 52	14.6 33	22.1 50	0.9 2	3.01
	40歳代	100.0 267	21.3 57	22.8 61	24.7 66	13.5 36	15.7 42	1.9 5	2.79
	50歳代	100.0 232	25.0 58	25.4 59	28.4 66	9.5 22	9.5 22	2.2 5	2.52
	60歳代	100.0 290	38.3 111	27.6 80	19.0 55	3.8 11	10.0 29	1.4 4	2.19
	70歳以上	100.0 361	51.0 184	25.2 91	13.0 47	2.8 10	3.9 14	4.2 15	1.78

【表 4-4-1 性・年齢別 家族にかかわる人権④】

(ス) 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない

(上段：%、下段：人)

		回答者数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	は思わない	そう思わない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	26.0 404	31.2 484	21.9 339	8.3 128	10.1 157	2.5 39		2.44
性別	男性	100.0 574	30.3 174	31.0 178	21.1 121	8.0 46	7.3 42	2.3 13		2.29
	女性	100.0 944	23.6 223	31.7 299	22.2 210	8.6 81	12.0 113	1.9 18		2.53
年齢別	16～19歳	100.0 195	24.6 48	20.0 39	23.6 46	12.3 24	19.0 37	0.5 1		2.81
	20歳代	100.0 205	26.3 54	29.3 60	21.5 44	10.2 21	12.2 25	0.5 1		2.52
	30歳代	100.0 226	19.0 43	32.3 73	20.8 47	10.2 23	16.8 38	0.9 2		2.73
	40歳代	100.0 267	24.3 65	34.1 91	18.4 49	10.1 27	11.2 30	1.9 5		2.49
	50歳代	100.0 232	19.4 45	37.9 88	22.0 51	7.8 18	10.3 24	2.6 6		2.50
	60歳代	100.0 290	25.9 75	31.7 92	25.5 74	5.9 17	9.7 28	1.4 4		2.41
	70歳以上	100.0 361	35.7 129	26.0 94	23.3 84	6.6 24	4.4 16	3.9 14		2.15

性・年齢別にみると、「ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい」については、男女で大きな差がみられる。男性ではこの意見を肯定する人は 60.5%であったのに対し、女性は 75.3%である。また、年齢の差も大きい。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定回答は、16～19歳から 30歳代では 8割を超えているのに対し、70歳以上では 5割にとどまっている。「イ. 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」も、男女で差がみられる。この意見を肯定する人は、男性で 53.1%、女性で 60.7%である。この項目は、年齢による差がとくに顕著で、肯定回答は、16～19歳、20歳代では 8割を超えているのに対し、70歳以上では 35.2%である。そして、「ウ. 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ」も、男女と世代によって回答に差がみられる。この意見を肯定する人は、男性 53.7%、女性 34.5%と、男性のほうが 19ポイントほど高く、年齢別では、16～19歳 26.7%で、20歳代から 60歳代の年齢層でも 30%台であるが、70歳以上では 61.5%となっている。男性と年長世代が「女は女らしく、男は男らしく」を強く肯定していることがわかる。とりわけ 70歳以上で肯定する割合が突出して高い。

「エ. 子どもが 3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ」を肯定する回答は、男性 51.9%、女性 60.7%と、女性のほうが肯定する人の割合が高かった。特徴的なのは、他世代に比べて、30歳代を中心とした子育て世代で肯定する割合が顕著に低いことである。肯定回答は、16～19歳から 40歳代では 4割程度であるのに対し、50歳代 57.3%、60歳代 67.6%で、70歳以上では 73.7%に達した。この規範のずれが、子育て世代と、その親や祖父母世代との間に葛藤をもたらしている可能性が十分に考えられる。

「オ. 夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に対する肯定回答は、男性 28.6%、女性 19.7%と、女性の割合はとりわけ低いものとなっている。世代についていえば、20歳代がやや高いものの(21.0%)、16～19歳と 30歳代から 50歳代では肯定する人の率は 10%台程度である。60歳代でも 22.8%、70歳以上も 38.2%にとどまっている。また、「カ. 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ」に

については性別による差はみられないものの、世代による意識の差ははっきりとみてとれる。肯定回答は、70歳以上がもっとも低く、37.7%で、16～19歳がもっとも高く、65.6%である。

「キ. 夫の親を妻が介護するのは当然だ」に対する肯定回答は、男性 25.6%、女性 22.8%と、男性のほうがやや肯定する人の率が高い。世代の差はみられたものの、もっとも低い16～19歳で12.8%、もっとも高い70歳以上でも38.2%にとどまっている。「ク. 結婚しても、夫婦の生活がうまく行かないのなら、離婚をするのもやむを得ない」については男女の差が顕著である。肯定回答は、男性は65.9%であるのに対し、女性は73.9%に達している。年齢別にみると、30歳代、40歳代で肯定する人の率が高く、16～19歳と70歳以上で肯定する人の率が低い。

「ケ. 結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい」という意見を肯定する人は、男性48.8%、女性37.6%と、男女の差が顕著である。世代でみると、16～19歳から50歳代にかけての年齢層では30%台であるが（これらの世代においては「どちらともいえない」を選択した人の率が非常に多い）、60歳代47.6%、70歳以上55.4%に達している。また、「コ. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ」についても、性別と世代に大きな差がみられる。肯定回答は、男性16.2%に対し、女性は28.4%である。世代についていえば、若いほど肯定する人の率が高く、70歳以上では5.3%しか肯定する人がいないのに対し、16～19歳では49.2%に達している。そして、「サ. 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある」も、男女と世代で差がみられる。肯定回答は、男性22.6%、女性16.0%で、16～19歳から50歳代にかけては10%前半であるが、60歳代では21.4%、70歳以上では28.3%となっている。

「シ. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない」も、男女と世代で差がみられる。肯定回答は、男性63.2%、女性50.6%であり、年齢別でみると、もっとも低い16～19歳が32.3%で、年齢が高いほど上昇し、もっとも高い70歳以上では76.2%となっている。「ス. 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない」も男女と世代で差がみられる。肯定回答は、男性61.3%、女性55.3%と、男性のほうがやや多く、年齢別では16～19歳が44.6%、20歳代から60歳代にかけてが50%台、70歳以上では61.8%となっている。

家族についての考え方に関する項目全体を通してみると、つぎのような傾向がみてとれる。

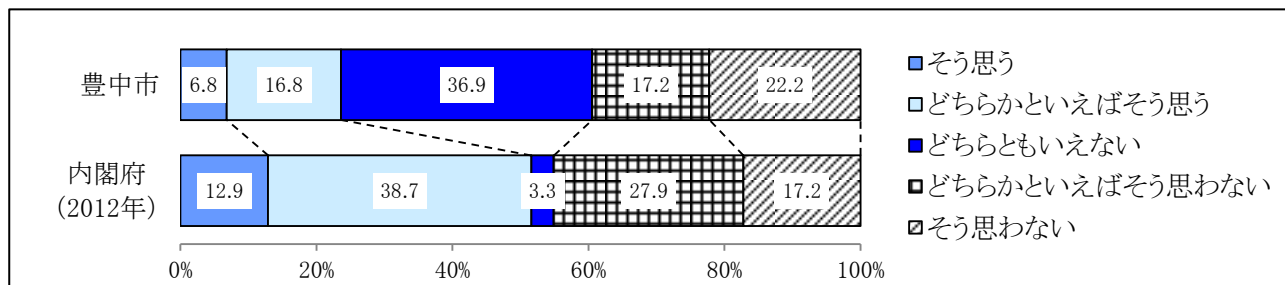
第1に、結婚の自由化である。「結婚」(ア)や「子どもをもつこと」(イ)を、個人の自由や選択だとする人の割合が高く、その傾向は女性や若者層に特に顕著であった。また、「離婚をするのもやむを得ない」(ク)を肯定する率も非常に高い。結婚を「自由な選択」だと考えることが、離婚の許容度と結びついているのである。

第2に、ジェンダー規範の緩和である。「女は女らしく、男は男らしく」(ウ)や「夫は外、妻は家庭」(オ)、「夫の親を妻が介護するのは当然」(キ)、「妻は夫の姓を名乗るべき」(ケ)などについては、肯定する人の割合が低く、その傾向は女性や若年層に特に顕著であった。むしろ、「夫も家事・育児すべき」(カ)を肯定する率は高かった。ただし、「3歳までは母の手で」(エ)を肯定する人の率は比較的高かった（ただし、子育て世代を除く）。

第3に、家族の多様性への非許容性である。「同性同士の結婚も認めるべき」(コ)を肯定する人の割合は低かった。自分の身内が「外国人と結婚すること」(サ)については好ましくないとする人は非常に少なかったものの、自分の身内に「同性愛者がいること」(シ)、「未婚で子どもを産むこと」を好ましくないとする人の割合は半数を超えた。ただし、これらの項目も、性別と世代の差が非常に大きく、女性や若年層では、多様性への許容度も比較的高い。

これらの調査結果を全国と比較してみたときに、顕著な差異がみられる項目が、「(オ) 夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ」である。内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2012年10月)と比較してみよう(図4-4-1。ただし、内閣府の調査は回答項目が「賛成/どちらかといえば賛成/わからない/どちらかといえば反対/反対」と、本調査とは異なっている)。

【図4-4-1 夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ】



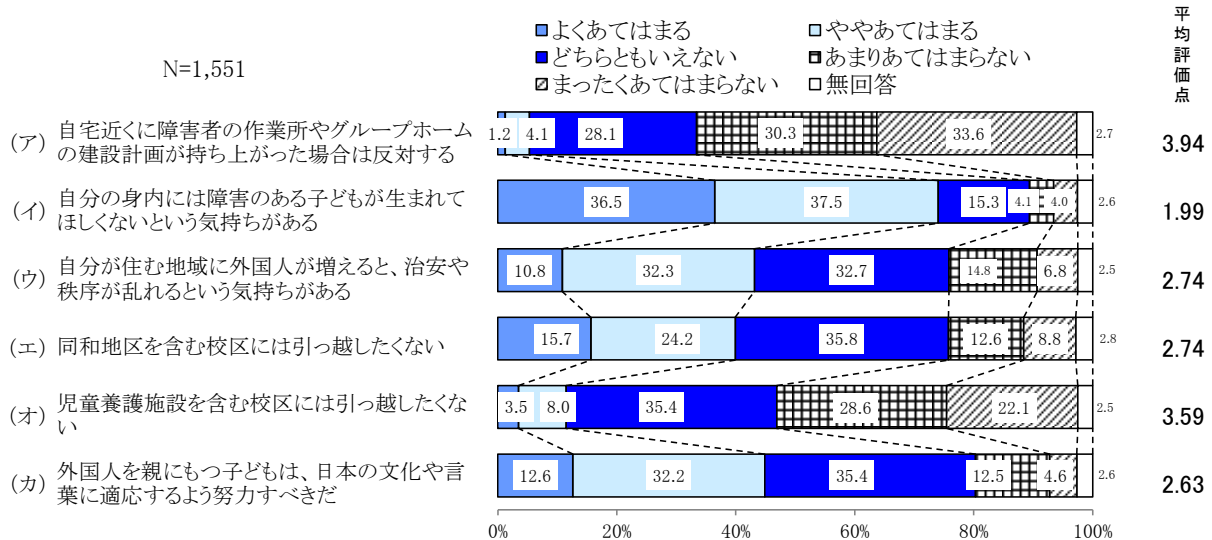
*図4-4-1については、内閣府の図にあわせるため、無回答の人を抜いて、割合を算出している。

これによると、豊中市は、全国と比べて、「夫は外、妻は家庭」という性別役割分業を支持する人の率が圧倒的に低いことがわかる。

(5) 身近な人権問題

問 10 次のような意見や考え方に対し、あなたはどの程度あてはまると思われますか。
ア～カのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

【図4-5 身近な人権問題】



* 平均評価点(スコア)

よくあてはまる	1点
ややあてはまる	2点
どちらともいえない	3点
あまりあてはまらない	4点
まったくあてはまらない	5点
無回答	-点

この設問は、居住環境など個人の生活の中で想定される出来事、自分とは異なる人々の存在に対する理解や共感を尋ねるものである。

もっとも「あてはまる」と答えた人が多いのは、「イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくないという気持ちがある」である。実に36.5%が「あてはまる」、37.5%が「ややあてはまる」と答え、74%が程度の差はあれ、障害のある子どもの誕生に対して、否定的な考えをもっていることがわかる。また、「あてはまらない」「まったくあてはまらない」と答える人が1割に満たないのも、この設問のみである。

ついで、「ウ. 自分が住む地域に外国人が増えると、治安や秩序が乱れるという気持ちがある」に10.8%、32.3%が、また、「エ. 同和地区を含む校区には引っ越したくない」には、15.7%、24.2%が、「カ. 外国人を親にもつ子どもは、日本の文化や言葉に適應するよう努力すべきだ」は12.6%、32.2%が、それぞれ「あてはまる」「ややあてはまる」と答え、4割前後の高い割合となっている。

他方で、「ア. 自宅近くに障害者の作業所やグループホームの建設計画が持ち上がった場合は反対する」は1.2%、4.1%、「オ. 児童養護施設を含む校区には引っ越したくない」は3.5%、8.0%が、それぞれ「あてはまる」「ややあてはまる」と答えている。これらの施設が住居の近隣に存在することを問題視する人は少数派だといえる。

「あてはまる」という回答が多い4つの選択肢と、少ない2つの選択肢を比べると、回答者がこれら

の出来事が自分自身の生活に与える影響の大小を評価していることがうかがえる。つまり、自分の負担が増す、自分の生活に負の影響がありそうだと感じられる出来事への許容度が格段に低くなっている。
(図4-5)

【表4-5-1 性・年齢別 身近な人権問題①】

(ア) 自宅近くに障害者の作業所やグループホームの建設計画が持ち上がった場合は反対する

(イ) 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくないという気持ちがある
(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	1.2 19	4.1 63	28.1 436	30.3 470	33.6 521	2.7 42	3.94
性別	男性	100.0 574	1.6 9	4.2 24	27.4 157	28.0 161	35.9 206	3.0 17	3.95
	女性	100.0 944	1.1 10	3.9 37	28.5 269	32.2 304	32.5 307	1.8 17	3.93
年齢別	16～19歳	100.0 195	2.1 4	8.2 16	26.2 51	31.3 61	32.3 63	-	3.84
	20歳代	100.0 205	2.0 4	6.3 13	17.6 36	34.6 71	39.0 80	0.5 1	4.03
	30歳代	100.0 226	2.7 6	3.1 7	24.8 56	29.6 67	39.4 89	0.4 1	4.00
	40歳代	100.0 267	0.7 2	4.1 11	24.7 66	38.6 103	29.6 79	2.2 6	3.94
	50歳代	100.0 232	1.3 3	3.0 7	25.9 60	32.3 75	35.3 82	2.2 5	4.00
	60歳代	100.0 290	1.0 3	3.8 11	32.8 95	28.3 82	32.8 95	1.4 4	3.89
	70歳以上	100.0 361	1.1 4	3.9 14	34.3 124	24.4 88	31.3 113	5.0 18	3.85

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	36.5 566	37.5 582	15.3 238	4.1 63	4.0 62	2.6 40	1.99
性別	男性	100.0 574	40.2 231	37.1 213	13.2 76	3.7 21	3.7 21	2.1 12	1.91
	女性	100.0 944	34.4 325	38.0 359	16.6 157	4.4 42	4.2 40	2.2 21	2.04
年齢別	16～19歳	100.0 195	25.1 49	36.4 71	21.5 42	9.2 18	7.7 15	-	2.38
	20歳代	100.0 205	44.4 91	35.6 73	11.2 23	4.4 9	3.9 8	0.5 1	1.87
	30歳代	100.0 226	38.1 86	36.7 83	15.0 34	4.0 9	5.8 13	0.4 1	2.02
	40歳代	100.0 267	36.3 97	40.4 108	14.2 38	3.0 8	3.7 10	2.2 6	1.95
	50歳代	100.0 232	33.6 78	39.2 91	15.9 37	6.5 15	2.6 6	2.2 5	2.03
	60歳代	100.0 290	36.9 107	38.6 112	16.6 48	2.4 7	3.4 10	2.1 6	1.95
	70歳以上	100.0 361	38.5 139	34.1 123	15.2 55	4.4 16	3.6 13	4.2 15	1.96

(ウ) 自分が住む地域に外国人が増えると、治安や秩序が乱れるという気持ちがある

(エ) 同和地区を含む校区には引っ越したくない
(上段：%、下段：人)

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	10.8 168	32.3 501	32.7 507	14.8 230	6.8 106	2.5 39	2.74
性別	男性	100.0 574	11.8 68	34.8 200	29.8 171	13.2 76	7.7 44	2.6 15	2.69
	女性	100.0 944	10.3 97	31.1 294	34.9 329	15.6 147	6.4 60	1.8 17	2.76
年齢別	16～19歳	100.0 195	9.2 18	16.9 33	24.1 47	28.7 56	21.0 41	-	3.35
	20歳代	100.0 205	9.8 20	30.2 62	23.4 48	23.4 48	12.2 25	1.0 2	2.98
	30歳代	100.0 226	11.1 25	35.8 81	29.2 66	17.3 39	6.2 14	0.4 1	2.72
	40歳代	100.0 267	14.6 39	36.3 97	28.5 76	13.9 37	4.1 11	2.6 7	2.55
	50歳代	100.0 232	9.9 23	35.3 82	34.9 81	14.2 33	3.4 8	2.2 5	2.65
	60歳代	100.0 290	7.2 21	35.5 103	36.2 105	11.7 34	7.6 22	1.7 5	2.76
	70歳以上	100.0 361	12.5 45	25.2 91	39.9 144	11.9 43	6.6 24	3.9 14	2.74

		回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点
総数		100.0 1,551	15.7 243	24.2 376	35.8 556	12.6 196	8.8 136	2.8 44	2.74
性別	男性	100.0 574	12.4 71	22.3 128	39.5 227	12.5 72	10.6 61	2.6 15	2.86
	女性	100.0 944	17.8 168	25.8 244	33.7 318	12.6 119	7.7 73	2.3 22	2.66
年齢別	16～19歳	100.0 195	8.7 17	17.9 35	40.0 78	18.5 36	13.8 27	1.0 2	3.11
	20歳代	100.0 205	12.7 26	23.9 49	34.1 70	13.2 27	13.7 28	5.4 5	2.91
	30歳代	100.0 226	19.5 44	27.0 61	33.2 75	13.3 30	6.6 15	0.4 1	2.60
	40歳代	100.0 267	18.4 49	29.6 79	32.6 87	11.6 31	5.6 15	2.2 6	2.56
	50歳代	100.0 232	19.0 44	24.6 57	33.6 78	12.1 28	8.6 20	2.2 5	2.66
	60歳代	100.0 290	11.4 33	25.2 73	37.9 110	13.4 39	10.3 30	1.7 5	2.86
	70歳以上	100.0 361	14.7 53	19.4 70	39.9 144	11.6 42	9.4 34	5.0 18	2.81

【表4-5-1 性・年齢別 身近な人権問題②】

(オ) 児童養護施設を含む校区には引っ越したくない

	回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	3.5 54	8.0 124	35.4 549	28.6 443	22.1 342	2.5 39	3.59	
性別	男性	100.0 574	2.4 14	7.0 40	37.8 217	28.0 161	22.3 128	2.4 14	3.62
	女性	100.0 944	4.0 38	8.6 81	34.0 321	29.2 276	22.2 210	1.9 18	3.58
年齢別	16～19歳	100.0 195	3.1 6	7.2 14	31.8 62	26.7 52	31.3 61	-	3.76
	20歳代	100.0 205	2.0 4	7.3 15	26.3 54	32.7 67	30.2 62	1.5 3	3.83
	30歳代	100.0 226	4.9 11	4.9 11	27.0 61	38.1 86	24.8 56	0.4 1	3.73
	40歳代	100.0 267	3.0 8	9.7 26	32.6 87	31.5 84	21.0 56	2.2 6	3.59
	50歳代	100.0 232	2.6 6	7.8 18	36.6 85	27.6 64	23.3 54	2.2 5	3.63
	60歳代	100.0 290	2.8 8	6.9 20	42.8 124	25.9 75	20.3 59	1.4 4	3.55
	70歳以上	100.0 361	4.4 16	10.0 36	38.8 140	24.1 87	18.6 67	4.2 15	3.44

(カ) 外国人を親にもつ子どもは、日本の文化や言葉に適応するよう努力すべきだ
(上段：%、下段：人)

	回答者数	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	平均評価点	
総数	100.0 1,551	12.6 196	32.2 500	35.4 549	12.5 194	4.6 71	2.6 41	2.63	
性別	男性	100.0 574	16.0 92	36.4 209	29.8 171	11.0 63	4.2 24	2.6 15	2.50
	女性	100.0 944	10.6 100	30.4 287	38.5 363	13.7 129	4.9 46	2.0 19	2.71
年齢別	16～19歳	100.0 195	9.2 18	25.6 50	37.4 73	18.5 36	9.2 18	-	2.93
	20歳代	100.0 205	7.8 16	36.1 74	32.7 67	15.6 32	7.3 15	0.5 1	2.78
	30歳代	100.0 226	11.1 25	32.3 73	35.4 80	14.2 32	6.6 15	0.4 1	2.73
	40歳代	100.0 267	10.1 27	34.1 91	33.0 88	17.2 46	3.4 9	2.2 6	2.69
	50歳代	100.0 232	7.8 18	33.2 77	37.1 86	15.1 35	4.7 11	2.2 5	2.75
	60歳代	100.0 290	8.3 24	35.2 102	36.9 107	12.8 37	4.8 14	2.1 6	2.70
	70歳以上	100.0 361	23.3 84	31.3 113	32.7 118	5.8 21	2.5 9	4.4 16	2.30

性別による差が大きく出ているものは3つある。「イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくないという気持ちがある」に「あてはまる」と答えているのは、男性が40.2%、女性が34.4%と、男性が6ポイント近く高い。「エ. 同和地区を含む校区には引っ越したくない」には、男性が12.4%、女性が17.8%と、女性が5ポイントあまり高い。「カ. 外国人を親にもつ子どもは、日本の文化や言葉に適応するよう努力すべきだ」は男性が16.0%、女性が10.6%と、男性が5ポイントあまり高い。

年齢による差が大きく出ているのは、まず、「イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくないという気持ちがある」で、16～19歳で「よくあてはまる」が25.1%とやや低く、20歳代で44.4%と高くなっている。しかし、どの年代でもまんべんなく高い値といえるだろう。

また、「エ. 同和地区を含む校区には引っ越したくない」に対しては、20歳代以下の若年層では10%前後とやや低く、30歳代、40歳代、50歳代で、19.5%、18.4%、19.0%と高い。「カ. 外国人を親にもつ子どもは、日本の文化や言葉に適応するよう努力すべきだ」は70歳以上のみ「よくあてはまる」が23.3%と、他の年代の倍以上になっている。(表4-5-1)

【表 4-5-2 身近な人権問題（前回調査との比較）】

(%)

		よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
障害者の作業所などの建設計画に反対	2007年	2.2	4.7	34.3	28.1	28.5	1.6
	2013年	1.2	4.1	28.1	30.3	33.6	2.7
障害のある子どもが生まれてほしくない	2007年	20.9	25.7	29.0	12.0	10.4	2.0
	2013年	36.5	37.5	15.3	4.1	4.0	2.6
同和地区を含む校区には引っ越したくない	2007年	13.3	23.0	36.1	15.5	10.3	1.8
	2013年	15.7	24.2	35.8	12.6	8.8	2.8

前回調査（2007年）と比較すると、「イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくないという気持ちがある」に似た2007年の設問「イ. 自分の身内に障害のある子どもが産まれることはいやだ」は、「よくあてはまる」「まああてはまる」が20.9%、25.7%と、足して5割弱であった。しかし2013年には、7割以上が「あてはまる」と答えており、平均評価点も、2.64から1.99へ0.6ポイントあまり下がっている。設問の言い回しが多少変化している影響もあるかもしれないが、障害を持つことに対する認識が否定的な方向に変容していることは見逃せない。障害のある子どもに対する否定的な態度が、この5年間でここまで増大したことの背景にある社会変容についても、検証する必要があるだろう。

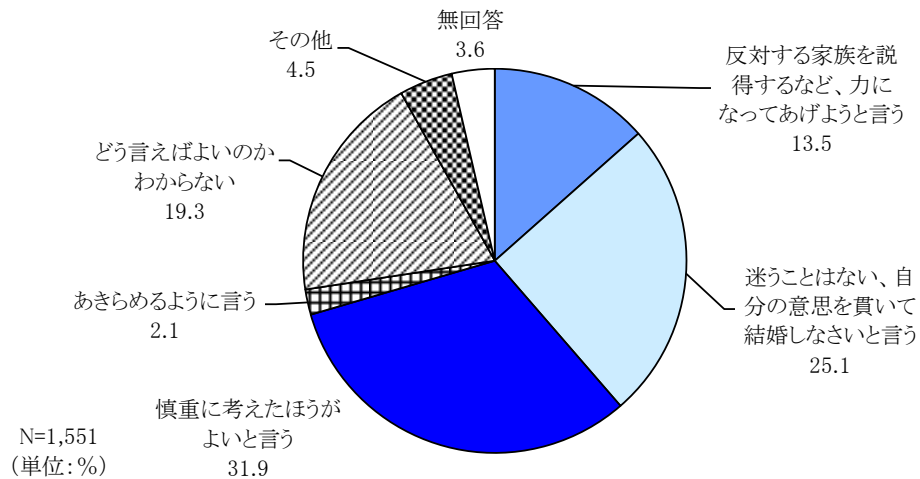
「エ. 同和地区を含む校区には引っ越したくない」は、2007年の「よくあてはまる」「まああてはまる」が13.3%、23.0%であったのと比べて、2013年には15.7%、24.2%と、わずかに上昇している。

他方、「ア. 自宅近くに障害者の作業所やグループホームの建設計画が持ち上がった場合は反対する」は、2007年には「自宅近くに障害者施設の建設計画が持ち上がったら反対する」と語句に多少の違いがあるが、2.2%、4.7%から1.2%、4.1%へとわずかだが減少している。（表4-5-2）

(6) 同和地区出身者との結婚を反対されている親類に対する態度

問 11 あなたの親類が結婚したいと思っている相手が同和地区の人で、そのことを理由に家族から結婚を反対されていることについて、あなたが相談を受けた場合、あなたならどのような態度をとると思いますか。最もお考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

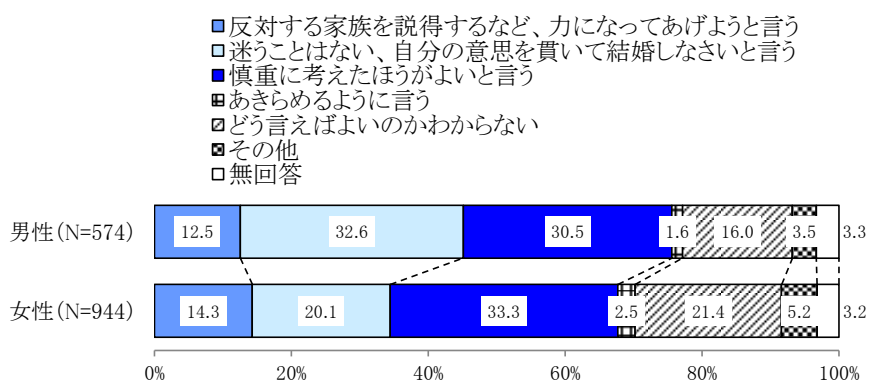
【図 4-6 同和地区出身者との結婚を反対されている親類に対する態度】



同和地区出身者との結婚を家族に反対されている人からの相談に対して、どのような態度をとるか尋ねたものである。

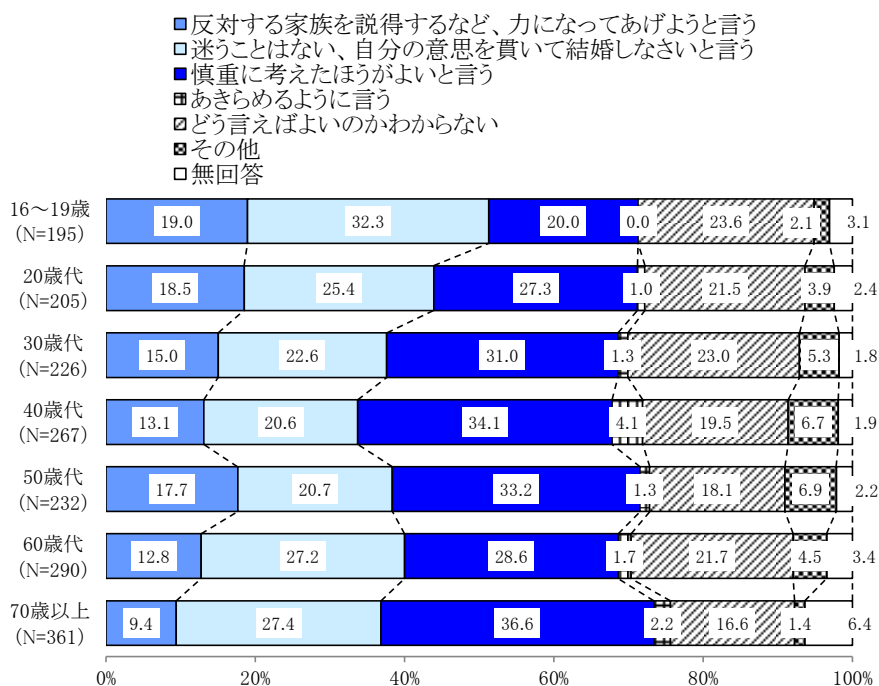
「家族の説得など、力になってあげようと言う」や「意思を貫いて結婚しなさいと言う」など、ともに結婚差別と闘おうとしたり、結婚を応援するなどの積極的な態度が全体の 38%を占めるが、「慎重に考えたほうがよいと言う」「あきらめるように言う」などの差別に加担して増幅しかねない消極的な態度も合計すると 34%となっている。結婚差別の渦中にいる人からの相談に対して、その差別に反対しようという態度と差別を容認する態度が拮抗しているといえよう。(図 4-6)

【図4-6-1 性別 同和地区出身者との結婚を反対されている親類に対する態度】



結婚差別の相談への態度を男女別で見ると、女性の「意思を貫いて結婚しなさいと言う」が男性に比べて12ポイント低い点が大きく目立っている。それとは逆に「どう言えばよいのかわからない」は男性よりも女性のほうが5.4ポイント高くなっている。「従属する性」としての作られた女性性が自信のなさにつながり、「意思を貫いて結婚しなさいと言う」よりも「どう言えばよいのかわからない」を選択することにつながったのではなかろうか。(図4-6-1)

【図4-6-2 年齢別 同和地区出身者との結婚を反対されている親類に対する態度】



年齢別で見ると、16～19歳や20歳代の若い世代に積極的態が多く、16～19歳では「力になってあげようと言う」「意思を貫いて結婚しなさいと言う」を合わせると半数を超え51%となり、20歳代でも44%に近い数字となっている。逆に子をもつ世代になってくる30歳代以降、次第にその積極的態は影をひそめ、30歳代で37.6%、40歳代では33.7%、50歳代では少し増えて38.4%となる。

その積極的態度のなかでも、「意思を貫いて結婚しなさい」を選択した人は16～19歳の32.3%が突出して多いが、20歳代で25.4%、そして60歳代、70歳以上でも27%を超えるなど、16～19歳を除いて世代による大きな差はみられない。一方、もうひとつの選択肢である「反対する家族を説得するなど力になってあげようと言う」はより具体的に渦中にいる人に対して働きかける態度であるが、それを選んだ人はもっとも多くても16～19歳の19%にとどまっており、年齢が高くなるにしたがい徐々に少なくなる傾向にあることがわかる。(図4-6-2)

【表4-6-1 問2「差別は人間として恥ずべき行為のひとつである」×問11「結婚差別の相談への態度」】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問11 結婚を反対されている親類への態度						無回答
			てす反 ある対 げなす よどの う、家 と力族 言にな うを説 つ得	婚分迷 しのう な意こ さ思と いはは と貫な 言いい うて、 結自	よ慎 い重 とに考 ええ うた ほう が	うあ きら め る よ うに 言	わど かう ら言 え ば よ い の か	そ の 他	
合計		100.0 1,551	13.5 209	25.1 390	31.9 494	2.1 33	19.3 299	4.5 70	3.6 56
問 2 ア	よくあてはまる	100.0 766	16.6 127	30.8 236	27.7 212	0.7 5	16.6 127	4.2 32	3.5 27
	ややあてはまる	100.0 501	12.6 63	20.8 104	35.3 177	2.2 11	22.2 111	4.2 21	2.8 14
	どちらともいえない	100.0 190	7.9 15	12.1 23	41.1 78	5.8 11	23.7 45	7.4 14	2.1 4
	あまりあてはまらない	100.0 40	2.5 1	37.5 15	32.5 13	2.5 1	15.0 6	5.0 2	5.0 2
	まったくあてはまらない	100.0 25	4.0 1	24.0 6	24.0 6	16.0 4	20.0 5	0.0 0	12.0 3

p=0.0000***

表4-6-1は、問2の人権や差別の問題についての考え方のうち、「ア. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである」と結婚差別の相談への態度をクロスさせたものである。差別を恥ずべき行為と捉える傾向の高い人ほど、結婚差別の相談を受けたときに家族の説得や意思を貫くなどの積極的な態度をとることがわかる。字数の都合から表は割愛するが、他の項目でも「イ. どんな理由があっても差別はいけない」や「ウ. 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある」「オ. 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ」「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」も、これらにあてはまる傾向が強い人ほど結婚差別の相談について積極的態度を示している。すなわち差別に反対し少数者の人権を尊重しようという態度は、結婚差別を相談されたとき、家族の説得や意思を貫くように言うなど、差別の渦中にいる人を支え、差別に対抗しようとする積極的態度につながるといえよう。(表4-6-1)

一方、それとは相反する項目「エ. 差別の原因は、差別された側にもある」と結婚差別の相談への態度をクロスさせてみるとどのようになるであろうか。

【表4-6-2 問2「差別の原因は差別された側にもある」×問11「結婚差別の相談への態度」】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問11 結婚を反対されている親類への態度						無回答
			てす反 ある対 げなす よど、 う力 とを う言 う	婚分迷 しの意 なさ思 いと貫 とを言 うて、 結自	よ慎 い重 とに考 ええ うた ほう が	うあ きら め るよ うに 言	わど か ら 言 え ば よ い の か	そ の 他	
合計		100.0 1,551	13.5 209	25.1 390	31.9 494	2.1 33	19.3 299	4.5 70	3.6 56
問 2 エ	よくあてはまる	100.0 83	15.7 13	24.1 20	33.7 28	8.4 7	14.5 12	1.2 1	2.4 2
	ややあてはまる	100.0 394	6.9 27	23.9 94	39.6 156	2.3 9	19.8 78	4.1 16	3.6 14
	どちらともいえない	100.0 577	14.2 82	20.6 119	34.5 199	2.1 12	19.2 111	5.2 30	4.2 24
	あまりあてはまらない	100.0 258	17.8 46	29.8 77	23.3 60	1.2 3	22.9 59	3.5 9	1.6 4
	まったくあてはまらない	100.0 201	18.9 38	35.8 72	18.9 38	0.5 1	16.4 33	6.5 13	3.0 6

p=0.0000***

この表からわかるように、差別の原因を被差別者側にも求める傾向のある人ほど、結婚差別の相談に対して積極的言動ではなく「慎重に考える」「あきらめるように言う」などと答える傾向にあるといえる。問2のうち、「カ. 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある」「ク. 人権を強調するあまり、権利にとまなう義務や責任をおろそかにするのはよくない」でも同様の傾向がうかがわれ、被差別者の権利や人権尊重に対して否定的な態度は結婚差別の相談に対して、差別に加担しかねない態度で接することがわかる。(表4-6-2)

【表4-6-3 問9「女の子らしく男の子らしく」×問11「結婚差別の相談への態度」】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問11 結婚を反対されている親類への態度						無回答
			てす反 ある対 げなす ようど うと家 言力族 うになを う説得	婚分迷 しのう な意こ さ思と いとを 貫はな いいい、 うて、 う結自	よ慎 いと重 とに考 言うえ うたほ ほうが	うあ きらめ るよう に言	わど か言え ばよ いのか	そ の他	
合計		100.0 1,551	13.5 209	25.1 390	31.9 494	2.1 33	19.3 299	4.5 70	3.6 56
問 9 ウ	そう思う	100.0 225	12.0 27	24.9 56	35.1 79	5.8 13	15.1 34	4.0 9	3.1 7
	どちらかといえば そう思う	100.0 422	11.8 50	20.9 88	38.6 163	2.4 10	21.6 91	3.1 13	1.7 7
	どちらともえない	100.0 427	12.4 53	25.1 107	30.0 128	1.4 6	23.2 99	5.6 24	2.3 10
	どちらかといえば そうは思わない	100.0 231	16.0 37	27.3 63	34.6 80	1.3 3	14.7 34	4.8 11	1.3 3
	そう思わない	100.0 204	20.1 41	34.3 70	19.1 39	0.5 1	18.1 37	5.4 11	2.5 5

p=0.0000***

【表4-6-4 問9「夫は仕事、妻は家庭」×問11「結婚差別の相談への態度」】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問11 結婚を反対されている親類への態度						無回答
			てす反 ある対 げなす ようど うと家 言力族 うになを う説得	婚分迷 しのう な意こ さ思と いとを 貫はな いいい、 うて、 う結自	よ慎 いと重 とに考 言うえ うたほ ほうが	うあ きらめ るよう に言	わど か言え ばよ いのか	そ の他	
合計		100.0 1,551	13.5 209	25.1 390	31.9 494	2.1 33	19.3 299	4.5 70	3.6 56
問 9 オ	そう思う	100.0 102	7.8 8	17.6 18	47.1 48	5.9 6	16.7 17	2.0 2	2.9 3
	どちらかといえば そう思う	100.0 254	10.6 27	21.7 55	37.4 95	2.4 6	22.0 56	4.7 12	1.2 3
	どちらともえない	100.0 558	14.9 83	24.7 138	31.2 174	1.6 9	19.9 111	4.8 27	2.9 16
	どちらかといえば そうは思わない	100.0 261	13.0 34	28.4 74	30.7 80	1.5 4	21.1 55	4.2 11	1.1 3
	そう思わない	100.0 336	16.4 55	29.8 100	27.4 92	2.4 8	16.7 56	5.1 17	2.4 8

p=0.0075**

また問9で尋ねたジェンダーに関わるもののうち、「ウ.女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ」「オ.夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ」の結果と、結婚差別の相談への態度についてクロス集計を行うと、表4-6-3、表4-6-4のようになった。「女の子らしく、男の子らしく育てるべき」について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人ほど、「家族を説得

するなど力になる」「自分の意思を貫くように」という積極的態度は少なく、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」人ではその値は増えている（表4-6-3）。「夫は仕事、妻は家庭」と考える人もまた同様の傾向にあり（表4-6-4）、ジェンダー容認感覚の強い人ほど結婚差別を相談されたとき、積極的態度ではなく消極的態度をとる傾向にあるといえよう。

【表4-6-5 問10「障害者の作業所建設反対」×問11「結婚差別の相談への態度」】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問11 結婚を反対されている親類への態度						無回答
			てす反 ある対 げなす よどの うと力 言にな うにつ	婚分迷 しのう な意こ さしと いをは と貫な 言いい うて、 結自	よ慎 い重 とに考 ええ うた ほう が	うあ きら め る よ う に 言	わど かう ら言 え ば よ い の か	そ の 他	
合計		100.0 1,551	13.5 209	25.1 390	31.9 494	2.1 33	19.3 299	4.5 70	3.6 56
問 10 ア	よくあてはまる	100.0 19	0.0 0	10.5 2	31.6 6	21.1 4	26.3 5	0.0 0	10.5 2
	ややあてはまる	100.0 63	4.8 3	20.6 13	42.9 27	7.9 5	20.6 13	1.6 1	1.6 1
	どちらともいえない	100.0 436	9.2 40	17.0 74	41.5 181	2.3 10	23.2 101	4.1 18	2.8 12
	あまりあてはまらない	100.0 470	11.9 56	24.9 117	33.4 157	1.7 8	21.5 101	4.9 23	1.7 8
	まったくあてはまらない	100.0 521	21.1 110	34.4 179	22.8 119	1.2 6	13.8 72	5.2 27	1.5 8

p=0.0000***

表4-6-5は、問10の身近な人権問題に関する設問のうち、「ア. 自宅近くに障害者の作業所やグループホームの建設計画が持ち上がった場合は反対する」と、結婚差別の相談への態度をクロスさせたものである。ここからは、障害者の作業所やグループホーム建設に反対する人ほど、結婚差別を相談されたときに「慎重に考えたほうがよい」「あきらめるように」と答える傾向があることがわかる。(表4-6-5)

この傾向は、表としてはあげていないが、同じく問10にある、「イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくない」「ウ. 自分が住む地域に外国人が増えると、治安や秩序が乱れる」「エ. 同和地区を含む校区には引っ越したくない」「オ. 児童養護施設を含む校区には引っ越したくない」「カ. 外国人を親にもつ子どもは、日本の文化や言葉に適応するよう努力すべきだ」すべてに当てはまっており、結婚差別を許容する態度と他の人権課題への否定的な態度は正の相関関係にあるということができよう。

【表4-6-6 問13「人権教育の経験」×問11「結婚差別の相談への態度」(16~59歳)】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問11 結婚を反対されている親類への態度						無回答
			てす反 ある対 げなす よど、 うと力 言う族 うにな 言う説 う得	婚分迷 しの意 なさ思 さいを いと貫 言うい うて、 結自	よ慎 いと重 言う考 うえ たほ うが	うあ きら め るよ うに 言	わど か ら 言 え ば よ い の か	そ の 他	
合計		100.0 1,551	13.5 209	25.1 390	31.9 494	2.1 33	19.3 299	4.5 70	3.6 56
の人 経権 験教 育	ある	100.0 697	18.1 126	23.1 161	30.3 211	2.2 15	18.9 132	5.7 40	1.7 12
	ない	100.0 151	6.6 10	23.2 35	36.4 55	2.0 3	22.5 34	6.6 10	2.6 4

p=0.0262*

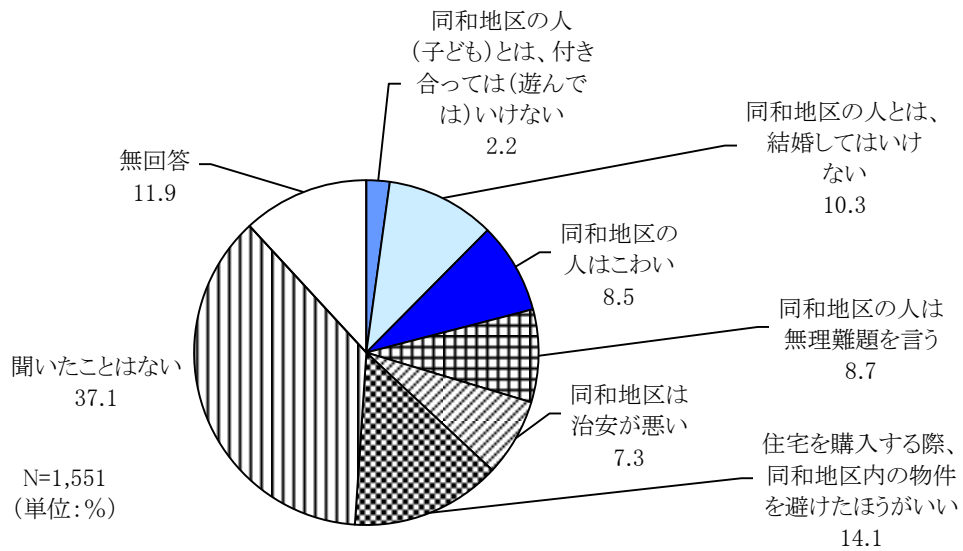
表4-6-6は、問13で尋ねた小学校から高校までの人権教育の有無と結婚差別の相談への態度をクロスさせたものである。とくに人権教育をうけた経験があるであろう世代(10代から50代)とそうでない世代を分け、教育経験との相関関係をより明確にしようと意図した。

この結果から人権教育の経験のある人のほうが、家族を説得する、自分の意思を貫くようにといった積極的態度をとる人が多いことがわかる。人権教育の有無は差別の渦中にある人からの相談に対して、大きな力となる可能性を秘めているといえるであろう。(表4-6-5)

(7) 同和問題に関する発言を聞いた経験

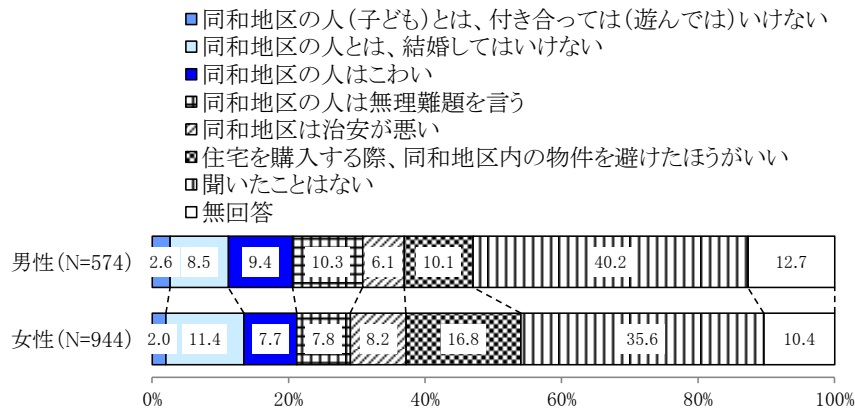
問 12 あなたは、これまでに同和問題に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。(○は1つ)

【図4-7 同和問題に関する発言を聞いた経験】



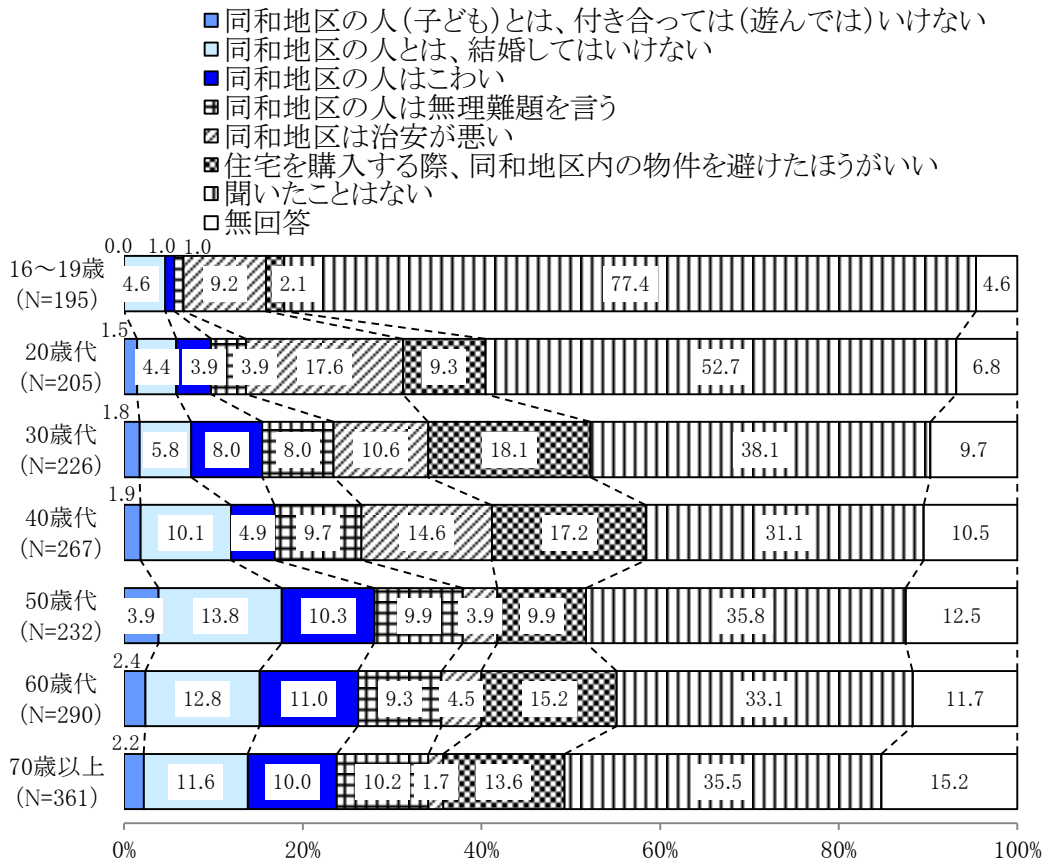
同和問題に関する差別的な発言（以下、差別発言という）を直接聞いた経験があるかどうか、尋ねたものである。差別発言を聞いたことがない人は 37.1%であり、それと無回答を除く 51.1%の人が差別発言を耳にした経験をもっていることになる。発言の具体例として挙げた「同和地区の人とは、付き合い合ってはいけない」「同和地区の人とは、結婚してはいけない」「同和地区の人はこわい」「同和地区の人は無理難題を言う」「同和地区は治安が悪い」「住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けたほうが良い」という発言のうち、いずれかが突出して多い訳ではない。「同和地区の人とは、付き合い合ってはいけない」が 2.2%と少ないが、「住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けたほうが良い」の 14.1%を筆頭に、「同和地区の人とは、結婚してはいけない」が 10.3%、「同和地区の人は無理難題を言う」が 8.7%、「同和地区の人はこわい」が 8.5%、「同和地区は治安が悪い」が 7.3%と続いている。(図4-7)

【図4-7-1 性別 同和問題に関する発言を聞いた経験】



性別でみると、「聞いたことはない」は男性のほうが女性に比べて4.6ポイント高く、一方「住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けたほうがいい」は女性のほうが男性に比べて6.7ポイント高くなっている。また、「同和地区の人とは、結婚してはいけない」も女性のほうが3ポイントほど高い。(図4-7-1)

【図4-7-2 年齢別 同和問題に関する発言を聞いた経験】



年齢別にみると、16～19歳、20歳代の若い世代では「聞いたことはない」がそれぞれ77.4%、52.7%と半数以上を占めているが、30歳代以上はいずれの世代でもそれは30%台で推移しており、社会に出て仕事をしたり生活したりするうちに、差別発言と出会う人が増えるということであろうか。

若い世代を中心に会った発言として目立つのが「治安が悪い」である。全体では7%ほどであったのに対し、16～19歳では差別発言を聞いたことがあると答えた人(17.9%)のうち、半数以上に当たる9.2%、20歳代(40.5%)でも半数近い17.6%を占めている。

30歳代、40歳代で会った発言として多いのが全体でもっとも高い数値となっていた「物件を避けたほうがいい」で、それぞれ18.1%、17.2%となっている。30歳代、40歳代はこれから不動産購入を検討する世代であり、一番印象に残ったのはまさに自分の課題に合致する発言であったのではなかろうか。

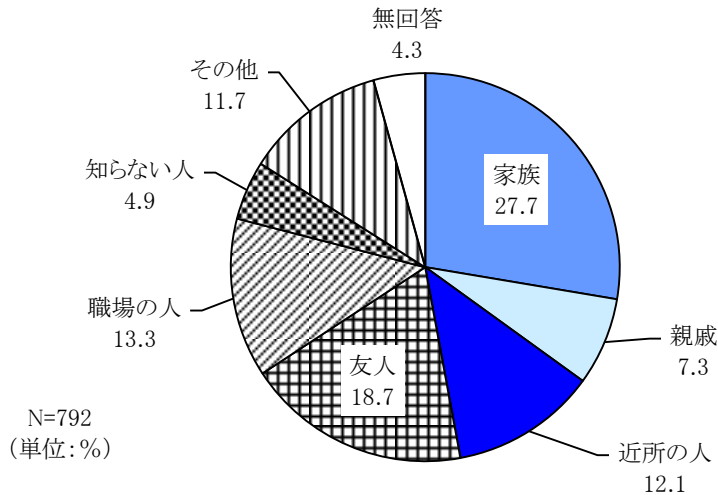
また、「同和地区の人と結婚してはいけない」という発言に出会った人は、これから自身が結婚に向き合うであろう16～19歳、20歳代、30歳代ではそれぞれ4.6%、4.4%、5.8%とさほど多くはないが、その親世代にあたる40歳代以降は50歳代の13.8%を筆頭にすべて10%を超えている。これについても、出会った差別発言のなかでも、とくに子をもつ世代としてのリアルな実感が反映されているのではないかと考えられる。(図4-7-2)

(8) 誰から聞いたのか

【問 12-1～問 12-3 は、問 12 で「1」～「6」を選んだ方にお聞きします】

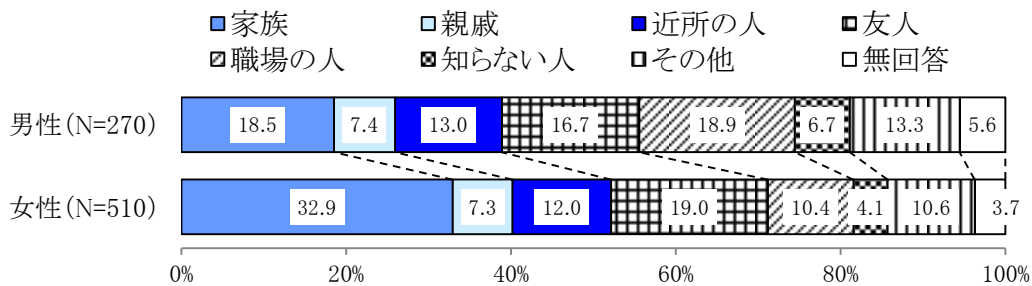
12-1 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。(○は1つ)

【図 4-8 誰から聞いたのか】



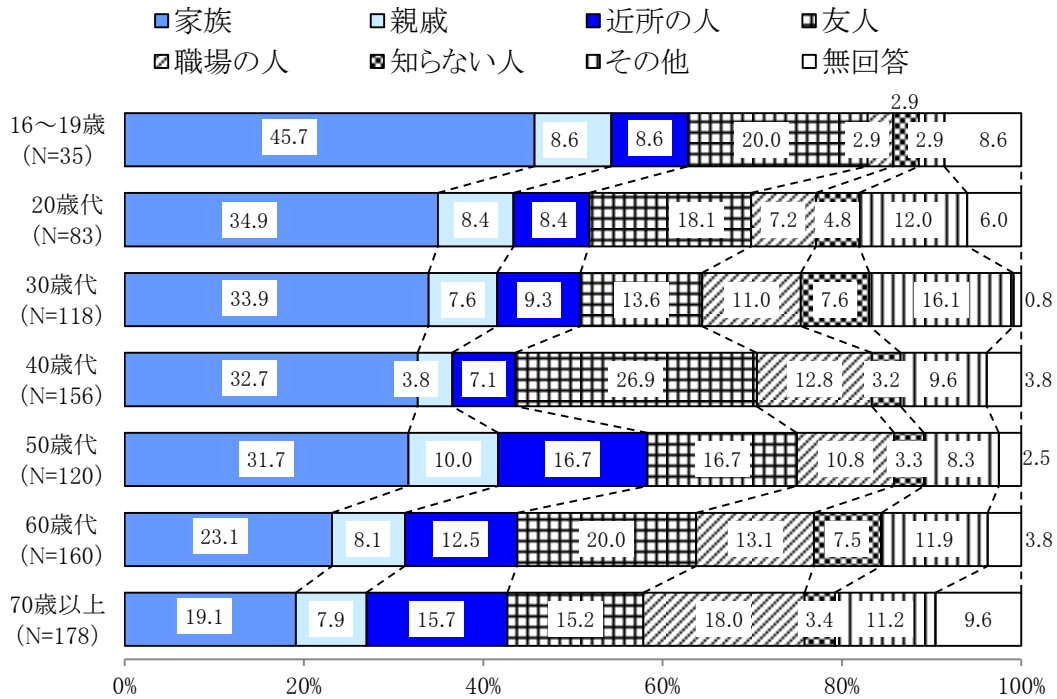
差別発言を誰から聞いたのかを尋ねると、「家族」から聞いたとする人がもっとも多く、27.7%であり、続いて「友人」18.7%、「職場の人」13.3%と続く。(図 4-8)

【図 4-8-1 性別 誰から聞いたのか】



同和問題に関する発言を誰から聞いたのか性別でみると、男性は「職場の人」が18.9%、女性は「家族」が32.9%ともっとも高くなっており、とりわけ「家族」は女性のほうが男性に比べて14.4ポイント高い。差別発言の情報源が男性は「職場」、女性が「家族」であるという実態からは、容易に性別役割分業が思い起こされる。問 9 では「豊中市は、全国と比べて、「夫は外、妻は家庭」という性別役割分業を支持する人の率が圧倒的に低い」と分析されていることとも比較すると(59 ページ参照)、大変興味深い結果であるといえる。(図 4-8-1)

【図4-8-2 年齢別 誰から聞いたのか】



年齢別にみると、全体でもっとも多かった「家族」からは、16～19歳では半数に近い45.7%となっており、年齢が高くなるにしたがって漸減するものの、50歳代でも3割を超えている。家族から差別発言を聞いた人は、いずれの世代でも多いことがよくわかる。また「友人」からと答えた人がもっとも多かったのは40歳代の26.9%であるが、16～19歳と60歳代で2割となるなど、年齢による大きな差はみられない。また「職場の人」からと答えたのは、まだ職場体験をほとんどもたないであろう16～19歳の2.9%から70歳以上の18%まで、ほぼ年代を経るにつれて多くなっている。

【表4-8-1 「発言の内容」×「誰から聞いたのか」】

(上段: %、下段: 人)

	回答者数	問12-1 誰から聞いたのか								
		家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	知らない人	その他	無回答	
合計	100.0 792	27.7 219	7.3 58	12.1 96	18.7 148	13.3 105	4.9 39	11.7 93	4.3 34	
問12 言同 和の 内問 容題 に 関 する 発	同和地区の人(子ども)とは、付き合い合っては(遊んでは)いけない	100.0 34	47.1 16	8.8 3	11.8 4	17.6 6	2.9 1	2.9 1	8.8 3	0.0 0
	同和地区の人とは、結婚してはいけない	100.0 159	45.3 72	12.6 20	10.7 17	8.8 14	6.9 11	2.5 4	7.5 12	5.7 9
	同和地区の人はこわい	100.0 132	24.2 32	3.8 5	9.8 13	23.5 31	16.7 22	6.8 9	9.1 12	6.1 8
	同和地区の人は無理難題を言う	100.0 135	13.3 18	7.4 10	11.9 16	25.9 35	20.7 28	2.2 3	14.1 19	4.4 6
	同和地区は治安が悪い	100.0 113	29.2 33	2.7 3	10.6 12	20.4 23	15.9 18	5.3 6	12.4 14	3.5 4
	住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けたほうがいい	100.0 219	21.9 48	7.8 17	15.5 34	17.8 39	11.4 25	7.3 16	15.1 33	3.2 7

p=0.0000***

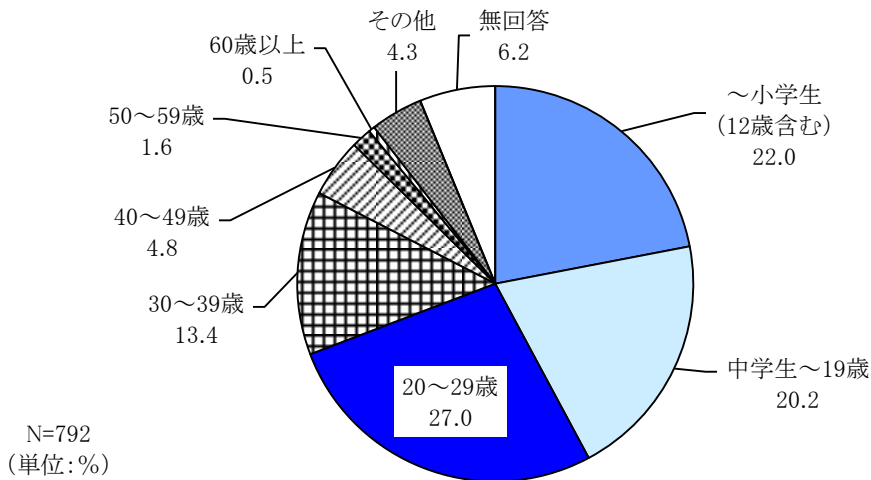
つぎにどの差別発言を誰から聞いたのかを明らかにするため、その2つの回答をクロスさせてみた(表4-8-1)。図4-8でも確認したとおり、いずれの差別発言についても家族から聞いたと答えた人が多いのはもちろんであるが、なかでも「同和地区の人と付き合い合ってはいけない」「同和地区の人と結婚してはいけない」という、交友や結婚など人間関係についての発言がそれぞれ47.1%、45.3%とほぼ半数近くを占めている。近代家族において「家庭」とは血縁を起点とした私的な空間を意味するが、同和地区の人との接触にまつわる差別発言を聞いた人のうち、その半数近くが家族から耳にしたと答えたのは、やはり現在の「家庭」もまた非血縁員に対しては排他的であり、とりわけ同和地区出身者など「異質」な他者に対してその排他性はさらに高まるということであろうか。(表4-8-1)

(9) いつ聞いたのか

【問 12-1～問 12-3 は、問 12 で「1」～「6」を選んだ方にお聞きします】

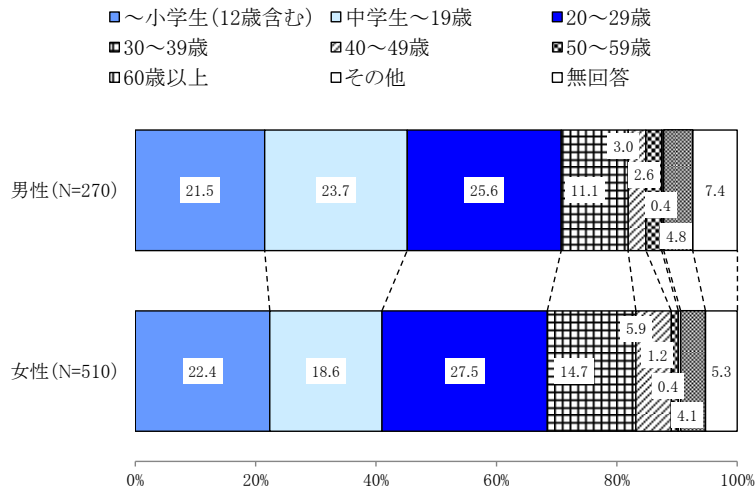
問 12-2 それはいつごろのことですか。(そのときのあなたの年齢を記入)

【図 4-9 いつ聞いたのか】



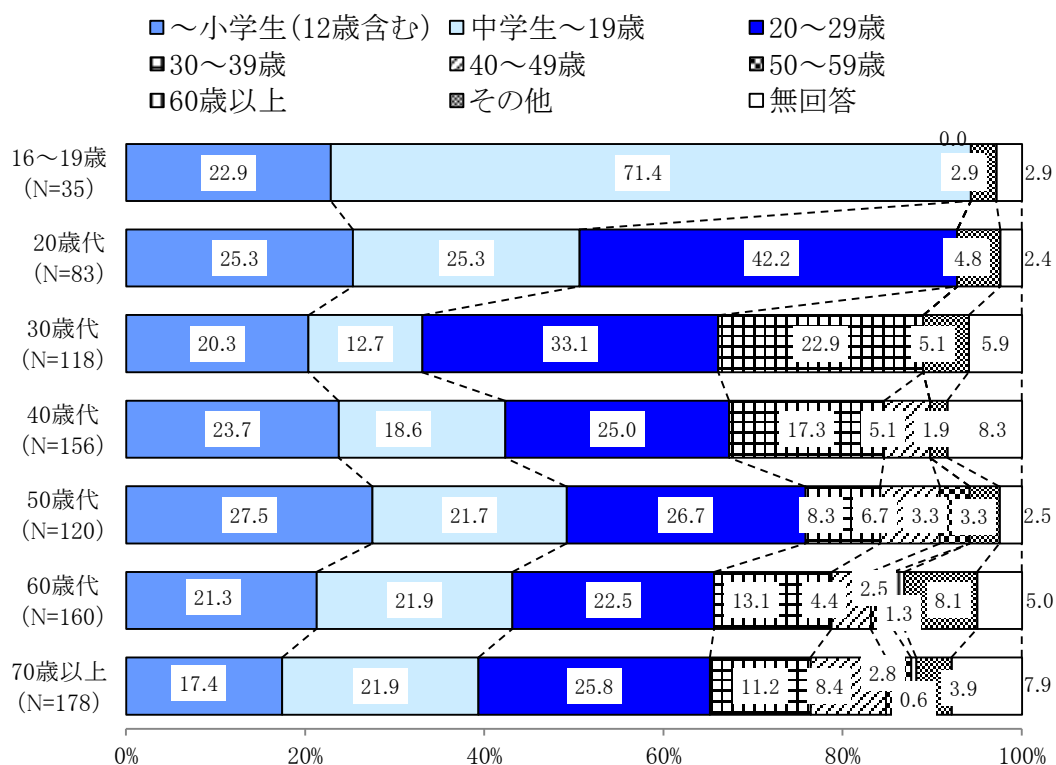
差別発言をいつごろ聞いたかをみると、20歳代が27%ともっとも多く、小学生までが22%、中学生を含めた10歳代が20.2%、そして30歳代が13.4%と続いている。(図4-9)

【図 4-9-1 性別 いつ聞いたのか】



性別でみると、男女とも「20～29歳」(男性25.6%、女性27.5%)がもっとも高くなっている。また、「中学生～19歳」は、男性のほうが5.1ポイント高く、「30～39歳」は、女性のほうが3.6ポイント高い。(図4-9-1)

【図4-9-2 年齢別 いつ聞いたのか】



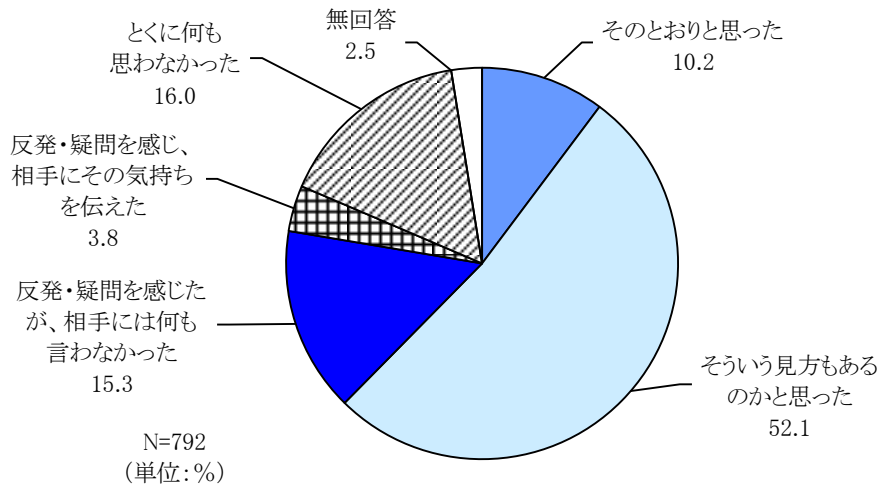
年齢別で大きく目立つのが、16~19歳、20歳代の数値である。16~19歳で同和問題に関する発言を聞いた年代としてもっとも多いのが、中学生を含めた自らと同年齢の16~19歳でその大半を占める71.4%となっている。また20歳代でもっとも多いのも同年齢の20~29歳で、半数に迫る42.2%となっている。すなわち、16~19歳、20歳代の若い世代が同和問題に関する発言を耳にしたのは、ついここ数年のことであるといえるであろう。30歳代以降では、50歳代を除き、発言に出会った年代としてもっとも多かったのは20~29歳であった。(図4-9-2)

(10) どう感じたのか

【問 12-1～問 12-3 は、問 12 で「1」～「6」を選んだ方にお聞きします】

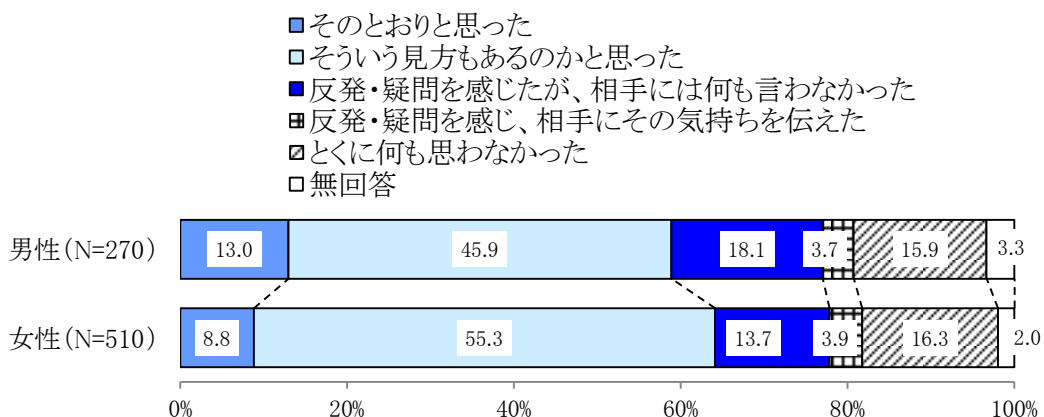
問 12-3 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(○は1つ)

【図 4-10 どう感じたのか】



差別発言を聞いたときにどう感じたかをみると、発言に追随するような「そのとおりに思った」は 10.2%であるが、一見中立のようではあるものの、同調にもつながりかねない「そういう見方もあるのか」が 52.1%と半数以上を占めている。差別発言に「反発・疑問を感じた」のは、その気持ちを伝えた人・伝えなかった人も含めて 19.1%に止まっており、全体として差別発言を聞いたときの態度は受動的なものが多いといえるであろう。(図 4-10)

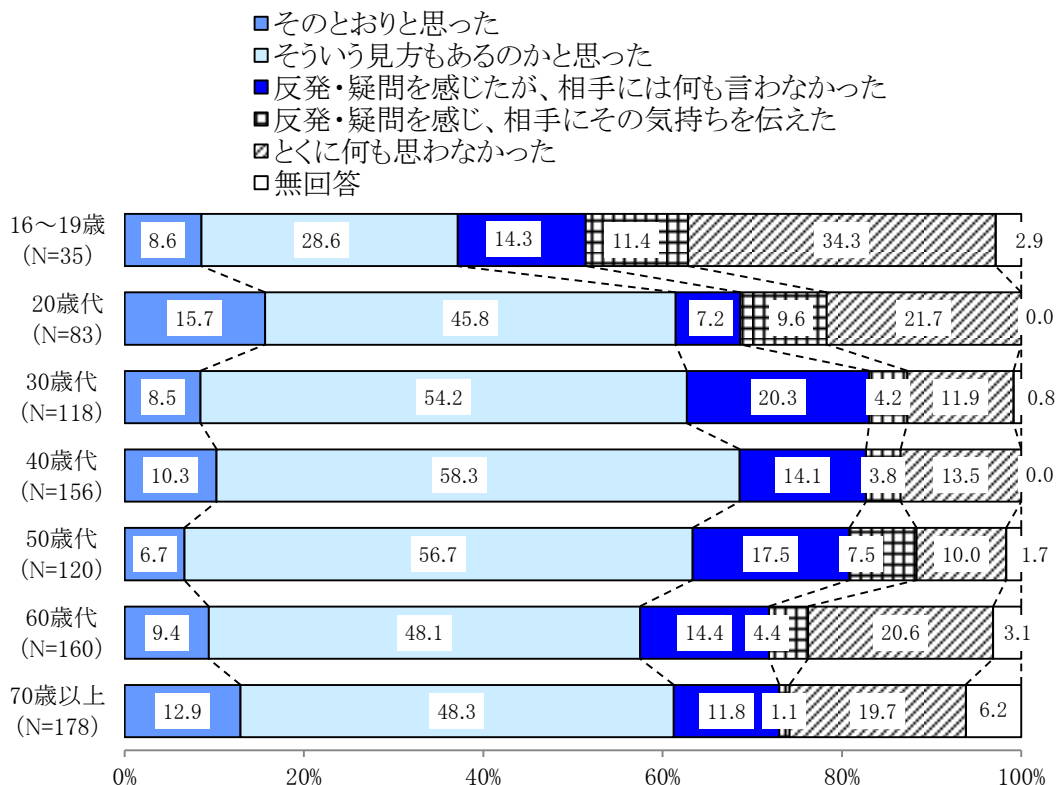
【図 4-10-1 性別 どう感じたのか】



性別でみると、男女とも「そういう見方もあるのかと思った」(男性 45.9%、女性 55.3%) がもっとも高くなっている。また「そういう見方もあるのかと思った」は女性のほうが男性に比べて 9.4 ポイン

ト高くなっている。「そのとおりと思った」は、男性のほうが4.2ポイント高く、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」も男性のほうが4.4ポイント高い。(図4-10-1)

【図4-10-2 年齢別 どう感じたのか】



年齢別に比較すると、16～19歳で相手に伝える・伝えないも含め、反発・疑問を感じた人が占める割合がもっとも多く、25.7%を占めるが、20歳代(16.9%)や70歳以上(12.9%)では少なくなっている。一方、「そのとおりと思った」と答えた人は20歳代で一番多く、15.7%となっている。また一見中立のようだが、差別に同調しかねない「そういう見方もあるのかと思った」は16～19歳では28.6%にとどまっている。しかし、それより上の世代では20歳代で45.8%、もっとも多い40歳代では58.3%と、16～19歳を除くいずれの世代でも半数前後を占めている。そして、「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」は、16～19歳で11.4%と、他の年齢層に比べて高くなっている。

このように分析すると、差別発言に対して一番挑戦的な態度を示しているのは16～19歳であるように見受けられるが、16～19歳では「何も思わなかった」と答えた人が世代を通じてもっとも多く、34.3%を占めていることに注意が必要であろう。近年、学校教育で同和問題学習が行われることが少なくなってきたおり、何が部落差別にあたるのかがわからない若者が増えつつあるということであろうか。(図4-10-2)

【表 4-10-1 問 10「障害者の作業所建設反対」×「発言を聞いたときどう感じたか」】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問12-3 発言を聞いたときどう感じたか					無回答
			そのとおりに思った	のそかという思っつた方もある	わが、反な相・疑つたは何かを感じた	伝相反え手発たに・疑問の気を持ち、	かつくたに何も思わな	
合計		100.0 792	10.2 81	52.1 413	15.3 121	3.8 30	16.0 127	2.5 20
問 10 ア	よくあてはまる	100.0 11	36.4 4	36.4 4	0.0 0	9.1 1	18.2 2	0.0 0
	ややあてはまる	100.0 43	25.6 11	58.1 25	4.7 2	2.3 1	7.0 3	2.3 1
	どちらともいえない	100.0 234	9.0 21	55.1 129	14.1 33	0.9 2	17.1 40	3.8 9
	あまりあてはまらない	100.0 251	10.0 25	57.0 143	13.9 35	3.2 8	13.9 35	2.0 5
	まったくあてはまらない	100.0 249	7.2 18	44.6 111	20.1 50	7.2 18	18.9 47	2.0 5

p=0.0000***

同和問題に関する差別発言についての態度との相関関係を探るため、問 10 の身近な人権問題に関する設問の、「ア. 自宅近くに障害者の作業所やグループホームの建設計画が持ち上がった場合は反対する」とクロスさせた。障害者の作業所やグループホーム建設に反対する人ほど、差別発言に対して「そのとおりに思った」「そういう見方もあるのかと思った」と答えた人が多いことがわかる。(表 4-10-1)

同様の傾向は、表としてはあげていないが、問 10 の他の設問、「イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくない」「ウ. 自分が住む地域に外国人が増えると、治安や秩序が乱れる」「エ. 同和地区を含む校区には引っ越したくない」「オ. 児童養護施設を含む校区には引っ越したくない」「カ. 外国人を親にもつ子どもは、日本の文化や言葉に適應するよう努力すべきだ」のすべてでみられ、同和問題への差別発言を許容する態度と他の人権課題への否定的な態度は有意な相関関係にあるということができよう。

教育経験の有無とこの差別発言への態度との相関関係を明らかにするために、両者をクロスさせた結果、表4-10-2のようになった。

【表4-10-2 問13「人権教育の経験」×「発言を聞いたときどう感じたか」(16~59歳)】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問12-3 発言を聞いたときどう感じたか					無回答
			そのとおりの思った	のそかという思った方もある	わがな・かっ手・たは何かも言	反・発・疑・問・感じ	伝え・たに・疑・問・感じ、	
合計		100.0 439	9.6 42	55.1 242	17.1 75	4.8 21	12.8 56	0.7 3
の人権教育経験	ある	100.0 356	10.4 37	55.1 196	18.0 64	5.1 18	11.2 40	0.3 1
	ない	100.0 69	7.2 5	56.5 39	15.9 11	1.4 1	15.9 11	2.9 2

p=0.4765

小中高校時代に人権教育を受けた世代は主として60歳未満の年齢層だと考えられるので、60歳未満に関して、人権教育を受けた経験の有無別に差別発言を聞いた時にどう感じたのか、みることにしたい。この表によると、人権教育の経験と差別発言への態度に有意な関係性は存在しないことがわかる。これまでの人権教育が、自分の目の前で語られる差別発言に対してどう対処するかについてはさほど大きな効果をもたらさないということになる。

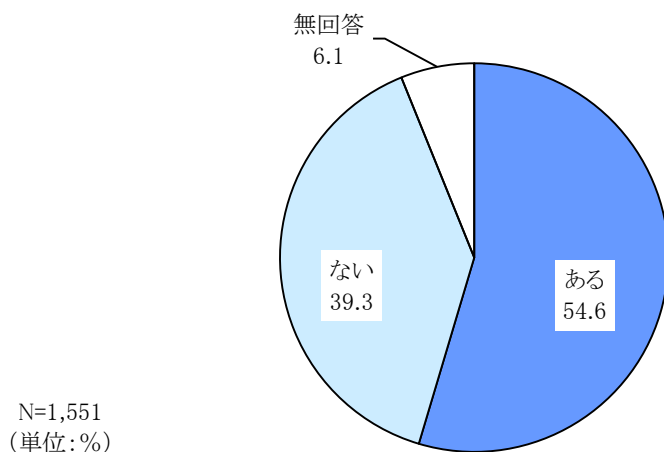
しかし、先の間11にあった結婚差別の相談への態度と人権教育の経験は相関関係を有していたことに鑑みると、教育経験は一定の効果はあるものの、自分の目の前で語られる差別発言に対する直接的な態度には結びつきにくいのではないかと考えることも可能である。また差別発言を聞いたことがない人が大半を占め、かつ差別発言に対して「とくに何も思わなかった」人が多かった16~19歳の状況に対応するためにも、人権教育についてはその内容の検討などを含めたさらなる充実が求められるのではなかろうか。(表4-10-2)

5. 人権教育について

(1) 人権教育を受けた経験の有無

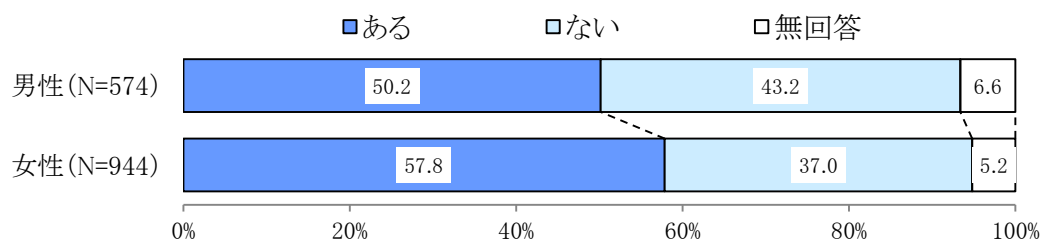
問 13 あなたは、小学校から高校の間に、差別や人権に関する教育を受けたことがありますか。
(○は1つ)

【図5-1 差別や人権に関する教育を受けた経験】



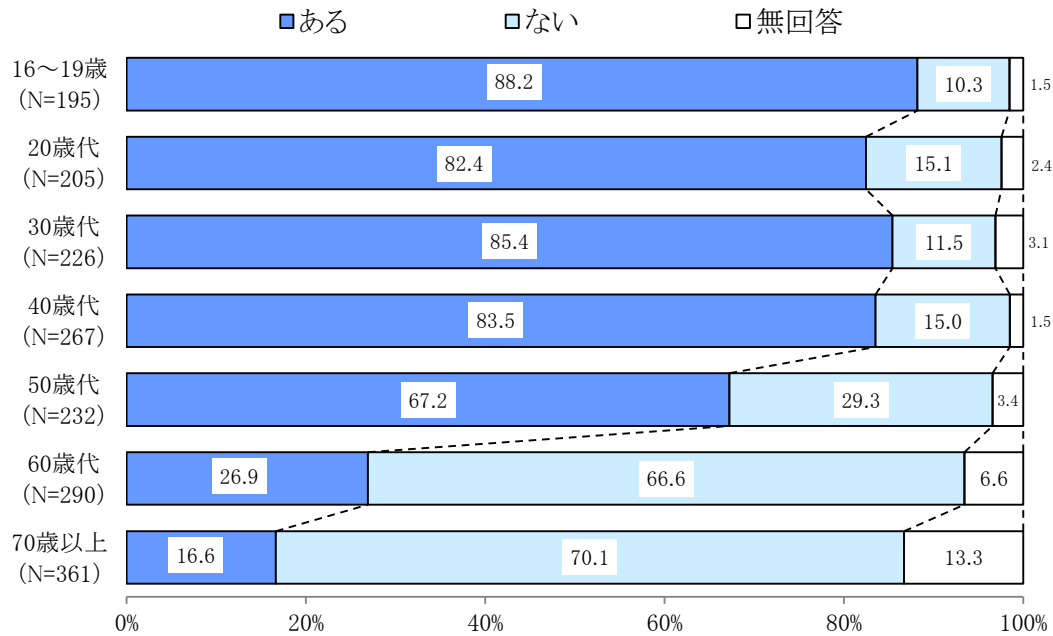
小学校から高等学校までの学校教育における差別や人権に関する教育（以下、「人権教育」）の経験について尋ねた結果は、54.6%の人が、人権教育を「受けた」と回答している。（図5-1）

【図5-1-1 性別 差別や人権に関する教育を受けた経験】



男女別にみると「受けた」女性が57.8%で男性の50.2%を上回っている。（図5-1-1）

【図5-1-2 年齢別 差別や人権に関する教育を受けた経験】



年齢別にみると、若い世代ほど、人権教育の経験があると回答する割合が高くなっており、学校教育を通じて人権教育を受ける機会が増えていることがうかがわれる。そして、人権教育を受けた経験がある人は、60歳代で26.9%、70歳以上では16.6%と、60歳以上で非常に少ない。(図5-1-2)

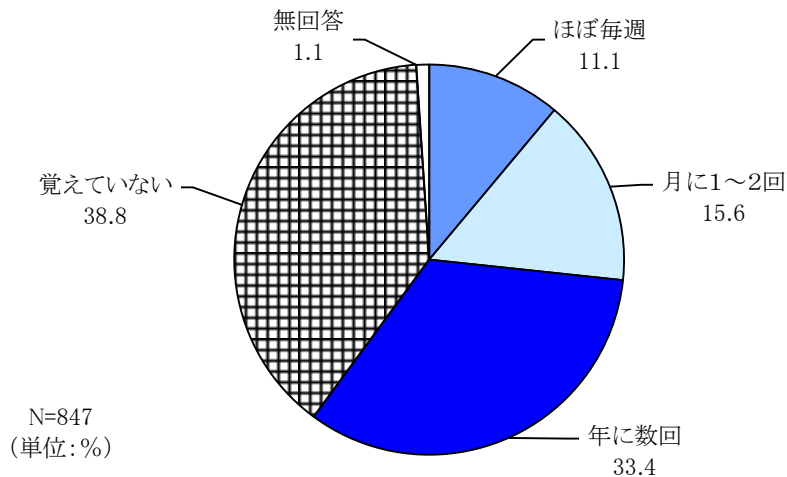
(2) 教育を受けた程度

【問 13-1・問 13-2 は問 13 で「1」を選んだ方にお聞きします】

問 13-1 その教育をどの程度、受けましたか。最も多く受けた時期について、お答えください。

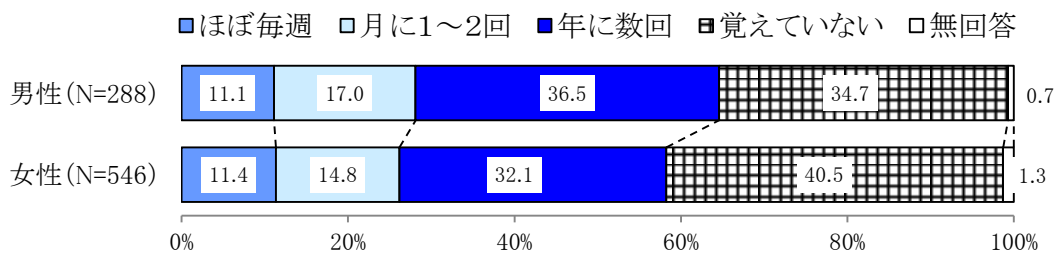
(○は1つ)

【図 5-2 教育を受けた程度】



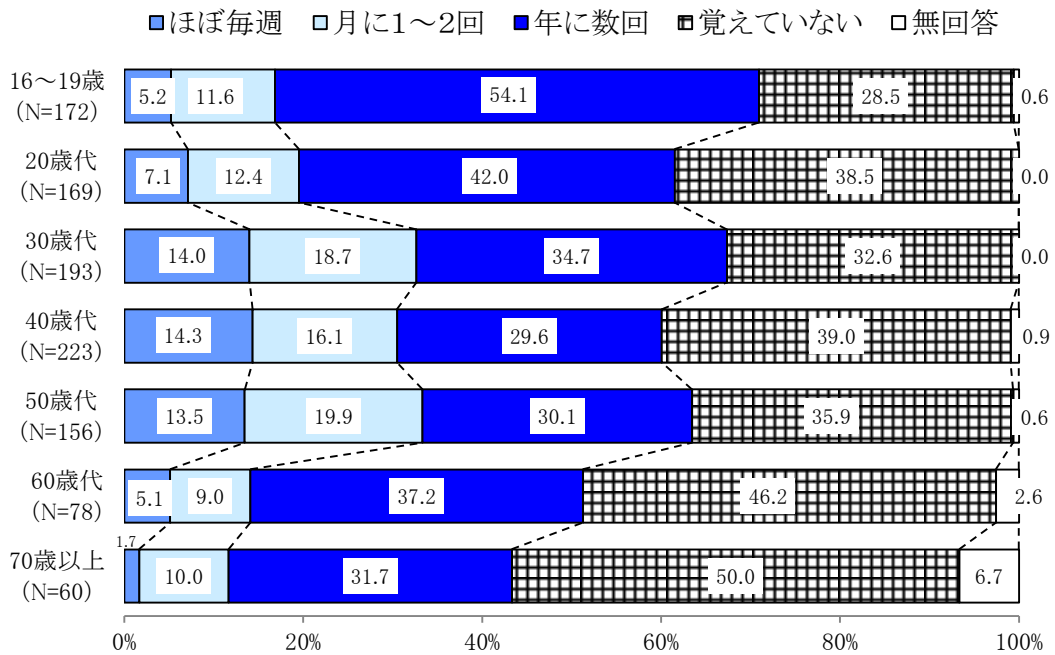
また、学習の頻度については、「年に数回」がどの年代でももっとも多く、学期に1回程度の「イベント的」な学習形態がうかがわれる。(図 5-2)

【図 5-2-1 性別 教育を受けた程度】



性別で見ると、男性では「年に数回」が36.5%でもっとも高く、女性では「覚えていない」が40.5%でもっとも高くなっている。(図 5-2-1)

【図5-2-2 年齢別 教育を受けた程度】



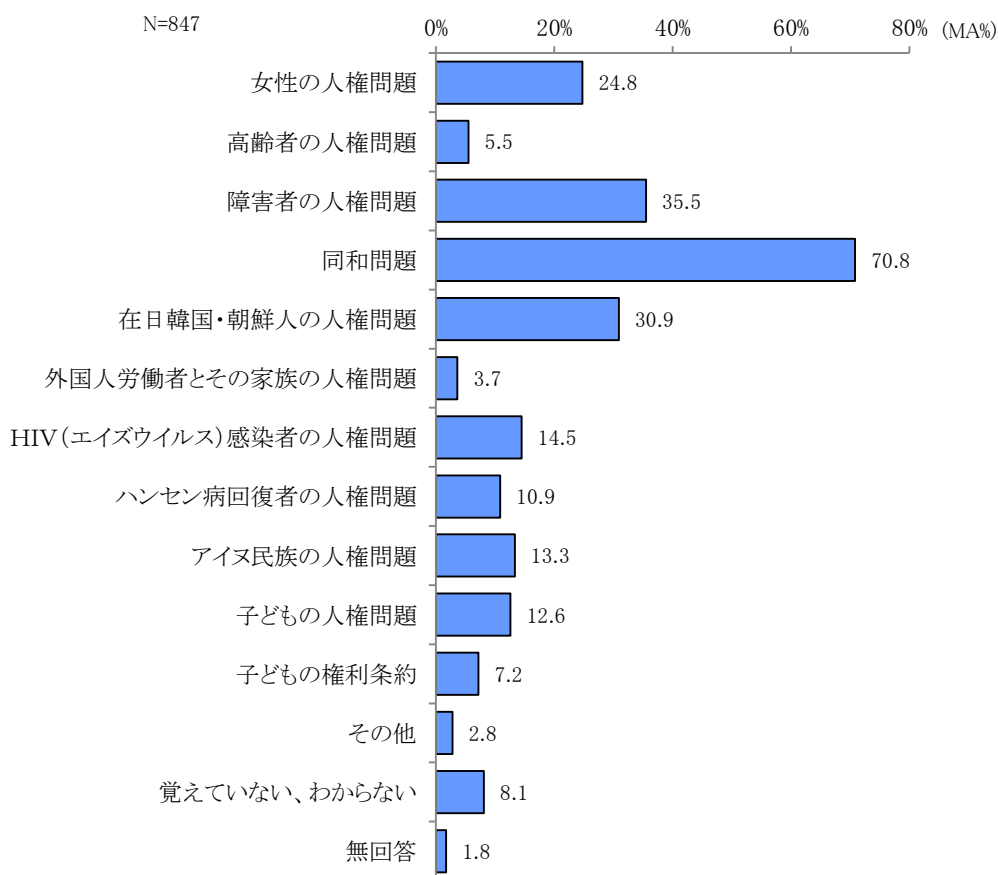
年齢別にみると、30歳代から50歳代にかけては、「ほぼ毎週」や「月に1~2回」と高い頻度で人権教育を受けたと答えた人も少なくない。日常的な人権教育を受けた方も多いと思われる。一方、16~19歳、20歳代では、その割合は低下してきており、日常的に人権教育に取り組む学校が少なくなっていることをうかがわせる。(図5-2-2)

(3) 教育を受けた内容

【問 13-1・問 13-2 は問 13 で「1」を選んだ方にお聞きします】

問 13-2 どういう内容を教わりましたか。(〇はいくつでも)

【図 5-3 教育を受けた内容】



受けた人権教育の内容（複数回答）についての回答をみると、もっとも多いのは、「同和問題」で、70.8%の人が、「受けた」と答えている。続いて、「障害者の人権問題」（35.5%）、「在日韓国・朝鮮人の人権問題」（30.9%）、「女性の人権問題」（24.8%）となっている。（図 5-3）

【表5-3-1 性・年齢別 教育を受けた内容】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	女性の人権問題	高齢者の人権問題	障害者の人権問題	同和問題	在日韓国・朝鮮人の人権問題	外国人労働者とその家族の人権問題	HIV(エイズ)感染者の人権問題	ハンセン病回復者の人権問題	アイヌ民族の人権問題	子どもの人権問題	子どもの権利条約	その他	覚えていない、わからない	無回答
総数		100.0 847	24.8 210	5.5 47	35.5 301	70.8 600	30.9 262	3.7 31	14.5 123	10.9 92	13.3 113	12.6 107	7.2 61	2.8 24	8.1 69	1.8 15
性別	男性	100.0 288	25.0 72	4.5 13	38.5 111	72.6 209	34.4 99	4.2 12	12.5 36	8.0 23	11.5 33	9.4 27	5.6 16	2.4 7	6.3 18	3.5 10
	女性	100.0 546	24.7 135	5.7 31	34.1 186	70.0 382	29.1 159	3.3 18	15.4 84	11.7 64	14.3 78	14.7 80	8.2 45	3.1 17	9.0 49	0.9 5
年齢別	16～19歳	100.0 172	57.0 98	21.5 37	54.7 94	26.7 46	43.0 74	15.1 26	56.4 97	15.7 27	31.4 54	34.9 60	24.4 42	2.9 5	6.4 11	0.6 1
	20歳代	100.0 169	49.7 84	13.6 23	59.8 101	45.6 77	35.5 60	5.9 10	42.0 71	14.8 25	25.4 43	27.2 46	18.3 31	1.8 3	10.1 17	0.6 1
	30歳代	100.0 193	22.8 44	2.6 5	38.9 75	78.2 151	30.6 59	3.6 7	15.5 30	8.8 17	15.0 29	11.4 22	7.3 14	2.6 5	6.7 13	1.0 2
	40歳代	100.0 223	13.5 30	2.2 5	29.1 65	78.5 175	30.5 68	2.7 6	4.9 11	5.4 12	9.0 20	8.1 18	2.7 6	1.3 3	9.0 20	0.4 1
	50歳代	100.0 156	20.5 32	2.6 4	24.4 38	82.7 129	28.2 44	0.6 1	7.1 11	16.0 25	9.0 14	12.2 19	5.8 9	2.6 4	7.7 12	1.9 3
	60歳代	100.0 78	26.9 21	3.8 3	33.3 26	66.7 52	28.2 22	1.3 1	2.6 2	15.4 12	9.0 7	11.5 9	2.6 2	6.4 5	10.3 8	2.6 2
	70歳以上	100.0 60	28.3 17	15.0 9	28.3 17	55.0 33	30.0 18	5.0 3	10.0 6	11.7 7	11.7 7	8.3 5	6.7 4	6.7 4	8.3 5	8.3 5

性別で見ると、男女ともに「同和問題」（男性 72.6%、女性 70.0%）がもっとも多くなっている。

年齢別にみると、30歳代から70歳以上では、50歳代の82.7%を頂点に「同和問題」がもっとも多くなっており、続いて「障害者の人権問題」、「在日韓国・朝鮮人の人権問題」が同程度の回答となっている。さらに、「女性の人権問題」が続くが、それ以外の項目については「受けた」と回答する人は少なく、比較的学習経験が少ないことがうかがわれる。

一方、より若い世代である16～19歳、20歳代では、「障害者の人権問題」や「女性の人権問題」「HIV感染者の人権問題」が多くなっている。また、「在日韓国・朝鮮人の人権問題」の割合をみると16～19歳で43.0%、20歳代で35.5%となっており、より上の世代よりも学習経験が多いことがわかる。

それ以外の項目も、16～19歳、20歳代では20%を超えるものが多く、上の世代より多様な人権問題を学習する機会があったことがうかがわれる。その一方、「同和問題」は、20歳代で45.6%、16～19歳で26.7%と急激な減少傾向にある。（表5-3-1）

小学校から高校のあいだで、人権教育を受けた経験のある人となない人では、人権意識にどのような差があるのか、みることにしよう。ただし、図5-1-2でみたように、60歳代、70歳以上では、人権教育を受けた経験のある人は非常に少ない。そのため、人権教育を受けた経験が6割を超える50歳代までの年齢について、人権教育を受けた経験の有無と人権意識のありようをクロス集計した結果、関連の高いものを紹介する。

まず、表5-4-1は、問1「あなたは、次のようなことは人権侵害にあてはまると思いますか」とクロスさせたものである。

【表5-4-1 「人権教育を受けた経験」×「人権侵害に該当する事象」(16~59歳)①】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問1-ア 女性ということで、男性より、給料や昇進で低い評価を受けること					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	50.6 440	30.1 262	12.9 112	3.9 34	2.0 17	0.5 4
の人 経験 教育	ある	100.0 697	53.7 374	28.4 198	11.2 78	4.0 28	2.2 15	0.6 4
	ない	100.0 151	39.1 59	37.7 57	18.5 28	3.3 5	1.3 2	0.0 0

p=0.0055**

		回答者数	問1-イ 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	72.6 631	12.0 104	8.3 72	2.2 19	4.7 41	0.2 2
の人 経験 教育	ある	100.0 697	73.6 513	11.6 81	7.9 55	2.0 14	4.6 32	0.3 2
	ない	100.0 151	69.5 105	13.2 20	10.6 16	2.6 4	4.0 6	0.0 0

p=0.7391

		回答者数	問1-ウ 障害のある人が結婚したり子どもを育てることに、周囲が反対すること					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	36.9 321	28.3 246	28.5 248	3.0 26	2.9 25	0.3 3
の人 経験 教育	ある	100.0 697	38.0 265	28.7 200	27.4 191	2.6 18	3.0 21	0.3 2
	ない	100.0 151	33.8 51	26.5 40	32.5 49	4.6 7	2.6 4	0.0 0

p=0.4405

		回答者数	問1-エ 在日外国人の地方参政権を認めていないこと					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	19.7 171	22.0 191	34.1 296	10.4 90	13.3 116	0.6 5
の人 経験 教育	ある	100.0 697	19.9 139	22.2 155	32.4 226	10.8 75	13.9 97	0.7 5
	ない	100.0 151	19.9 30	22.5 34	38.4 58	7.9 12	11.3 17	0.0 0

p=0.5709

【表5-4-1 「人権教育を受けた経験」×「人権侵害に該当する事象」(16~59歳)②】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問1-オ 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べること					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	48.1 418	23.6 205	20.1 175	3.7 32	3.7 32	0.8 7
の人 経 権 教 育	ある	100.0 697	50.1 349	23.1 161	18.9 132	3.0 21	4.2 29	0.7 5
	ない	100.0 151	40.4 61	25.8 39	25.8 39	6.6 10	0.7 1	0.7 1

p=0.0060**

		回答者数	問1-カ 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	9.1 79	18.4 160	52.6 457	12.8 111	6.3 55	0.8 7
の人 経 権 教 育	ある	100.0 697	9.3 65	18.8 131	52.2 364	12.6 88	6.3 44	0.7 5
	ない	100.0 151	7.9 12	15.2 23	55.6 84	13.2 20	6.6 10	1.3 2

p=0.8342

		回答者数	問1-キ 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が「夜遅くに外出した」「スキがあった」などと非難すること					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	36.2 315	28.5 248	22.9 199	7.5 65	4.1 36	0.7 6
の人 経 権 教 育	ある	100.0 697	36.9 257	28.8 201	22.1 154	6.7 47	4.7 33	0.7 5
	ない	100.0 151	35.1 53	27.8 42	25.8 39	9.3 14	1.3 2	0.7 1

p=0.2389

		回答者数	問1-ク HIV(エイズウイルス)感染を理由に、労働者が解雇されること					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	47.1 409	30.1 262	17.5 152	2.5 22	2.4 21	0.3 3
の人 経 権 教 育	ある	100.0 697	48.1 335	29.4 205	16.9 118	2.3 16	2.9 20	0.4 3
	ない	100.0 151	42.4 64	35.1 53	19.2 29	2.6 4	0.7 1	0.0 0

p=0.2840

		回答者数	問1-ケ 犯罪被害者が名前や住所を報道されること					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	49.4 429	19.9 173	14.8 129	5.8 50	9.6 83	0.6 5
の人 経 権 教 育	ある	100.0 697	52.1 363	18.7 130	13.3 93	5.6 39	9.6 67	0.7 5
	ない	100.0 151	37.1 56	25.8 39	21.2 32	6.6 10	9.3 14	0.0 0

p=0.0067**

多くの項目が程度の差はあれ、人権教育経験の「ある」グループのほうが、「人権意識が高い」回答をしている傾向にある。例えば「ア. 女性ということで、男性より、給料や昇進で低い評価を受けること」については、「問題がある」に「よくあてはまる」と回答したものが、人権教育歴「あり」で53.7%、「なし」で39.1%と大きな差になっている。他にも、「オ. 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べること」、「ケ. 犯罪被害者が名前や住所を報道されること」において、統計的に有意な差が見られる。

いっぽう、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」、「キ. 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が『夜遅くに外出した』『スキがあった』などと非難すること」については、教育経験の有無との間に大きな差はみられなかった。（表5-4-1）

つぎに、問2「人権や差別の問題についての考え方にあなたはどの程度あてはまるのか」とのクロスについてみてみよう。

表5-4-2は、問2の「ウ」「エ」「カ」「キ」「ク」について、人権教育の経験の有無別にみたものである。

【表5-4-2 「人権教育を受けた経験」×「人権や差別の問題についての考え方」(16~59歳)】

(上段:%、下段:人)

		回答者数	問2-ウ 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	37.6 327	41.2 358	16.8 146	3.2 28	0.3 3	0.8 7
の人 経験 教育	ある	100.0 697	38.3 267	41.6 290	16.1 112	3.2 22	0.1 1	0.7 5
	ない	100.0 151	35.1 53	39.7 60	20.5 31	3.3 5	0.7 1	0.7 1

p=0.5038

		回答者数	問2-エ 差別の原因は、差別された人の側にもある					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	4.1 36	24.7 215	38.2 332	19.3 168	13.0 113	0.6 5
の人 経験 教育	ある	100.0 697	3.3 23	24.0 167	38.6 269	20.5 143	13.2 92	0.4 3
	ない	100.0 151	6.6 10	28.5 43	37.7 57	13.9 21	12.6 19	0.7 1

p=0.1155

		回答者数	問2-カ 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	9.6 83	28.9 251	36.2 315	17.4 151	7.2 63	0.7 6
の人 経験 教育	ある	100.0 697	8.8 61	28.6 199	36.4 254	18.5 129	7.2 50	0.6 4
	ない	100.0 151	13.2 20	32.5 49	34.4 52	12.6 19	7.3 11	0.0 0

p=0.2083

		回答者数	問2-キ みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	32.1 279	37.4 325	22.7 197	5.5 48	1.8 16	0.5 4
の人 経験 教育	ある	100.0 697	33.4 233	36.9 257	22.2 155	5.5 38	1.6 11	0.4 3
	ない	100.0 151	25.2 38	41.1 62	24.5 37	6.0 9	2.6 4	0.7 1

p=0.3570

		回答者数	問2-ク 人権を強調するあまり、権利にともなう義務や責任をおろそかにするのはよくない					無回答
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
合計		100.0 869	51.8 450	32.2 280	14.4 125	0.7 6	0.3 3	0.6 5
の人 経験 教育	ある	100.0 697	53.4 372	31.7 221	13.6 95	0.3 2	0.4 3	0.6 4
	ない	100.0 151	45.7 69	35.1 53	16.6 25	2.0 3	0.0 0	0.7 1

p=0.0532

「ウ. 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある」は、経験が「ある」グループは、「よくあてはまる」が38.3%で「なし」のグループの35.1%を上回っており、人権教育の経験ある人のほうが、「弱者」を社会全体で守る必要を認める傾向にある。

「エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある」は、経験が「ある」グループは、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」が合計33.7%で「ない」グループの26.5%を上回っており、人権教育の経験がある人のほうが、差別を自己責任に帰さない傾向にある。

「カ. 差別された人は、まず世の中に受け入れられるように努力する必要がある」は、経験が「ある」グループは「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の合計が25.7%で「ない」グループの19.9%を上回っており、人権教育の経験がない人のほうが、差別の解消を当事者の問題であると考える傾向にある。

「キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている」は、経験が「ある」グループは「よくあてはまる」が33.4%で、「ない」グループの25.2%を上回っており、人権教育の経験のある人のほうが、個性を尊重する傾向にある。

「ク. 人権を尊重するあまり、権利に伴う義務や責任をおろそかにするのはよくない」は、経験が「ある」グループのほうが、「よくあてはまる」が53.4%で、「ない」グループの「よくあてはまる」45.7%を上回っている。人権教育経験のあるグループのほうが、私たち一人一人の義務についても重視していることがうかがわれる。

以上より、人権教育を受けたグループのほうが、個人の多様性や人権の尊重を大切にし（キ）、「自己責任論」に否定的である（ウ、エ、カ）一方、義務や責任についても重要であると考えている（ク）ことがうかがわれる。人権教育の経験は、人権意識を一定高め、人権課題を社会の問題として捉えることに寄与しており、また義務や責任の感覚も高める傾向にあるようである。（表5-4-2）

人権教育を受けた経験の有無と問3「子どもの人権に関する意見」（イ、ウ、エ、ク）についてクロスしたものが表5-4-3である。

【表5-4-3 「人権教育を受けた経験」×「子どもに人権に関する意見」（16～59歳）】

(上段：％、下段：人)

		問3-イ 嫡出子と非嫡出子とは法律上の扱いが異なるのは当然だ						
		回答者数	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そうは思わない	そう思わない	無回答
合計		100.0 869	8.7 76	17.0 148	28.1 244	18.0 156	27.4 238	0.8 7
の人 権 教 育	ある	100.0 697	8.8 61	16.6 116	27.5 192	18.1 126	28.6 199	0.4 3
	ない	100.0 151	9.3 14	20.5 31	29.8 45	15.9 24	23.2 35	1.3 2

p=0.5603

		問3-ウ 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ						
		回答者数	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そうは思わない	そう思わない	無回答
合計		100.0 869	7.2 63	20.3 176	26.4 229	19.4 169	26.2 228	0.5 4
の人 権 教 育	ある	100.0 697	6.5 45	19.8 138	27.7 193	19.7 137	26.1 182	0.3 2
	ない	100.0 151	9.9 15	23.2 35	23.2 35	18.5 28	24.5 37	0.7 1

p=0.4105

		問3-エ 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのは、しかたがない						
		回答者数	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そうは思わない	そう思わない	無回答
合計		100.0 869	5.8 50	21.6 188	33.7 293	20.7 180	17.3 150	0.9 8
の人 権 教 育	ある	100.0 697	5.5 38	21.7 151	33.3 232	21.4 149	17.5 122	0.7 5
	ない	100.0 151	6.0 9	23.2 35	37.1 56	17.9 27	15.2 23	0.7 1

p=0.7687

		問3-ク 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ						
		回答者数	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そうは思わない	そう思わない	無回答
合計		100.0 869	4.0 35	10.8 94	35.1 305	20.7 180	28.8 250	0.6 5
の人 権 教 育	ある	100.0 697	3.3 23	9.8 68	34.7 242	22.2 155	29.6 206	0.4 3
	ない	100.0 151	6.0 9	16.6 25	35.8 54	13.9 21	27.2 41	0.7 1

p=0.0173*

「イ. 嫡出子と嫡出子とは法律上の扱いが異なるのは当然だ」は、人権教育経験が「ある」グループでは、「どちらかといえばそうは思わない」「そう思わない」の合計が46.7%で、「ない」グループの39.1%を上回っている。人権教育を受けた人のほうが、非嫡出子の人権への理解が高い傾向にある。

「ウ. 教師が子どもを指導するために、時には体罰を加えることも必要だ」は、人権教育経験が「ない」グループでは、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が33.1%で、「ある」グループの27.3%を上回っている。同様に、「エ. 保護者がしつけのために体罰を加えるのはしかたがない」は、人権教育経験が「ない」グループでは、「そうは思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が29.2%で、「ある」グループの27.2%を上回っている。体罰に関しては、教師の体罰(ウ)も保護者の体罰(エ)も人権教育経験が「ある」グループのほうが、否定的な回答をしている。

「ク. 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ」は、経験が「ある」グループは「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が51.8%で、「ない」グループの41.1%を上回っている。自己責任論的な考え方は、人権教育を受けていない人のほうが高い傾向がうかがわれる。(表5-4-3)

人権教育の経験と自尊感情、人間関係との関連をみるため、人権教育の有無と問8で用いた「自尊感情得点3分割」「人間関係得点3分割」とのクロス集計を行ったものが表5-4-4である。

【表5-4-4 「人権教育の経験」×「自尊感情」「人間関係」】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	自尊感情3分			
			低位	中位	高位	無回答
合計		100.0 869	30.3 263	37.1 322	31.9 277	0.8 7
の人 経権 験教 育	ある	100.0 697	29.0 202	38.0 265	32.4 226	0.6 4
	ない	100.0 151	36.4 55	31.1 47	31.1 47	1.3 2

		回答者数	人間関係3分			
			低位	中位	高位	無回答
合計		100.0 869	24.1 209	36.7 319	38.2 332	1.0 9
の人 経権 験教 育	ある	100.0 697	23.5 164	36.2 252	39.5 275	0.9 6
	ない	100.0 151	26.5 40	39.1 59	33.1 50	1.3 2

人権教育の経験と自尊感情をみると、人権教育経験「あり」のグループは、自尊感情「高」グループが32.4%、「中」グループが38.0%、「低」グループが29.0%となっている。一方、人権教育経験「なし」グループでは、自尊感情「高」グループが31.1%、「中」グループが31.1%、「低」グループが36.4%となっている。

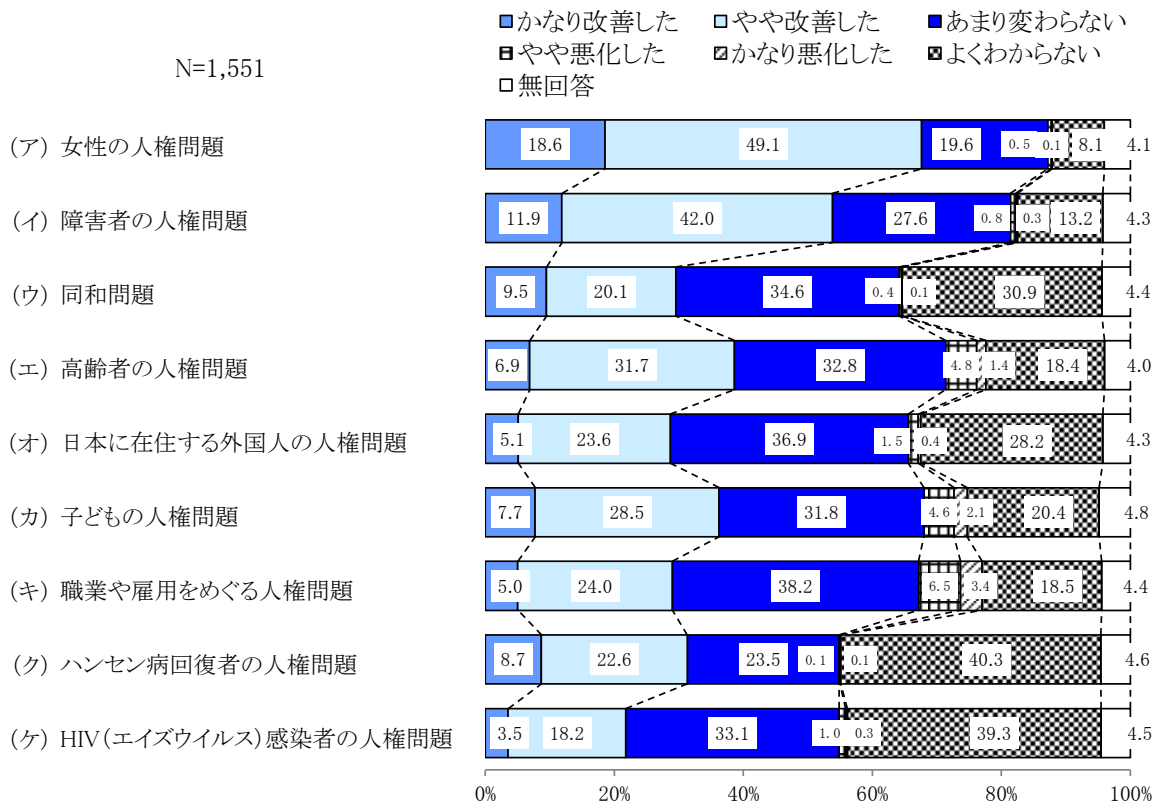
人権教育の経験と人間関係をみると、人権教育経験「あり」のグループは、人間関係「高」グループが39.5%、「中」グループが36.2%、「低」グループが23.5%となっている。一方、人権教育経験「なし」グループでは、人間関係「高」グループが33.1%、「中」グループが39.1%、「低」グループが26.5%となっている。

すなわち、人権教育の経験が「ある」グループほど、「自尊感情」「人間関係」ともに高い傾向にある。(表5-4-4)

6. 人権や差別問題の動向

問 14 次のような人権や差別の問題について、あなたはこの 10 年で問題が改善方向に向かっていると思いますか。ア～ケのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ 1 つ)

【図 6-1 人権や差別問題の動向】



9つの人権課題について、この 10 年間における改善傾向の認識を問うた設問である。課題によってかなりばらつきが見受けられるが、この 10 年で問題が改善方向に向かっていると答えた人がもっとも多いのは、「かなり改善した」「やや改善した」の合計が 67.7%を占める女性問題であり、つぎに 53.9%の障害者問題が続いている。女性問題は男女雇用機会均等法の改正（2006 年、2012 年）などが、障害者問題も障害者基本法の改正（2011 年）、障害者総合支援法（2012 年）や障害者差別解消法の成立（2013 年）といった法体制に関する動きがあり、それらが改善傾向認知に関与しているのだろうか。

逆に、悪化したと捉える人がもっとも多い課題は職業や雇用の問題であり、「かなり悪化した」「やや悪化した」を含めてほぼ 10%となっている。職業や雇用問題は近年、非正規雇用者の増大などからクローズアップされることの多い課題であり、報道などを通じての実感が投影されているのではなかろうか。

また「よくわからない」との答えの多少が顕著であり、ハンセン病問題の 40.3%を最高に HIV 感染者の課題が 39.3%、そして同和問題の 30.9%が続く。一方で「よくわからない」が少ないものとしては、改善方向に向かっていると認知している人が多い女性問題の 8.1%、障害者問題の 13.2%となっている。ただし、ハンセン病問題については、2008 年に「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（ハンセン病問題基本法）が制定されており（2009 年施行）、女性問題や障害者問題が法制定などの動きを

反映して改善傾向認知につながっているとすれば、ハンセン病問題についてはそのようになっている。(図6-1)

【表6-1-1 性・年齢別 人権や差別問題の動向①】

(ア) 女性の人権問題

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらな い	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	18.6 288	49.1 761	19.6 304	0.5 8	0.1 2	8.1 125	4.1 63
性別	男性	100.0 574	25.8 148	47.2 271	15.7 90	0.5 3	0.2 1	6.6 38	4.0 23
	女性	100.0 944	14.4 136	50.4 476	22.2 210	0.5 5	0.1 1	8.7 82	3.6 34
年齢別	16～19歳	100.0 195	15.4 30	43.6 85	22.6 44	0.5 1	0.5 1	16.9 33	0.5 1
	20歳代	100.0 205	13.2 27	52.7 108	22.9 47	1.0 2	-	9.8 20	0.5 1
	30歳代	100.0 226	12.4 28	58.4 132	23.9 54	0.4 1	-	4.0 9	0.9 2
	40歳代	100.0 267	13.5 36	52.1 139	25.5 68	0.7 2	-	6.4 17	1.9 5
	50歳代	100.0 232	18.1 42	48.7 113	22.8 53	-	-	6.9 16	3.4 8
	60歳代	100.0 290	17.2 50	50.3 146	17.9 52	0.7 2	0.3 1	10.0 29	3.4 10
	70歳以上	100.0 361	28.8 104	39.3 142	12.7 46	0.3 1	0.3 1	10.2 37	8.3 30

(イ) 障害者の人権問題

(上段：%、下段：人)

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらな い	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	11.9 184	42.0 651	27.6 428	0.8 13	0.3 4	13.2 205	4.3 66
性別	男性	100.0 574	14.8 85	46.7 268	24.7 142	0.3 2	0.2 1	9.2 53	4.0 23
	女性	100.0 944	10.0 94	39.6 374	29.7 280	1.1 10	0.2 2	15.7 148	3.8 36
年齢別	16～19歳	100.0 195	3.1 6	29.7 58	39.5 77	0.5 1	1.5 3	24.6 48	1.0 2
	20歳代	100.0 205	4.9 10	31.2 64	43.9 90	1.0 2	-	18.0 37	1.0 2
	30歳代	100.0 226	2.2 5	36.3 82	40.3 91	1.3 3	0.4 1	18.6 42	0.9 2
	40歳代	100.0 267	5.6 15	39.3 105	39.7 106	1.5 4	0.4 1	12.0 32	1.5 4
	50歳代	100.0 232	11.2 26	50.4 117	24.1 56	-	0.4 1	10.8 25	3.0 7
	60歳代	100.0 290	13.1 38	46.6 135	23.4 68	0.7 2	-	13.1 38	3.1 9
	70歳以上	100.0 361	24.1 87	41.6 150	14.1 51	0.6 2	-	10.2 37	9.4 34

(ウ) 同和問題

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらな い	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	9.5 147	20.1 311	34.6 537	0.4 6	0.1 2	30.9 480	4.4 68
性別	男性	100.0 574	11.8 68	23.0 132	35.2 202	0.5 3	0.3 2	24.6 141	4.5 26
	女性	100.0 944	8.1 76	18.2 172	34.7 328	0.3 3	-	34.9 329	3.8 36
年齢別	16～19歳	100.0 195	3.1 6	11.3 22	32.3 63	2.1 4	-	50.3 98	1.0 2
	20歳代	100.0 205	2.4 5	7.3 15	43.9 90	0.5 1	0.5 1	43.9 90	1.5 3
	30歳代	100.0 226	3.5 8	16.4 37	38.5 87	1.3 3	-	39.4 89	0.9 2
	40歳代	100.0 267	6.0 16	16.5 44	45.3 121	-	-	30.7 82	1.5 4
	50歳代	100.0 232	9.5 22	19.4 45	40.1 93	-	-	27.6 64	3.4 8
	60歳代	100.0 290	11.0 32	25.2 73	31.4 91	-	-	28.6 83	3.8 11
	70歳以上	100.0 361	17.7 64	25.8 93	21.9 79	0.3 1	0.3 1	24.9 90	9.1 33

(エ) 高齢者の人権問題

(上段：%、下段：人)

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらな い	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	6.9 107	31.7 492	32.8 508	4.8 75	1.4 22	18.4 285	4.0 62
性別	男性	100.0 574	8.0 46	34.3 197	34.0 195	4.9 28	0.9 5	14.1 81	3.8 22
	女性	100.0 944	6.0 57	30.5 288	32.4 306	4.9 46	1.7 16	20.9 197	3.6 34
年齢別	16～19歳	100.0 195	7.2 14	21.0 41	30.8 60	9.7 19	0.5 1	30.3 59	0.5 1
	20歳代	100.0 205	3.9 8	24.4 50	36.1 74	5.4 11	2.4 5	26.8 55	1.0 2
	30歳代	100.0 226	4.9 11	31.4 71	31.9 72	3.5 8	1.3 3	26.1 59	0.9 2
	40歳代	100.0 267	4.5 12	28.5 76	37.1 99	5.6 15	3.0 8	19.5 52	1.9 5
	50歳代	100.0 232	5.2 12	36.2 84	34.1 79	4.7 11	0.9 2	15.5 36	3.4 8
	60歳代	100.0 290	7.2 21	28.6 83	37.2 108	6.9 20	1.0 3	16.2 47	2.8 8
	70歳以上	100.0 361	11.6 42	36.8 133	26.3 95	3.0 11	0.8 3	13.0 47	8.3 30

【表6-1-1 性・年齢別 人権や差別問題の動向②】

(オ) 日本に在住する外国人の人権問題

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらない	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	5.1 79	23.6 366	36.9 572	1.5 24	0.4 6	28.2 438	4.3 66
性別	男性	100.0 574	6.4 37	26.5 152	40.6 233	2.1 12	0.2 1	19.7 113	4.5 26
	女性	100.0 944	4.3 41	21.6 204	35.2 332	1.1 10	0.5 5	33.7 318	3.6 34
年齢別	16～19歳	100.0 195	3.1 6	21.0 41	37.4 73	4.6 9	1.5 3	31.8 62	0.5 1
	20歳代	100.0 205	2.9 6	16.6 34	39.0 80	2.4 5	2.4 5	35.6 73	1.0 2
	30歳代	100.0 226	1.3 3	24.3 55	40.3 91	2.7 6	- -	30.5 69	0.9 2
	40歳代	100.0 267	2.6 7	21.7 58	43.1 115	2.2 6	0.4 1	28.1 75	1.9 5
	50歳代	100.0 232	6.5 15	22.4 52	43.5 101	1.3 3	- -	22.8 53	3.4 8
	60歳代	100.0 290	6.6 19	24.5 71	33.8 98	1.4 4	- -	30.7 89	3.1 9
	70歳以上	100.0 361	8.9 32	26.0 94	27.4 99	0.6 2	0.6 2	27.4 99	9.1 33

(カ) 子どもの人権問題

(上段：%、下段：人)

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらない	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	7.7 120	28.5 442	31.8 493	4.6 72	2.1 32	20.4 317	4.8 75
性別	男性	100.0 574	10.3 59	31.5 181	32.9 189	4.4 25	2.4 14	13.6 78	4.9 28
	女性	100.0 944	6.1 58	26.9 254	31.5 297	4.9 46	1.9 18	24.4 230	4.3 41
年齢別	16～19歳	100.0 195	5.6 11	19.0 37	36.9 72	7.2 14	2.6 5	27.2 53	1.5 3
	20歳代	100.0 205	3.9 8	21.0 43	42.0 86	4.4 9	1.5 3	26.3 54	1.0 2
	30歳代	100.0 226	3.1 7	31.0 70	34.5 78	4.4 10	2.7 6	23.5 53	0.9 2
	40歳代	100.0 267	2.6 7	25.8 69	43.1 115	4.5 12	2.6 7	19.1 51	2.2 6
	50歳代	100.0 232	8.2 19	34.1 79	28.9 67	6.0 14	4.3 10	15.5 36	3.0 7
	60歳代	100.0 290	7.6 22	28.6 83	30.7 89	5.2 15	2.1 6	22.1 64	3.8 11
	70歳以上	100.0 361	15.2 55	29.1 105	23.0 83	3.3 12	0.8 3	17.7 64	10.8 39

(キ) 職業や雇用をめぐる人権問題

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらない	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	5.0 78	24.0 372	38.2 592	6.5 101	3.4 52	18.5 287	4.4 69
性別	男性	100.0 574	6.3 36	26.7 153	40.2 231	6.4 37	3.1 18	12.5 72	4.7 27
	女性	100.0 944	4.3 41	22.5 212	37.1 350	6.7 63	3.5 33	22.1 209	3.8 36
年齢別	16～19歳	100.0 195	2.6 5	22.1 43	24.6 48	12.3 24	7.2 14	29.2 57	2.1 4
	20歳代	100.0 205	2.4 5	20.5 42	46.3 95	7.3 15	2.9 6	19.0 39	1.5 3
	30歳代	100.0 226	1.3 3	24.3 55	39.8 90	9.3 21	4.0 9	20.4 46	0.9 2
	40歳代	100.0 267	3.0 8	21.7 58	42.3 113	9.0 24	4.1 11	17.6 47	2.2 6
	50歳代	100.0 232	5.6 13	25.0 58	43.5 101	6.9 16	3.0 7	12.9 30	3.0 7
	60歳代	100.0 290	4.8 14	23.4 68	37.6 109	6.6 19	4.1 12	20.3 59	3.1 9
	70歳以上	100.0 361	10.2 37	25.2 91	29.6 107	2.8 10	1.9 7	20.2 73	10.0 36

(ク) ハンセン病回復者の人権問題

(上段：%、下段：人)

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらない	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	8.7 135	22.6 351	23.5 365	0.1 2	0.1 2	40.3 625	4.6 71
性別	男性	100.0 574	9.2 53	26.5 152	25.6 147	- -	0.3 2	34.0 195	4.4 25
	女性	100.0 944	8.5 80	20.6 194	22.0 208	0.2 2	- -	44.5 420	4.2 40
年齢別	16～19歳	100.0 195	2.1 4	14.4 28	24.6 48	0.5 1	- -	56.9 111	1.5 3
	20歳代	100.0 205	2.0 4	12.2 25	26.3 54	- -	- -	58.0 119	1.5 3
	30歳代	100.0 226	4.4 10	13.7 31	26.5 60	- -	0.4 1	54.0 122	0.9 2
	40歳代	100.0 267	5.2 14	26.2 70	24.7 66	- -	- -	41.9 112	1.9 5
	50歳代	100.0 232	8.2 19	27.2 63	28.4 66	- -	0.4 1	32.3 75	3.4 8
	60歳代	100.0 290	13.1 38	25.2 73	22.8 66	- -	- -	35.9 104	3.1 9
	70歳以上	100.0 361	13.9 50	25.2 91	15.8 57	0.6 2	- -	34.6 125	10.0 36

【表6-1-1 性・年齢別 人権や差別問題の動向③】

(ケ) HIV (エイズウイルス) 感染者の人権問題

(上段：%、下段：人)

		回答者数	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらな い	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	無回答
総数		100.0 1,551	3.5 55	18.2 283	33.1 513	1.0 16	0.3 4	39.3 610	4.5 70
性別	男性	100.0 574	4.2 24	23.5 135	36.8 211	1.0 6	0.5 3	29.8 171	4.2 24
	女性	100.0 944	3.1 29	15.1 143	31.0 293	1.0 9	0.1 1	45.4 429	4.2 40
年齢別	16～19歳	100.0 195	1.0 2	15.4 30	32.3 63	2.6 5	0.5 1	47.2 92	1.0 2
	20歳代	100.0 205	2.0 4	13.2 27	33.7 69	0.5 1	1.0 2	48.3 99	1.5 3
	30歳代	100.0 226	1.3 3	15.0 34	34.5 78	1.3 3	-	46.9 106	0.9 2
	40歳代	100.0 267	1.1 3	20.2 54	36.7 98	0.4 1	-	39.7 106	1.9 5
	50歳代	100.0 232	3.9 9	22.0 51	36.6 85	1.3 3	0.9 2	31.9 74	3.4 8
	60歳代	100.0 290	6.2 18	17.6 51	32.8 95	1.0 3	-	39.0 113	3.4 10
	70歳以上	100.0 361	5.0 18	18.3 66	26.3 95	1.4 5	0.3 1	39.1 141	9.7 35

性別でみると、「改善した」（「かなり改善した」と「やや改善した」の計）はいずれの項目においても男性のほうが女性に比べて高くなっている。

年齢別でみると、「改善した」は「ア. 女性の人権問題」と「ケ. HIV (エイズウイルス) 感染者の人権問題」以外の項目で70歳以上がもっとも高くなっている。(図6-1-1)

これら人権課題の改善傾向についての認知と相関関係にある事項を明らかにするため、人権教育の経験とクロス集計を行ったところ、唯一有意差がみられたのはハンセン病問題だけであった。

【表6-1-2 「人権教育の経験」×問14「ク. ハンセン病問題の改善傾向」(16～59歳)】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問14-ク ハンセン病問題の改善傾向						無回答
			かなり改善した	やや改善した	あまり変わらな い	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない	
合計		100.0 869	5.2 45	21.1 183	26.6 231	0.0 0	0.2 2	44.6 388	2.3 20
の人 経験 教育	ある	100.0 697	4.7 33	22.2 155	24.0 167	0.0 0	0.1 1	47.3 330	1.6 11
	ない	100.0 151	7.3 11	17.9 27	37.7 57	0.0 0	0.7 1	36.4 55	0.0 0

p=0.0029** (「やや悪化した」を除いて算出)

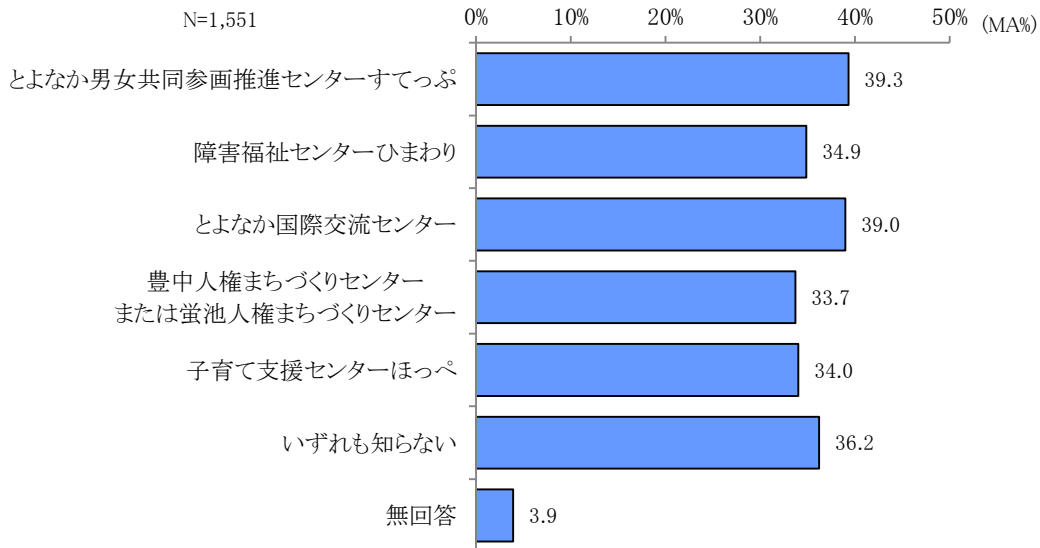
表6-1-2からは、人権教育の経験のある人ほどハンセン病問題が改善傾向にあると認知することがわかる。ハンセン病問題の改善については「よくわからない」と答えた人がもっとも多く、またハンセン病問題基本法の制定などが改善傾向認知に影響を及ぼしていないことはすでに指摘した。しかしながら、1996年の「らい予防法」廃止、そして2001年の「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟勝訴前後から、ハンセン病問題は重要な人権課題として社会的に注目を集めてきており、2014年度から中学校の公民の教科書すべてで取り上げられる。これまでも人権教育の場では少いながら課題として紹介されてきたことから、人権教育の経験とハンセン病問題の改善傾向認知に有意な相関関係があるのではないかと推察される。

7. 人権に関わる施設の認知状況

(1) 人権に関連する事業を行う施設の認知状況

問 15 豊中市では、すべての部局で人権に根ざした行政をすすめています。人権に関連する事業を行っている次の施設のうち、あなたが知っている施設を選んでください。(〇はいくつでも)

【図 7-1 人権にかかわる施設の認知状況】



人権に関連する事業を行っている豊中市の5つの施設の認知度をみると、それぞれ30%台で、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷがもっとも高くなっている(39.3%)。また、「いずれも知らない」という回答は36.2%である。(図7-1)

【表 7-1-1 性・年齢別 人権にかかわる施設の認知状況】

(上段: %, 下段: 人)

	回答者数	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ	障害福祉センターひまわり	とよなか国際交流センター	豊中人権まちづくりセンター または 蛍池人権まちづくりセンター	子育て支援センターほっぺ	いずれも知らない	無回答
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(人)
総数	1,551	39.3	34.9	39.0	33.7	34.0	36.2	3.9
性別	男性	29.6	29.3	32.2	29.4	22.5	46.2	4.0
	女性	45.6	38.5	43.1	36.5	41.2	31.0	3.0
年齢別	16~19歳	36.4	26.2	34.4	25.6	18.5	45.1	2.1
	20歳代	34.6	22.0	22.9	28.8	25.9	44.9	1.5
	30歳代	37.6	28.8	36.3	32.3	47.8	37.2	0.4
	40歳代	42.3	30.0	35.2	34.5	39.0	39.7	1.9
	50歳代	48.3	44.0	48.7	39.7	34.1	32.3	2.2
	60歳代	41.4	38.3	42.8	34.5	31.4	34.8	3.8
	70歳以上	34.1	39.9	39.3	32.1	28.8	35.7	7.8

性別では、「いずれも知らない」が男性で多く（46.2%）、それぞれの施設ごとでみると、いずれの施設でも女性の認知度が高い。とりわけ、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ（以下、男女共同参画推進センターという）と子育て支援センターほっぺの認知度は女性で高く、その割合は男性をそれぞれ16ポイント、19ポイントも上回っている。

年齢別に施設の認知度をみると、子育て支援センターほっぺは30歳代でもっとも高く（47.8%）、それ以外の施設ではいずれも50歳代で高くなっている。逆に認知度が低いのは若年層で、20歳代では障害福祉センターひまわり（22.0%）、とよなか国際交流センター（22.9%）が低く、16～19歳では、豊中人権まちづくりセンターまたは蛸池人権まちづくりセンター（以下、人権まちづくりセンターという）が25.6%、子育て支援センターほっぺが18.5%となっている。（表7-1-1）

【表7-1-2 人権にかかわる施設の認知状況（前回調査との比較）】

(%)

	2007年	2013年
とよなか国際交流センター	32.1	39.3
男女共同参画推進センター	30.8	34.9
障害福祉センターひまわり	30.5	39.0
人権まちづくりセンター	21.5	33.7
子育て支援センターほっぺ	19.2	34.0
いずれも知らない	35.0	36.2

前回調査と比較すると、「いずれも知らない」という回答はほとんど変わらないものの、5つの施設に対する認知度はそれぞれ高くなっており、とくに人権まちづくりセンターと子育て支援センターほっぺが10ポイント以上も上昇している。（表7-1-2）

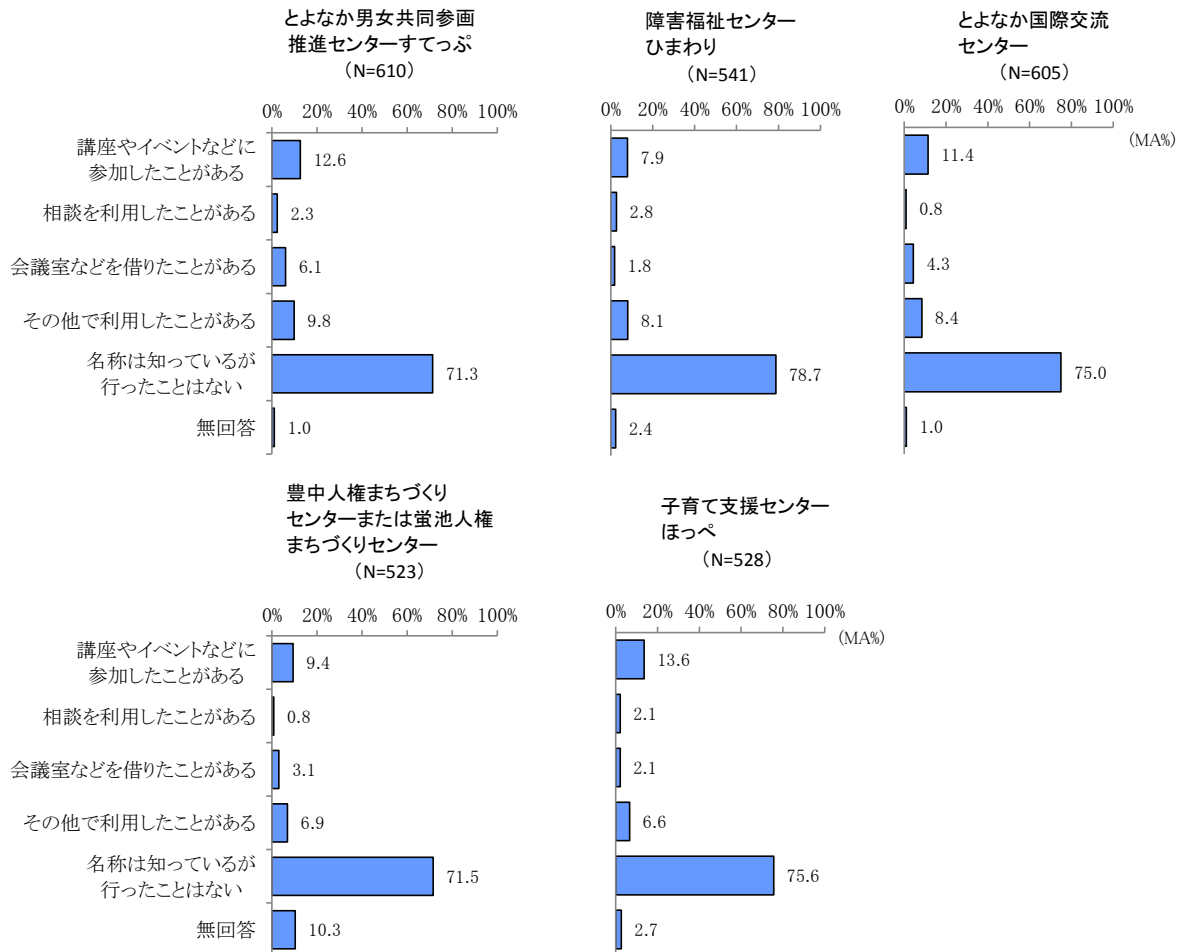
(2) 人権に関連する事業を行う施設の利用状況

問 15-1 【問 15 で「1」～「5」を選んだ方にお聞きします】

問 15 で「知っている」とお答えになった施設について、その施設が行っている交流イベントや講座などの参加や相談などの利用をしたことがありますか。

(それぞれの施設について○はいくつでも)

【図 7-2 人権にかかわる施設の利用状況】



人権に関連する事業を行っている5つの施設を知っていると回答した人の利用状況を聞いた結果をみると、「講座やイベントなどに参加したことがある」は、それぞれの施設とも10%前後しかなく、なかでも障害福祉センターひまわりが低く(7.9%)、子育て支援センターほっぺが高い(13.6%)。「相談を利用したことがある」は、いずれの施設も3%未満で、とよなか国際交流センターと人権まちづくりセンターは1%を下回っている。「会議室などを借りたことがある」は、男女共同参画推進センターで高く(6.1%)、障害福祉センターひまわりで低い(1.8%)。「その他で利用したことがある」は、男女共同参画推進センターで高く(9.8%)、子育て支援センターほっぺが低い(6.6%)。「名称は知っているが行ったことはない」は、障害福祉センターひまわりで高いが(78.7%)、もっとも低い男女共同参画推進センターでも71.3%となっており、いずれの施設も行っていない市民が7割ほどにのぼる。(図7-2)

【表7-2-1 性・年齢別 人権にかかわる施設の利用状況①】

(ア) とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ

		回答者数	講座やイベントなどに参加したことがある	相談を利用したことがある	会議室などを借りたことがある	その他で利用したことがある	名称は知っているが行ったことはない	無回答
総数		100.0 610	12.6 77	2.3 14	6.1 37	9.8 60	71.3 435	1.0 6
性別	男性	100.0 170	4.1 7	0.6 1	2.9 5	9.4 16	82.9 141	0.6 1
	女性	100.0 430	15.6 67	3.0 13	7.2 31	10.2 44	67.0 288	1.2 5
年齢別	16～19歳	100.0 71	2.8 2	- -	5.6 4	25.4 18	67.6 48	- -
	20歳代	100.0 71	5.6 4	1.4 1	4.2 3	18.3 13	71.8 51	1.4 1
	30歳代	100.0 85	12.9 11	2.4 2	2.4 2	12.9 11	69.4 59	1.2 1
	40歳代	100.0 113	14.2 16	1.8 2	5.3 6	9.7 11	71.7 81	- -
	50歳代	100.0 112	10.7 12	4.5 5	6.3 7	12.5 14	67.9 76	- -
	60歳代	100.0 120	14.2 17	2.5 3	10.0 12	9.2 11	69.2 83	1.7 2
	70歳以上	100.0 123	11.4 14	0.8 1	4.9 6	4.1 5	78.9 97	2.4 3

(イ) 障害福祉センターひまわり

(上段：%、下段：人)

		回答者数	講座やイベントなどに参加したことがある	相談を利用したことがある	会議室などを借りたことがある	その他で利用したことがある	名称は知っているが行ったことはない	無回答
総数		100.0 541	7.9 43	2.8 15	1.8 10	8.1 44	78.7 426	2.4 13
性別	男性	100.0 168	6.5 11	4.2 7	2.4 4	6.5 11	79.8 134	1.2 2
	女性	100.0 363	8.5 31	1.9 7	1.7 6	8.8 32	78.8 286	2.8 10
年齢別	16～19歳	100.0 51	2.0 1	2.0 1	2.0 1	7.8 4	84.3 43	2.0 1
	20歳代	100.0 45	4.4 2	2.2 1	2.2 1	4.4 2	88.9 40	- -
	30歳代	100.0 65	4.6 3	3.1 2	- -	6.2 4	89.2 58	- -
	40歳代	100.0 80	3.8 3	2.5 2	1.3 1	5.0 4	87.5 70	2.5 2
	50歳代	100.0 102	12.7 13	1.0 1	2.9 3	16.7 17	69.6 71	- -
	60歳代	100.0 111	5.4 6	2.7 3	2.7 3	8.1 9	78.4 87	2.7 3
	70歳以上	100.0 144	10.4 15	2.8 4	2.1 3	4.9 7	77.1 111	4.9 7

(ウ) とよなか国際交流センター

		回答者数	講座やイベントなどに参加したことがある	相談を利用したことがある	会議室などを借りたことがある	その他で利用したことがある	名称は知っているが行ったことはない	無回答
総数		100.0 605	11.4 69	0.8 5	4.3 26	8.4 51	75.0 454	1.0 6
性別	男性	100.0 185	7.6 14	0.5 1	4.9 9	8.1 15	79.5 147	- -
	女性	100.0 407	12.8 52	1.0 4	3.9 16	8.4 34	73.5 299	1.5 6
年齢別	16～19歳	100.0 67	9.0 6	- -	3.0 2	14.9 10	73.1 49	1.5 1
	20歳代	100.0 47	4.3 2	2.1 1	6.4 3	10.6 5	76.6 36	- -
	30歳代	100.0 82	13.4 11	1.2 1	3.7 3	4.9 4	78.0 64	- -
	40歳代	100.0 94	9.6 9	- -	2.1 2	7.4 7	80.9 76	1.1 1
	50歳代	100.0 113	12.4 14	0.9 1	0.9 1	14.2 16	72.6 82	- -
	60歳代	100.0 124	15.3 19	- -	5.6 7	7.3 9	70.2 87	2.4 3
	70歳以上	100.0 142	8.5 12	1.4 2	6.3 9	4.2 6	78.2 111	1.4 2

(エ) 豊中人権まちづくりセンターまたは蛭池人権まちづくりセンター

(上段：%、下段：人)

		回答者数	講座やイベントなどに参加したことがある	相談を利用したことがある	会議室などを借りたことがある	その他で利用したことがある	名称は知っているが行ったことはない	無回答
総数		100.0 523	9.4 49	0.8 4	3.1 16	6.9 36	71.5 374	10.3 54
性別	男性	100.0 169	6.5 11	1.8 3	4.1 7	8.3 14	68.0 115	13.0 22
	女性	100.0 345	10.1 35	0.3 1	2.6 9	6.1 21	73.6 254	9.3 32
年齢別	16～19歳	100.0 50	10.0 5	- -	8.0 4	6.0 3	74.0 37	4.0 2
	20歳代	100.0 59	1.7 1	1.7 1	3.4 2	10.2 6	81.4 48	1.7 1
	30歳代	100.0 73	11.0 8	- -	1.4 1	8.2 6	79.5 58	2.7 2
	40歳代	100.0 92	9.8 9	- -	4.3 4	6.5 6	78.3 72	3.3 3
	50歳代	100.0 92	10.9 10	- -	3.3 3	10.9 10	65.2 60	10.9 10
	60歳代	100.0 100	12.0 12	1.0 1	3.0 3	6.0 6	65.0 65	17.0 17
	70歳以上	100.0 116	6.0 7	1.7 2	2.6 3	1.7 2	71.6 83	17.2 20

【表7-2-1 性・年齢別 人権にかかわる施設の利用状況②】

(オ) 子育て支援センターほっぺ

(上段：％、下段：人)

		回答者数	講座やイベントなどに参加したことがある	相談を利用したことがある	会議室などを借りたことがある	その他で利用したことがある	名称は知っているが行ったことはない	無回答
総数		100.0 528	13.6 72	2.1 11	2.1 11	6.6 35	75.6 399	2.7 14
性別	男性	100.0 129	7.8 10	2.3 3	2.3 3	1.6 2	86.0 111	0.8 1
	女性	100.0 389	15.7 61	2.1 8	2.1 8	8.2 32	72.0 280	3.3 13
年齢別	16～19歳	100.0 36	- -	- -	5.6 2	- -	94.4 34	- -
	20歳代	100.0 53	18.9 10	9.4 5	- -	17.0 9	60.4 32	- -
	30歳代	100.0 108	31.5 34	2.8 3	1.9 2	11.1 12	57.4 62	0.9 1
	40歳代	100.0 104	17.3 18	1.9 2	2.9 3	9.6 10	69.2 72	1.0 1
	50歳代	100.0 79	6.3 5	1.3 1	2.5 2	7.6 6	86.1 68	- -
	60歳代	100.0 91	5.5 5	- -	2.2 2	- -	87.9 80	4.4 4
	70歳以上	100.0 104	2.9 3	1.0 1	1.0 1	1.0 1	87.5 91	7.7 8

性別でみると、「講座やイベントなどに参加したことがある」と回答したのは、いずれの施設でも女性のほうが多く、とくに男女共同参画推進センターでは 15.6%と、男性（4.1%）を大きく上回っている。「相談を利用したことがある」という回答は、障害福祉センターひまわり、人権まちづくりセンター、子育て支援センターほっぺで男性のほうが多く、障害福祉センターひまわりでは 4.2%と、女性（1.9%）の倍以上となっている。反対に、男女共同参画推進センターでは女性が 3.0%、男性が 0.6%と、女性のほうが多い。「名称は知っているが行ったことはない」と回答した人は、人権まちづくりセンターを除いて男性のほうが多く、男女共同参画推進センターについては、男性 82.9%、女性 67.0%と、男性が女性を 16 ポイントほども上回っている。

年齢別にみると、「講座やイベントなどに参加したことがある」と「相談を利用したことがある」の割合は、おおむね年齢が若くなるほど低下する傾向がみとめられるが、子育て支援センターほっぺについては 30 歳代、20 歳代の割合が高くなっている。「名称は知っているが行ったことはない」は、いずれの施設でもすべての年齢層で 60%以上であり、年齢による差も施設によって異なっており、年齢別の特徴はとくにみとめられない。（表 7-2-1）

前回調査と比較すると、「講座やイベントなどに参加したことがある」は、子育て支援センターほっぺについては、前回 12.9%、今回 13.6%と、ほぼ横ばい状態といえるが、これ以外の 4 つの施設ではいずれも低下している。男女共同参画センターは、前回 16.1%、今回 12.6%（以下、同じ）、障害者福祉センターひまわり 13.3%、7.9%、国際交流センター 14.2%、11.4%、人権まちづくりセンター 13.6%、9.4%であり、とりわけ、障害福祉センターひまわりでは 5.4 ポイント、人権まちづくりセンターでは 4.2 ポイント、前回調査よりも低くなっている。「相談を利用したことがある」は、「ある」と回答した

人が前回調査でも非常に少なく、子育て支援センターほっぺで 4.1%から 2.1%に低下している以外に大きな変動はみられない。

「名称は知っているが、行ったことはない」という回答の割合を前回調査と比較すると、表 7-2-2 のようである。

【表 7-2-2 名称は知っているが、行ったことはない】

(%)

	2007 年	2013 年
男女共同参画推進センター	56.9	71.3
障害福祉センターひまわり	67.3	78.7
とよなか国際交流センター	62.9	75.0
人権まちづくりセンター	64.6	71.5
子育て支援センターほっぺ	66.8	75.6

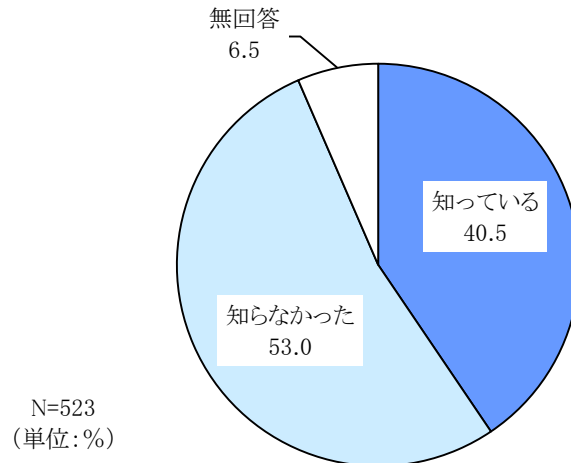
「名称は知っているが行ったことはない」と回答した人は、5 つの施設とも増加しており、男女共同参画推進センターでは、前回調査に比べて 14 ポイントも上昇している。これは豊中市が施設の認知度を高める広報に力を入れた結果だといえるが、認知度は高まったものの、利用は低迷している。(表 7-2-2)

(3) 人権まちづくりセンターの名称変更の認知状況

【問16・問16-1は、問15で人権まちづくりセンターを「知っている」とお答えになった方にお聞きします】

問16 人権まちづくりセンターは、以前は解放会館という名称でしたが、11年前に名称を変更しました。あなたはこのことを知っていますか。(〇は1つ)

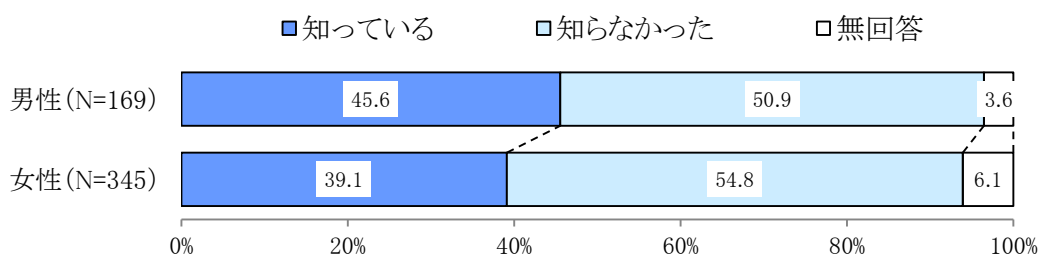
【図7-3 人権まちづくりセンターの名称変更の認知状況】



人権まちづくりセンターの名称変更の認知状況を問うた問16は、問15で人権まちづくりセンターを「知っている」と答えた人(全体の33.7%)だけが回答している。そのなかでも、問15-1(エ)によると、「名称は知っているが行ったことはない」が7割を超え(ただし、男女共同参画推進センターなど、他の施設も同様である)、実際にイベント参加、会議室利用などで、人権まちづくりセンターに足を運んだことがあるのは2割程度である。

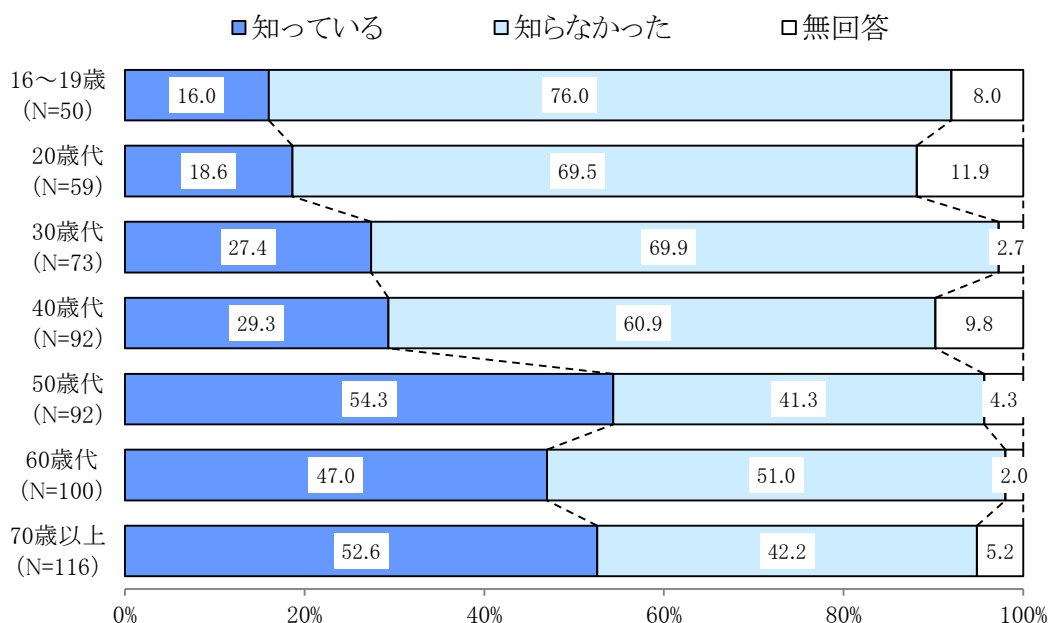
まず問16であるが、11年前に「解放会館」から名称変更したことを知っている人は4割にとどまった。「知っている」と回答した人でも歴史的経緯を知らない人が半数以上である。これは、過去11年の間に豊中市へ転入した人も含まれるであろう。前回調査では、人権まちづくりセンターを知っていると回答した人のうち、名称変更を「知っている」が50.9%、「知らなかった」が46.2%となっていたので、名称変更を知らない人が増えていることになる。名称変更から時間が経過するとともに、人権まちづくりセンターという名称が浸透したことも関係しているであろう。ともあれ、「解放会館にルーツをもつ、同和問題と関わりがある」という来歴を知らずに、社会教育施設の一つとしてセンターを利用する住民が増加していることがうかがえる。(図7-3)

【図 7-3-1 性別 人権まちづくりセンターの名称変更の認知状況】



性別でみると、「知っている」は男性（45.6%）のほうが女性（39.1%）に比べて 6.5 ポイント高くなっている。（図 7-3-1）

【図 7-3-2 人権まちづくりセンターの名称変更の認知状況】



年齢別でみると、年齢が上がるにつれて「知っている」は高くなる傾向となっている。（図 7-3-2）

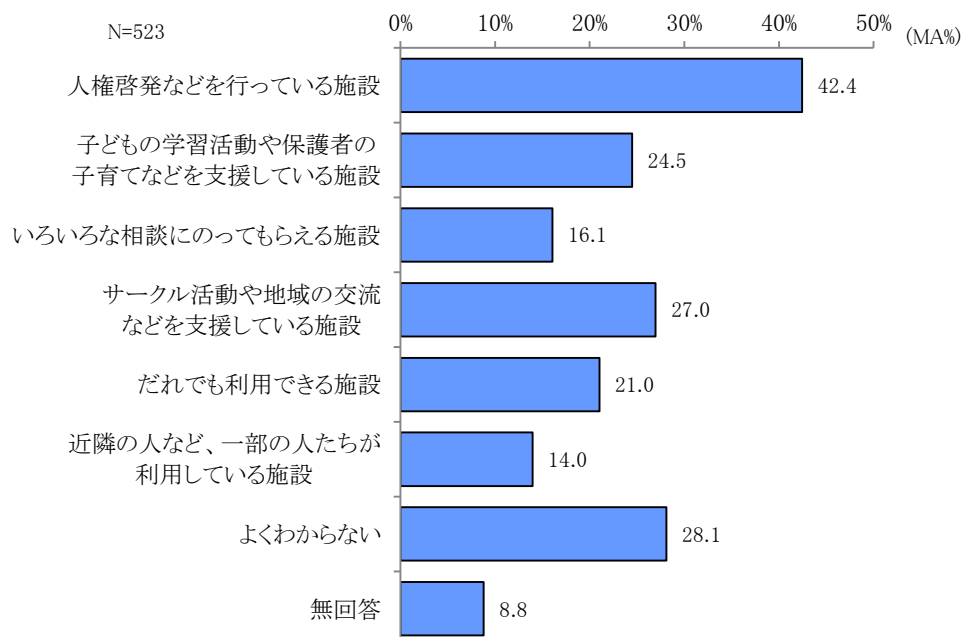
(4) 人権まちづくりセンターの印象

【問16・問16-1は、問15で人権まちづくりセンターを「知っている」とお答えになった方にお聞きします】

問16-1 人権まちづくりセンターについて、あなたはどのような印象をお持ちですか。

(〇はいくつでも)

【図7-4 人権まちづくりセンターの印象】



つぎの問16-1であるが、人権まちづくりセンターの印象のうち多いのは、やはり「人権啓発などを行っている施設」で、4割を超える。つぎに多いのが「よくわからない」(28.1%)、次いで「サークル活動や地域の交流などを支援している施設」「子どもの学習活動や保護者の子育てなどを支援している施設」と続く。センターの存在を知っているにもかかわらず、問16-1で「人権啓発などを行っている施設」を選ばなかった人が半数以上いたということから、人権まちづくりセンターを人権にかかわる施設として認知していない人も一定いるということがわかる。(図7-4)

【表7-4-1 性・年齢別 人権まちづくりセンターの印象】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	人権啓発などを行っている施設	援護者のいる施設	子どもたちの学習活動や保護	いろいろな相談のつ	いろいろな相談のつ	交流などを支援している施設	サークル活動や地域の	設だれでも利用できる施	施設が利用している	近隣の人が利用している	よくわからない	無回答
総数		100.0 523	42.4 222	24.5 128	16.1 84	27.0 141	21.0 110	14.0 73	28.1 147	8.8 46				
性別	男性	100.0 169	52.7 89	24.9 42	16.6 28	26.0 44	18.9 32	18.3 31	24.3 41	4.7 8				
	女性	100.0 345	38.6 133	24.9 86	16.2 56	27.8 96	22.6 78	12.2 42	30.7 106	8.7 30				
年齢別	16～19歳	100.0 50	18.0 9	12.0 6	14.0 7	18.0 9	16.0 8	12.0 6	44.0 22	10.0 5				
	20歳代	100.0 59	35.6 21	22.0 13	13.6 8	18.6 11	27.1 16	11.9 7	28.8 17	15.3 9				
	30歳代	100.0 73	32.9 24	30.1 22	12.3 9	20.5 15	17.8 13	13.7 10	31.5 23	5.5 4				
	40歳代	100.0 92	40.2 37	19.6 18	13.0 12	26.1 24	17.4 16	15.2 14	28.3 26	9.8 9				
	50歳代	100.0 92	57.6 53	29.3 27	13.0 12	33.7 31	20.7 19	16.3 15	18.5 17	7.6 7				
	60歳代	100.0 100	48.0 48	26.0 26	18.0 18	26.0 26	23.0 23	19.0 19	27.0 27	5.0 5				
	70歳以上	100.0 116	39.7 46	23.3 27	23.3 27	32.8 38	25.9 30	10.3 12	33.6 39	7.8 9				

性別でみると、男女ともに「人権啓発などを行っている施設」（男性 52.7%、女性 38.6%）が最も多くなっている。また「人権啓発などを行っている施設」は男性のほうが女性に比べて 14.1 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、16～19歳では「よくわからない」がもっとも多く、それ以外の年齢では「人権啓発などを行っている施設」がもっとも多くなっている。（表7-4-1）

【表 7-4-2 人権まちづくりセンターの認知×問 11「結婚差別の相談への態度」】

(上段：%、下段：人)

		回答者数	問11 結婚を反対されている親類への態度						
			てす反 ある対 げなす よど、 うと力 言にな うにつ	婚分迷 しのう な意こ さしと いをは と貫な 言いい うて、 結自	よ慎 い重 とに考 ええ うた ほう が	うあ きら める よう に言	わど か ら 言 え ば よ い の か	そ の 他	無 回 答
合計		100.0 1,551	13.5 209	25.1 390	31.9 494	2.1 33	19.3 299	4.5 70	3.6 56
問 16	知っている	100.0 212	14.2 30	30.7 65	30.7 65	2.4 5	13.7 29	5.2 11	3.3 7
	知らなかった	100.0 277	11.9 33	19.5 54	39.0 108	2.2 6	18.8 52	6.9 19	1.8 5

p=0.0437*

なお、人権まちづくりセンターに関わる市民の層を分析するためにクロス集計を試みたが、特徴がみられたのは問 11（同和地区の人との結婚を反対されている親類への態度）であった。問 16 で「知っている」と答えた人と、そうでない人との間で、問 11 の回答には明確な差があった。「反対する家族を説得するなど、力になってあげようと言う」や「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」は、「知っている」と回答した人のほうが多く、「慎重に考えたほうがよいと言う」や「どう言えばよいかわからない」は、「知らなかった」のほうが多くなっている。

少なくとも、問 16 で「知っている」と答えた人（「解放会館」であったことを知っている人）は、居住歴が長く、同和問題の解決に積極的な傾向をもつ人が含まれていることがわかった。（表 7-4-2）

8. 自由記述について

人権や差別について、意見や要望を自由記述の形でたずねたところ、438人から442件の回答があった。記入内容を主な分野別に分類・整理した。なお、複数の分野に関する記述があった場合はそれぞれでカウントしている。とりまとめた結果は、表のとおりである。

表8-1 自由記述の内容について① 女性の人権

記 入 内 容	件数
母親への支援を充実させてほしい。	4
女性の人権がいわれるが、男性も生きにくい。男性弱者もいる。	4
男女の賃金や出世における不平等をなくしてほしい。	3
セクハラなど、女性が働きにくい職場環境を変えてほしい。	2
男性の意識が変わるべき。	2
差別はよくないが、区別はあっていい。	2
親世代は「女性が家事で男性を支えるべき」という考えが強い。	1
世界の女性差別に目を向けたい。	1
女性専用車両があるが人権を主張しすぎた結果ではないか。	1
計	20

表8-1 自由記述の内容について② 障害者の人権

記 入 内 容	件数
障害者と健常者がふれあう場、話を聞く機会を増やすべき。	3
障害者を受け入れる環境を整えてほしい。	3
外見でわからない精神疾患について啓発を充実させてほしい。	3
過保護でなく、自立のための援助をしてほしい。	3
障害者への差別的な目をなくしてほしい。	2
障害者ができる仕事をもっと増やしてほしい。	2
障害者と結婚するのはいけないことなのか、子どもとして悩む。	1
なんでも差別だと大騒ぎしないほうがいい。	1
テレビで学んだ。障害者や福祉のことを知る機会をもっと欲しい。	1
計	19

表 8-1 自由記述の内容について③ 在日外国人の人権

記 入 内 容	件数
ヘイトスピーチへの対応をすべき。	2
外国人を差別せず、平等に接するべき。	2
外国人参政権の問題は慎重に考えるべき。	2
日本社会のルールなど基礎知識を外国人住民に啓蒙すべき。	1
国内ではあまり差別はないのではないか。	1
インターナショナルなふれあいの機会をもっと増やしてほしい。	1
外国人とつきあうと人権の勉強になる。	1
外国人の件は差別ではない。	1
日本に同化する気がない外国人に支援する必要はない。	1
計	12

表 8-1 自由記述の内容について④ 同和問題

記 入 内 容	件数
同和問題を教えることで差別につながる。取り上げない方がいい。	20
特別措置は逆差別ではないか。優遇があると聞いた。	14
若い人は気にしていない。時代とともによくなった。	6
同和地区の人の行動にも問題があったのではないか。	6
同和問題を初めて知った。よくわからない。	5
「同和地区」をなくすべき。流動性を高める。	3
同和問題の根本をしっかりと教えるべき、歴史を正しく教える。	3
差別はよくないが、難しい問題だ。	3
出身の人などと交流して偏見がなくなった。	2
人権まちづくりセンターがあるから、地区だとわかってしまう。	1
転入して来るとき地域によって治安が違っていると聞いた。	1
計	64

表 8-1 自由記述の内容について⑤ 高齢者の人権

記 入 内 容	件数
認知症を含む高齢者に対し、やさしいまちになってほしい。	5
親を病院に連れて行くと不適切な対応を受けた。たらいまわし等。	2
寝たきり高齢者と家族を支援してほしい。	1
元気な高齢者に働ける場所を。	1
老人会への加入促進をお願いしたい。	1
計	10

表 8-1 自由記述の内容について⑥ 子どもの人権

記 入 内 容	件数
いじめ問題への対処を。人の痛みのわかるような教育を。	7
きちんと子どもの意見を聴くべき。	2
不登校の子どもへの支援を充実させてほしい。	2
子ども虐待への取り組みを。	2
インターネット利用が子どもに与える影響が心配。	2
子どもの人権に、今以上の心配りを。	1
子どもたちが素晴らしい先生に出会えるような環境づくりを。	1
子どもの人権について社会全体で学ぶべき。	1
金銭的に余裕がない子どもが進学できるよう支援すべき。	1
子どもの生活は学校がすべて。視野が広がるようにしてほしい。	1
学校の温かいサポートが自立につながる。	1
計	21

表 8-1 自由記述の内容について⑦ 犯罪被害者、犯罪加害者

記 入 内 容	件数
犯罪加害者への差別はしかたない。	4
被害者より加害者が守られるのはおかしい。	1
未成年の犯罪が「A」など実名でなく、保護されるのはおかしい。	1
計	6

表 8-1 自由記述の内容について⑧ 家族に関わる人権問題

記 入 内 容	件数
長男を大事にするなど家庭内の差別がある。	1
非嫡出子への差別にも目を向けてほしい。	1
家族構成によって差別的態度をとられることがある。	1
親の介護は女性がするものだという考えに疑問がある。	1
計	4

表 8-1 自由記述の内容について⑨ 人権や差別問題全般

記 入 内 容	件数
子どもの頃からの人権教育が重要。	25
人権講演会、人権啓発の充実を。	19
差別がなくなることはないと思う。難しい。	18
権利を主張するより、義務を果たすべき。	16
他人に優しく接すること、思いやりが大切。	14
お互い尊重し、差別のない社会の確立を。	14
なんでも差別だと騒ぎたてるのはよくない。	13
今は人権が尊重される時代になったと思う。昔より良くなった。	10

逆差別がないようにすべきだ。	8
差別はよくない。恥ずべきこと。	7
差別されている側にも、問題があるのではないか。	6
差別はいけませんが、区別は必要。	5
人権をいうなら生活困窮者に手をさしのべるべき。底上げを。	5
差別反対を言うより行動すべき。	4
テレビやCMなどで人権問題をとりあげるべき。	3
差別をなくすのは大人には期待できない。若い人に期待。	3
自分は気にしない。自然にしていれば差別はしない。	3
不勉強なので、何が差別なのかわからない。	3
職場や地域などで、もっと多くの人の人権研修を受けられるべき。	2
差別はよくないと思うが加担してしまう時もあり、ジレンマがある。	1
レッテルを貼らずにその人個人を見られるようにしたい。	1
差別する心に平和はない。平和な世の中であってほしい。	1
本当に人権問題で困っている人たちを救う活動があればいい。	1
心の中がどうであれ、「してはいけない」ことを教えていくべき。	1
人権侵害を受けたとき、声をあげるのが問題解決の一步では。	1
自分の身を守るために差別している人が多いのではないか。	1
差別は自分の心に問いかけるべき。	1
倫理、道徳を小学生のうちから教える。	1
偏見の目が変わるよう、差別されている人と話してみたい。	1
人が「当たり前」と考えることがなくなればいい。	1
「皆と同じである」ことをよしとする教育が差別をうむのでは。	1
差別した人には厳しく責任を問うべき。	1
どういうことが差別なのか、きちんと考えるべき。	1
武道をやれば人の気持ちがわかるようになるのでは。	1
大阪府教育委員会の「国歌斉唱口元チェック」は人権侵害だ。	1
市会議員の態度に問題があり、教育が必要だ。	1
保育士は忙しくて厳しいのに給料が低すぎる。	1
中小企業労働者も大企業と同じように見てほしい。	1
パワハラを受け退職せざるをえなかった。組合には相談できず。	1
計	198

表 8 - 1 自由記述の内容について⑩ 市の人権施策等

記 入 内 容	件数
広報を充実させる（施設の場所、相談窓口等）。	10
本当に保護を必要としている人に手厚くしてほしい。	4
人権尊重のまちづくりを進めてほしい。	3
人権啓発活動に力を入れてほしい。	2
人権まちづくりセンターの存在をもっと知らせてほしい。	2
弱い立場の人が抱え込まなくて済むよう救済してほしい。	2
役所で悩み相談をしたくても、上から目線だった。そっけなかった。	2
税金を平等にとって福祉に使ってほしい。	2
生活保護などの基準が甘いのではないか。	2
目安箱のようなものを設けてほしい。	2
人権まちづくりセンターなどは、親しみやすい名前に変える。	1
市役所や市民会館で差別問題の公演を行い、交流の場に。	1
文化、マナー、美しいまちづくり。	1
広報はよくやっていると思う。	1
子どもを育てる環境づくりを行政はしっかりやってほしい。	1
女性議員の増加など公の取り組みについて情報提供してほしい。	1
現在ある施設について、利用状況や職員の数の見直しを。	1
人権保護に力を入れてほしい。	1
人権関係の部署には人権擁護に熱心な方を配置していただきたい。	1
気軽に参加できるイベントを増やしてほしい。	1
計	41

表 8 - 1 自由記述の内容について⑪ その他

記入内容	
今回の調査について	18
その他	29
計	47

(総 計) 442

(1) 同和問題に関する記述

まず、同和問題に関する記述からみることにする。

具体的な人権問題に関わるものでは、同和問題についてが、64件と最多であったが、そのなかで多かったのは「同和問題を教えることで差別につながる」というものである(20件)。学校教育だけでなく、施策への批判もみられた。代表的なものは「今の子供たちは同和地区のことなど知らない。小学校で習って、逆にその存在を知り、差別に繋がるのではないか」「このまま(同和問題を)知らない人が増えるほうがよい」といったものである。はっきり「寝て居る子を起さない事が一番大切な事」とまで書いているものもあった。1件、「県外だが出身者」とことわったうえで、「そっとしておいてほしいというのが本音です」という意見があった。

つぎに多かったのが「逆差別」に関わるもの(14件)で、代表的なものは「同和地区の人の税金等が優遇されていると聞いたことがあり、本当かと思えます。もしそうなら逆差別だと思います」「役所の方が、同和関係の人達を優先していると聞いた事があります」「電気代も、水道代も(略)これって逆差別ではないですか」といったものであり、過去の伝聞等に基づいたものがほとんどであった。関連して、「被差別者への過度の政策的な庇護が部外者の反感を買っている」など、人権施策において同和問題が過重に扱われているという認識を示すものが相当数あった。なお、特別施策が過去のものだと知っているが、現況がわからないため、かつて聞いた「逆差別」「優遇」にまつわるエピソードが印象に残っていると思えるものもあった(例「同和問題の現況は全く分からないが、30年程前には、同和対策による逆差別的事象を見聞きしたり、(略)」)。

また「同和地区の人の行動にも問題があったのではないか」(6件)は、差別される側に差別の責任を負わせる考え方であり、気がかりである。これも「反社会的な行動があったと聞いた」など伝聞に基づくものが多く、先述の「逆差別」論と重なるものもあった。

以上は同和問題の教育啓発に批判的な意見であったが、少数ながら「同和問題の根本を教える」啓発の充実を求めるものや、交流によって理解が進んだ経験を述べるものもあった。

(2) 子ども、女性、障害者、高齢者、家族、犯罪被害者・犯罪加害者に関わる人権問題

次いで多かったのは子ども(21件)、女性(20件)、障害者(19件)に関する人権問題に関するものである。合わせて、高齢者の人権(10件)、家族に関わるもの(4件)も紹介したい。

子どもの人権では、「子ども間のいじめに対し、学校が敏感に反応を」など、「いじめ」や「虐待」に遭っている子どもへの取組みを求めるものが多かった。また、現代的な問題として、インターネット等の利用が子どもに与える影響を心配する声もあった。

女性の人権については、「小さな子供のいる母親でも、仕事と家庭・子育てが両立できるような町づくりを希望」など、シングルマザーを含む母親への支援(就労支援含む)を求めるものや、職場における賃金不平等の是正、セクハラのない職場環境などを求めるものが目立った。一方で、「女性の人権ばかりが取り上げられるが、男性も生きにくい」など、男性の立場からの意見も数件みられた。

障害者の人権については、障害者を差別なく受け入れる社会環境を作してほしいとし、そのために啓発や交流機会の充実を求めるものが多かった。代表的なものは、「目に見える障害を持つ人は同情の視線に苦しみ、目に見えない障害を持つ人は無理解な視線に苦しむ。自分におきかえて考えられる想像力や思いやりを育むために、子供の頃から適切な教育をすべきだと思う」といったものである。障害種別では、精神疾患をもつ人への理解を求めるものが目立った。その他では、自立のための援助や就労支援を求めるもの等があった。

高齢者の人権に関わっては（10件）、認知症や寝たきりの人の例をあげ、「住みよい、老人にやさしい豊中市をめざしてほしい」などとするものが多かった。医療現場の改善を求めるものや、元気な高齢者の就労を支援してほしいとするもの等があった。

関連して、「家族」に関わる人権問題（4件）として、「高齢者の介護は女性がするもの」とする通念への批判、非嫡出子への差別への疑問を挙げたものがあった。

（3）在日外国人の人権について

件数としては計12件であるが、在日外国人に関わる自由意見の中には、激しいヘイトスピーチといえるものが2件あった。たとえば、在日韓国・朝鮮人に対して、「日本の生活保護のほとんどが在日たちで、不正受給も多くある。（略）反日のくせに祖国に帰らず、のうのうと日本に寄生して日本人の税金でご飯を食べている。在日は強制退去させるべき！（略）」「日本に住みながら日本人になりたくないと言っている人たちに何の支援の必要があるのでしょうか」といったものである。インターネット上を中心に拡散されている「在日特権」というデマ情報と同一の内容であった。

他方、こうした言論が流通する現状に対して、「ヘイトスピーチへの対応法をキチンとすべきです」と述べる意見も複数あった。外国人市民のための施策や交流の機会を求める意見もあった。

（4）人権や差別問題全般について

ここに分類した計198件のうち、目立ったのは教育の必要性に関するものである。「学校などで、いろいろな人と区別なく学んだりすることで、思いやりを持てるようになるのではないか」等、「子どもの頃からの（人権）教育が重要」とするものが代表的である（25件）。学校に限らず、社会教育や啓発、メディアや職場での研修の必要性を述べたものも多かった。

一方、差別をなくすことは難しい（18件）とするものも少なくなかった。

同和問題に関して多く述べられていたことと関連すると思われたのが、一般に「逆差別」があるとし、それをなくすべきとする意見（8件）や、「差別されている側に問題がある」とする意見（6件）、「なんでも差別だと騒ぎたてるのはよくない」（13件）といったものである。事例として、生活保護受給者には「不正受給」が多いということが挙げられていることが複数あり、いわゆる「生活保護バッシング」の影響がみられた。

人権一般への意見として、「権利を主張するより、義務を果たすべき」（16件）、「思いやりが大切」（14件）といったものが多くみられた。

個別問題として分類しなかった人権問題としては、「パワハラ」等、労働に関わるものがいくつかみられた。

（5）市の人権施策等について

41件のうち、もっとも多かったのは、広報を充実させることであった（10件）。具体的には施設の場合、相談窓口、イベント等の広報を求めており、「身近なことを広報することで、いろんな世代の人が目にする機会が増えると思うので、どんどん広報活動をすればよい」「地道な広報活動！ 見やすいHP等を作り、（略）若者の興味をひくアイデアを皆で出す機会があればいいと思う」等の意見もあった。

人権まちづくりセンターに関連して、「名前も知らなかったので、存在を知らせてほしい」「親しみやすい名前に変えて利用しやすく」等の意見もあった。

「本当に保護を必要とする人に手厚くしてほしい」（4件）という意見には、不当に「優遇」されてい

る人がいるという現状認識が関わっていると思われるものもあった。

その他、相談窓口の改善や、市民の意見を取り入れる仕組みを求めるもの等があった。

9. 今回の調査からみえてきたこと

今回の人権意識調査のそれぞれの設問について、その回答結果からみえてきた特徴などをあげると、以下のようである。

問 1 では、人権侵害にあてはまるとの回答が少なかった項目として、「エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと」と「カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」の 2 つがあげられる。2000 年と 2007 年に実施された過去の調査と比較すると、これら 2 つの項目を人権侵害にあてはまるという回答は、少なくなってきた。また、問 2 の「キ. みんなが同じが良いという考えが、一人ひとり個性や少数者を排除することにつながっている」という考え方が自分に当てはまるかどうかという回答結果とクロス集計を行うと、この考え方を支持する人ほど、「在日外国人の地方参政権を認めていないこと」や「家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること」を人権侵害にあたると回答するという傾向がみられた。

問 2 については、「ア. 差別は、人間として恥ずべき行為の一つである」という見方が自分に当てはまると回答した人が多い。また、「エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある」や「カ. 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある」などといった、差別の原因を当事者に求めるような考え方を否定する人も多く、これらの人は増加する傾向にある。

問 3 では、「ア. いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある」「ウ. 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」「ク. 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ」という意見を肯定する回答が 16～19 歳で多く、「イ. 嫡出子と非嫡出子とでは法律上の扱いが異なるのは当然だ」「エ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのは、しかたがない」という意見を肯定する回答が 20 歳代が多かった。若年層に差別の原因を当事者に求めたり、体罰を容認する回答が多くみられたのである。また、2007 年調査との比較では、教師の体罰を問題視する回答がやや増加しているものの、保護者の体罰を問題視する回答には、変化がみられなかった。

問 4 で、「人権」という言葉から連想するものとしてあがったのは、「平等」が突出して多く、これに「差別」「尊厳」「自由」が続く。「平等」や「差別」が多くあがったことは、「人権」というと、部落問題をはじめとする差別問題を意識する市民が多いことがうかがわれる。「人権」を自分にかかわる問題として考える市民が少ないのではないだろうか。

問 5 では、豊中市に限ったことではなく、他の自治体の調査でもみられる傾向であるが、人権侵害を受けたときに、「黙って我慢した」という回答が多く、公的な機関に相談したという回答が非常に少なかった。

問 6 は、日本国憲法で定められている「国民の権利」についての設問であるが、「国民の権利」に対する理解が高くないという結果が出た。ただ、NHKの全国調査と比較すると、豊中市の市民のほうが正答率がやや高かった。他の設問とのクロス集計では、正答率が高い人ほど、人権意識が高いという傾向がみられた。憲法に関する教育の重要性を示唆する結果といえる。

問 7 では、「イ. 凶悪事件の場合は、未成年であっても、犯人の実名を公表すること」を問題視する人が少なかったが、これを人権問題とみる認識の希薄さは、この数年の少年事件をめぐる議論と関連していると考えられる。未成年の凶悪事件容疑者の顔や名前が、週刊誌でとりあげられるようになり、さらに近年ではネットですぐにさらされるようになって、人々の認識に変化が生じているのではないだろうか。また、日本国籍をもたない「外国人」に対する認識にも、ゆらぎと個人主義的な志向をみることができる。「ウ. 企業の採用や昇進で、日本国籍をもつ人が優先されること」に対しては、4 割以上の人

が問題を感じているが、同じく「オ. 理由にかかわらず不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること」は、半数弱の人が、問題があるとは思わないと答え、問 10 の「ウ. 外国人が地域に増えることへの忌避感」や「カ. 外国人を親にもつ子どもが日本語や日本文化への適応に努力すべきだ」という考えには賛同する人が半数近い。このことから、調査回答者が、外国人という対象を、1) 日本国籍はもたないけれど「日本語」を話し、日本人と同じように仕事につけるような人々と、2) 日本語や日本文化に適応できない人々の 2 つにわけ、後者に対する寛容度が低下している（前回の 2007 年調査と比較して）ことが見て取れる。この相違の背景には、自分自身の生活を侵食するかもしれない存在への忌避感がうかがえる（外国人の子どもが日本語・文化に適応しなければ、自分たちが、日本語を話せない人々に対応しなくてはならなくなる）。このように考えると、表面的には問 7 の「ウ」のように、日本国籍をもたない人に対する人権感覚が高まったようにみえる結果についても、その人々が、自分に影響を及ぼす対象と認知されれば、排除を肯定する可能性が否めず、人権という観点からは問題をはらんでいるといえよう（たとえば、近年の排外主義デモの増大のように、外国籍の人々が、日本社会に対して要求をしていたり、日本人の就業機会を奪っていると認知されれば、たちまち排除の論理がまさるといふ現状とも重なるように思える）。

問 8 の回答結果からは、自尊感情と人間関係には、かなりの相関があることがわかった。自尊感情が高いほど人間関係が良好である。もしくは人間関係が良好なほど自尊感情も高まるといえる。その一方で、自尊感情は、部分的に人権意識と関連がみられたが、人間関係とは関連がみられなかった。

問 9 の回答結果からは、結婚を個人の自由な選択であると考える人は多くみられるものの、自分の身内に同性愛者やシングルマザーがいることについては、許容度が低いといえる。また、同性婚を肯定する人は少なく、いわゆる 3 歳児神話を肯定する人は半数を超えている。ただ、「夫は外、妻は家庭」という性別役割分業について内閣府の調査と比較すると、豊中市民はかなりリベラルな態度をとっていることがわかった。

問 10 の結果について、2007 年調査と比べると、全体を通じて、言い方として適切かどうかかわからないが、個人主義的な傾向の強まりを反映しているのではないかと感じた。たとえば、問 7 の「ア」のように、就職希望者の家族構成を聞くことについては、人権の観点から問題があると考える人が増えていたが、他方で、問 10 の「イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくないという気持ちがある」という考え方に自分もあてはまると答えた人が多かったように、自分の身内に障害のある子どもが生まれることを忌避する意見は、以前から多かったが、さらに大幅に増えている。この 2 つの設問への回答の推移をみると、表面的には矛盾しているようにみえる。家族の状況が個人（＝就職希望者）に影響をおよぼすのは人権侵害だと取れる回答と、家族の状況（＝障害のある子どもの誕生）は個人（＝その家族）に影響をあたえるのは仕方がない（＝人権上問題がない）ととれる回答だからである。

しかし、これを、自分自身の行動に影響を与える事象を忌避する選択と考えると、両者は似通った立場からの回答と考えられる。回答者が自分自身の就職活動に家族の状況が影響をあたえるのは問題だと考え、同時に、障害のある子どもの存在によって、自分自身の活動や選択が制限されるのを好まない、ということが両立していると考えられる。個人主義的な傾向という観点からみると、問 10 のうち、自分自身の生活への影響が大きいと思われるものに関する設問には、忌避する気持ちが強いと読み取れる。身内に「障害のある子ども」が生まれること、自分の住む地域に、外国人住民や同和地区があることへの忌避は、これらの存在が、自分の生活に与える影響を大きくみているためではないか。他方で、障害者の作業所やグループホームは、それほど大きな影響があるとみなされていない。

問 11 についてみると、結婚差別の相談への態度は、「慎重に考えたほうがよいと言う」「あきらめる

ように言う」などの差別を容認する態度（34.0%）と、「反対する家族を説得する」「自分の意思を貫くように言う」などの差別に対抗しようとする態度（38.6%）が拮抗している。人権や差別に対する考え方についての問2の設問のうち、「ア. 差別は人間として恥ずべき行為の一つである」などの差別に反対し、少数者の人権を尊重する態度は、結婚差別の相談に対して「反対する家族を説得する」「自分の意思を貫くように言う」などの差別に対抗する態度と有意な相関関係にある。家族にかかわる人権に関する問9の設問のうち、「ウ. 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」などの従来のジェンダ一意識を容認する態度は、結婚差別の相談に対して「あきらめるように言う」などの差別を容認・助長しかねない態度と正の相関関係にある。

身近な人権問題にかかわる問10の設問とクロス集計を行ったところ、すべての項目において人権課題に対する否定的な態度と結婚差別を容認・助長しかねない態度は、正の相関関係にあった。また、人権教育の経験と結婚差別に対抗する態度には、有意な相関関係が認められた。

問12では、同和問題に関する差別発言を聞いたことがある人は半数に及び、同和問題に関する差別発言を聞いたことがある人のうち、3割は家族から聞いていることがわかった。とくに16～19歳や20歳代の若い世代は、ここ数年のうちに差別発言を聞いている。差別発言を聞いたときの態度は、「そのとお里と思った」「そういう見方もあるのかと思った」などの差別発言を許容する態度が6割以上を占めた。16～19歳では、差別発言を許容する態度は4割に満たないが、一方で「とくに何も思わなかった」が35%近くとなった。

身近な人権問題にかかわる問10の設問とクロス集計を行ったところ、すべての項目において人権課題に対する否定的な態度と差別発言を許容する態度は、正の相関関係にあった。また、人権教育の経験と差別発言への態度には、有意な相関関係が認められなかった。

問13については、人権教育を「ほぼ毎週」や「月に1～2回」と高い頻度で受けたと答えた人が30歳代から50歳代で多くみられた。一方、16～19歳、20歳代では、その割合は低下してきており、日常的に人権教育に取り組む学校が少なくなっていることをうかがわせる。若い世代ほど多様な内容の人権教育を受けている一方、同和問題を学習する機会は大幅に減少してきているといえる。

人権教育を受けた経験と人権意識の関連をみると、人権教育の経験の有無は、60歳以上では、人権意識の高さとの関連が認められなかった。人権教育を受けた人が多くみられた60歳未満の年齢層では、問1～3などの設問で人権教育の経験があるグループのほうが人権意識が高い傾向にあることがわかった。また、人権教育の経験があるグループのほうが、自己責任論に否定的であり、社会全体で問題を解決すべきと考える傾向にある。一方、権利だけでなく個人の義務や責任を強調するのも人権教育の経験があるグループのほうである。また、人権教育の経験が「ある」グループほど、「自尊感情」「人間関係」ともに高い傾向にあった。

問14については、改善傾向にあると考える人が多い人権課題は女性問題と障害者問題であり、双方ともここ数年において関連する法律の改正や成立がみられる課題であった。悪化傾向にあると考える人が多いのは職業や雇用の問題であり、近年、非正規労働者の増大などが問題視されている課題であった。人権教育の経験とクロス集計を行ったところ、有意差がみられたのはハンセン病問題のみであった。ハンセン病問題は2014年度から中学校の公民の教科書すべてで取り上げられるようになるなど、1990年代半ば以降から社会的に注目されるようになってきた時代背景が影響しているのではないかと考えられる。

問15は、人権に関する事業を行う施設（5施設）の認知状況についての設問であるが、前回調査（2007年）に比べて、5つの施設に対する認知度はそれぞれ高くなっているが、施設は知っているが、行った

ことがないという人がそれぞれ7割台を占め、その割合は前回調査に比べて高くなっている。

問16については、人権まちづくりセンターの名称変更を知っている人は4割ほどで、問15で人権まちづくりセンターを知っていると回答した人でも、「人権啓発などを行っている施設」と認知している人は4割ほどで、人権まちづくりセンターの役割が十分に認知されていないといえる。

問21は自由記述であるが、同和問題に関わって、「優遇されすぎている」「逆差別」などの記述がみられる同時に、生活保護の問題（不当に受給している人が多い等）にふれている意見が複数あり、同和問題と生活保護の問題を混同しているように思える記述もあった。同和地区の現状を知らない、あるいは知りようがない人たちの、「なぜいまだに同和問題をこれほど調査でとりあげるのか？」という苛立ちのようなものを、端々に感じた。日々の生活で部落問題について実感がないのに、こういう調査の時には尋ねられること、それ自体が「優遇」「特別扱い」と感じている市民がいるのではないだろうか。

自由記述全体で、分類すれば同和問題に関するものが「不満」を中心として多いということの意味を考えさせられる。現状を適切に認識するのがむずかしいなかで、過去のネガティブな伝聞が想起され、何かを書かないと気が済まない人がこれだけいるのではないだろうか。

在日外国人に対しては、リベラルな意見の一方、激烈なヘイトスピーチといえるものが2件だけだがあり、いずれも若い女性だったことが気がかりであった。傾向といえるほどではないが、インターネット上で流布されている「特権」等に惑わされない知識・認識をどうしたらもてるようになるのか、考えさせられる。また、「その他」のなかで分類項目にしなかったが、非正規雇用など、労働に関する意見が一定数あった。市民自身が身近に感じている人権問題が、適切に取り上げられていないという不満もあるように感じられた。

以上、今回の意識調査からみえてきた特徴を述べたが、市民の人権意識は、一様に高まってきているというより、高くなってきている面もみられる一方で、人権意識が後退しているのではないかという面もみられた。そして、性別や年齢別での差が大きくみられる項目もあり、また、項目によっては、若い年齢層の人権意識が高いとはいえない点もみられた。たとえば、差別の原因を当事者に求めるような「自己責任論」は、全体としては減少傾向にあるが、若年層では比較的多くみられた点などである。したがって、これからの人権啓発は、等しく市民に同じ内容のものを提供するのではなく、こうしたさまざまなありようをみせる市民の人権意識に対応できるような多様性をもった啓発手法を考えていく必要があるのではないだろうか。

■アンケート調査のご協力のお願い

日ごろは、豊中市政の推進にご協力いただき、誠にありがとうございます。
豊中市では、「人権文化のまちづくりをすすめる条例」に基づき、市民一人ひとりの個性や人権が大切にされ、人間らしく豊かに生きることができる社会をめざしてまちづくりをすすめています。
このたび、今後の人権教育・啓発などの施策をすすめるうえで参考とさせていただくため、人権に関するお考えをお聞きすることにいたしました。
このアンケートでは、市内にお住まいの満16歳以上の方の中から無作為に5,000人の方を選ばせていただきました。
ご回答いただいた内容は統計的に処理したうえで利用させていただきますので、個人の回答内容が外部に漏れたりすることはありません。また、調査目的以外に使用することはありませんので、率直なご回答をご記入ください。
ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、このアンケートの趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

へいせい ねん (2013年) 9月
とよなかし
豊中市

■記入上のおお願い

1. あて名のご本人がお答えになってください。なお、記入にあたっては、ご家族、ご友人の方などに代筆していただいても結構です。
2. 選択肢がある場合には、あてはまる番号を○印で囲んでください。また、()には具体的に内容を記入してください。
3. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や注意書きにそってお答えください。
4. 記入後は、無記名のまま、同封の返信用封筒に入れて、10月7日(月)までに、ポストへ入れてください。(切手は不要です)

【お問い合わせ先】

とよなかし じんけんぶんかぶじんけんせいさくしつ じんけん どうわ こくさい
豊中市 人権文化部長人権政策室 人権・同和・国際チーム
〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号
でんわ 06-6858-2586
ふあくす FAX 06-6846-6003

問 1

あなたは、次のようなことは人権侵害にあてはまると思いますか。
ア～ケのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
ア. 女性ということで、同じ勤続年数の男性よりも、給料や昇進で低い評価を受けること	1	2	3	4	5
イ. 夫が妻に、身体的・精神的な暴力をふるうこと	1	2	3	4	5
ウ. 障害のある人が結婚したり子どもを育てることに、周囲が反対すること	1	2	3	4	5
エ. 在日外国人の地方参政権を認めていないこと	1	2	3	4	5
オ. 結婚に際して、相手の出身地が同和地区かどうかを調べること	1	2	3	4	5
カ. 家族が、寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること	1	2	3	4	5
キ. 性的な被害を受けた女性に対して、周囲が「夜遅くに外出した」「スキがあった」などと非難すること	1	2	3	4	5
ク. HIV(エイズウイルス)感染を理由に、労働者が解雇されること	1	2	3	4	5
ケ. 犯罪被害者が名前や住所を報道されること	1	2	3	4	5

問 2

人権や差別の問題について、次のような考え方があります。これらの考え方に対し、あなたはどの程度あてはまると思いますか。ア～クのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
ア. 差別は、人間として最も恥ずべき行為の一つである	1	2	3	4	5
イ. どんな理由があっても差別はいけない	1	2	3	4	5
ウ. 社会的に弱い立場にある人の権利は、社会全体で守る必要がある	1	2	3	4	5
エ. 差別の原因は、差別された人の側にもある	1	2	3	4	5
オ. 差別された人の気持ちをきちんと聞くことが大事だ	1	2	3	4	5
カ. 差別された人は、まず、世の中に受け入れられるように努力する必要がある	1	2	3	4	5
キ. みんな同じが良いという考え方が、一人ひとりの個性や少数者を排除することにつながっている	1	2	3	4	5
ク. 人権を強調するあまり、権利にともなう義務や責任をおろそかにするのはよくない	1	2	3	4	5

問 3

あなたは、子ども(※)の人権に関する次のような意見についてどのように思いますか。
 ア～クのそれぞれについて、最もお考えに近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そうは思わない	そう思わない
ア. いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある	1	2	3	4	5
イ. 嫡出子(婚姻関係にある男女の間に生まれた子)と非嫡出子(婚姻関係にない男女の間に生まれた子)とでは法律上の扱いが異なるのは当然だ	1	2	3	4	5
ウ. 教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ	1	2	3	4	5
エ. 保護者が子どものしつけのために体罰を加えるのは、しかたがない	1	2	3	4	5
オ. 保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい	1	2	3	4	5
カ. 学校の規則等を定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない	1	2	3	4	5
キ. 児童ポルノを制作することは児童虐待にあたる	1	2	3	4	5
ク. 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ	1	2	3	4	5

※1989年(平成元年)に国連総会で採択された「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」では、18歳未満の人を「子ども」としています。

問 4

あなたは、「人権」という言葉からどのようなことを連想しますか。(○はいくつでも)

1. 自由	5. 自立	9. 格差	13. この中にはない
2. 平等	6. 生存	10. 差別	⇒具体的にどのようなことを連想しますか
3. 幸福	7. 共存	11. 思いやり	()
4. 尊厳	8. 他人事	12. 建て前	


問 5

日常生活のなかで、あなたはここ5年くらいの間に、人権を侵害されたことがありますか。(○は1つ)


1. よくある	----->	問 5-1 からお答えください
2. 時々ある	----->	
3. ほとんどない	----->	
4. まったくない	----->	問 6 へおすすみください
5. わからない	----->	

問 5-1 問 5 で「1」または「2」を選んだ方にお聞きします
 あなたは人権侵害を受けたそのとき、どのように対応しましたか。主なものを選んでください。
 (〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 黙って我慢した
2. 相手に抗議した
3. 友人・家族など身近な人に相談した
4. 学校の先生に相談した
5. 職場の上司や地域の有力者に相談した
6. 弁護士に相談した
7. 市民団体に相談した
8. 法務局または人権擁護委員に相談した
9. 市役所に相談した
10. 警察に相談した
11. その他(具体的に:) |
|--|

 問 6 あなたは、憲法により義務ではなく、「国民の権利」と定められているのはどれだと思いますか。
 (〇はいくつでも)

- | | |
|--|--|
| 1. 思っていることを世間に発表する
2. 税金を納める
3. 目上の人に従う
4. 道路の右側を歩く | 5. 人間らしい暮らしをする
6. 労働組合をつくる
7. 憲法に何が定められているかわからない |
|--|--|

 問 7 あなたは、次のようなことは人権の観点から問題があると思いますか。
 あなたのお考えを教えてください。ア～オのそれぞれについて選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

	問題がある	どちらかといえば問題がある	どちらともいえない	どちらかといえば問題がない	問題があるとは思わない
ア. 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くこと	1	2	3	4	5
イ. 凶悪事件の場合は、未成年であっても、犯人の実名を公表すること	1	2	3	4	5
ウ. 企業の採用や昇進などで、日本国籍をもつ人が優先されること	1	2	3	4	5
エ. 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易には決まらないこと	1	2	3	4	5
オ. 理由にかかわらず、不法滞在の外国人を日本国外に強制退去させること	1	2	3	4	5

問 8

あなたご自身について、次のようなことがどの程度あてはまるとお思いますか。
ア～セのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	よくあてはまる	ややあてはまる	いえない どちらとも	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
ア. 現在、自分の生活は充実していると思う	1	2	3	4	5
イ. 長所も短所も含めて、自分のことが好きだ	1	2	3	4	5
ウ. 自分は、人とうまくやっていける人間だと思う	1	2	3	4	5
エ. 自分は、まわりの人から期待されていない、と思うことがある	1	2	3	4	5
オ. 自分の人生は、どんなに努力しても、うまくいかないことが多い	1	2	3	4	5
カ. どんな時でも、自分を受け入れ、認めてくれる人がいる	1	2	3	4	5
キ. 信頼できる少数の友だちと、深くつきあうほうだ	1	2	3	4	5
ク. ぐちの聞き役になることが多い	1	2	3	4	5
ケ. 困っている人を見ると、放っておけない	1	2	3	4	5
コ. 他人に何と思われようとも、自分が良いと思うことを貫くほうだ	1	2	3	4	5
サ. 人間関係のトラブルが生じたら相談できる人がいる	1	2	3	4	5
シ. 目上の人の言うことには、素直に従うほうだ	1	2	3	4	5
ス. 友人は多いほうだ	1	2	3	4	5
セ. デモや集会など、市民の自発的な意思表示の機会などには参加するほうだ	1	2	3	4	5

問 9

次のような家族に関わるいろいろな見方や考え方について、あなたはどのように思いますか。
ア～スのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらともいえない	どちらかといえはそうは思わない	そう思わない
ア. 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい	1	2	3	4	5
イ. 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
ウ. 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ	1	2	3	4	5
エ. 子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てるべきだ	1	2	3	4	5
オ. 夫が外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
カ. 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ	1	2	3	4	5
キ. 夫の親を妻が介護するのは当然だ	1	2	3	4	5
ク. 結婚しても、夫婦の生活がうまく行かないのなら、離婚をするのもやむを得ない	1	2	3	4	5
ケ. 結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい	1	2	3	4	5
コ. 男どうし、女どうしの結婚も認めるべきだ	1	2	3	4	5
サ. 自分の身内が外国人と結婚することには抵抗がある	1	2	3	4	5
シ. 自分の身内に同性愛者はいてほしくない	1	2	3	4	5
ス. 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない	1	2	3	4	5

問 10

次のような意見や考え方に対し、あなたはどの程度あてはまると思いますか。
ア～カのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
ア. 自宅近くに障害者の作業所やグループホームの建設計画が持ち上がった場合は反対する	1	2	3	4	5	
イ. 自分の身内には障害のある子どもが生まれてほしくないという気持ちがある	1	2	3	4	5	
ウ. 自分が住む地域に外国人が増えると、治安や秩序が乱れるという気持ちがある	1	2	3	4	5	
エ. 同和地区を含む校区には引っ越したくない	1	2	3	4	5	
オ. 児童養護施設を含む校区には引っ越したくない	1	2	3	4	5	
カ. 外国人を親にもつ子どもは、日本の文化や言葉に適應するよう努力すべきだ	1	2	3	4	5	

問 11

あなたの親類が結婚したいと思っている相手が同和地区の人で、そのことを理由に家族から結婚を反対されていることについて、あなたが相談を受けた場合、あなたならどのような態度をとると思いますか。最もお考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

1. 反対する家族を説得するなど、力になってあげようと言う
2. 迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う
3. 慎重に考えたほうがよいと言う
4. あきらめるように言う
5. どう言えばよいのかわからない
6. その他(具体的に: _____)

問 12

あなたは、これまでに同和問題に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。(〇は1つ)

1. 同和地区の人(子ども)とは、付き合っては(遊んでは)いけない
 2. 同和地区の人とは、結婚してはいけない
 3. 同和地区の人はこわい
 4. 同和地区の人は無理難題を言う
 5. 同和地区は治安が悪い
 6. 住宅を購入する際、同和地区内の物件を避けたほうがいい
 7. 聞いたことはない -----> **問 13** へおすすみください
- } **問 12-1** からお答えください

問 12-1～問 12-3 は、問 12 で「1」～「6」を選んだ方にお聞きします

問 12-1 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。(〇は1つ)

- | | | | |
|-------|---------|----------|----------------|
| 1. 家族 | 3. 近所の人 | 5. 職場の人 | 7. その他 |
| 2. 親戚 | 4. 友人 | 6. 知らない人 | (具体的に: _____) |

問 12-2 それはいつごろのことですか。(そのときのあなたの年齢を記入)

自分が(_____)歳のとき

問 12-3 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(〇は1つ)

1. そのとおりと思った
2. そういう見方もあるのかと思った
3. 反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった
4. 反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた
5. とくに何も思わなかった

問 13

あなたは、小学校から高校の間に、差別や人権に関する教育を受けたことがありますか。
(○は1つ)

1. ある ⇒ **問 13-1** からお答えください 2. ない ⇒ **問 14** へおすすみください

問 13-1・問 13-2 は問 13 で「1」を選んだ方にお聞きます

問 13-1 その教育をどの程度、受けましたか。最も多く受けた時期について、お答えください。(○は1つ)

1. ほぼ毎週 2. 月に1～2回 3. 年に数回 4. 覚えていない

問 13-2 どういう内容を教わりましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 8. ハンセン病回復者(※)の人権問題 |
| 2. 高齢者の人権問題 | 9. アイヌ民族の人権問題 |
| 3. 障害者の人権問題 | 10. 子どもの人権問題 |
| 4. 同和問題 | 11. 子どもの権利条約 |
| 5. 在日韓国・朝鮮人の人権問題 | 12. その他 |
| 6. 外国人労働者とその家族の人権問題 | (具体的に:) |
| 7. HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題 | 13. 覚えていない、わからない |

※ハンセン病は、慢性の感染症で、決して隔離療養する必要のない病気ですが、日本では、1996 年までハンセン病にかかった患者を隔離するよう規定した法律がありました。それにより、患者は長い間、療養所で生活を送らざるを得ず、著しく人権を侵害されてきました。現在の日本ではハンセン病にかかる人はほとんどおらず、ハンセン病回復者と呼ぶことが一般的となっています。また、回復者をハンセン病元患者と呼ぶこともあります。

問 14

次のような人権や差別の問題について、あなたはこの 10 年で問題が改善方向に向かっていると
思いますか。ア～ケのそれぞれについて選んでください。(○はそれぞれ1つ)

	かなり改善した	やや改善した	あまり変わらない	やや悪化した	かなり悪化した	よくわからない
ア. 女性の人権問題	1	2	3	4	5	6
イ. 障害者の人権問題	1	2	3	4	5	6
ウ. 同和問題	1	2	3	4	5	6
エ. 高齢者の人権問題	1	2	3	4	5	6
オ. 日本に在住する外国人の人権問題	1	2	3	4	5	6
カ. 子どもの人権問題	1	2	3	4	5	6
キ. 職業や雇用をめぐる人権問題	1	2	3	4	5	6
ク. ハンセン病回復者の人権問題	1	2	3	4	5	6
ケ. HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題	1	2	3	4	5	6

問 15

豊中市では、すべての部局で人権に根ざした行政をすすめています。人権に関連する事業を行っている次の施設のうち、あなたが知っている施設を選んでください。(〇はいくつでも)

1. とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ	} 問 15-1 からお答えください
2. 障害福祉センターひまわり	
3. とよなか国際交流センター	
4. 豊中人権まちづくりセンターまたは蛍池人権まちづくりセンター	
5. 子育て支援センターほっぺ	
6. いずれも知らない	→ 問 17 へおすすめください

問 15-1 問 15 で「1」～「5」を選んだ方にお聞きします

問 15 で「知っている」とお答えになった施設について、その施設が行っている交流イベントや講座などの参加や相談などの利用をしたことがありますか。

(それぞれの施設について〇はいくつでも)

	参加したことがある	講座やイベントなどに 参加したことがある	相談を利用した ことがある	会議室などを 借りたことがある	その他で利用した ことがある	名称は知っているが 行ったことはない
ア. とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ	1	2	3	4	5	
イ. 障害福祉センターひまわり	1	2	3	4	5	
ウ. とよなか国際交流センター	1	2	3	4	5	
エ. 豊中人権まちづくりセンターまたは 蛍池人権まちづくりセンター	1	2	3	4	5	
オ. 子育て支援センターほっぺ	1	2	3	4	5	

問 16・問 16-1 は、問 15 で人権まちづくりセンターを「知っている」とお答えになった方にお聞きます

問 16

人権まちづくりセンターは、以前は解放会館という名称でしたが、11 年前に名称を変更しました。あなたはこのことを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問 16-1 人権まちづくりセンターについて、あなたはどのような印象をお持ちですか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 人権啓発などを行なっている施設 |
| 2. 子どもの学習活動や保護者の子育てなどを支援している施設 |
| 3. いろいろな相談にのってもらえる施設 |
| 4. サークル活動や地域の交流などを支援している施設 |
| 5. だれでも利用できる施設 |
| 6. 近隣の人など、一部の人たちが利用している施設 |
| 7. よくわからない |

問 17

あなたの性別は。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問 18

あなたの年齢は。(9 月 24 日現在の満年齢でお答えください)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 16～19歳 | 5. 50～59歳 |
| 2. 20～29歳 | 6. 60～69歳 |
| 3. 30～39歳 | 7. 70歳以上 |
| 4. 40～49歳 | |

問 19

あなたが最後に卒業された学校について、該当する番号に○をしてください。
(在学中の方は現在の学校をお答えください)

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. 小学校、高等小学校、中学校 | 5. 大学 |
| 2. 高等学校(旧制中等学校を含む) | 6. 大学院 |
| 3. 専門学校、各種学校 | 7. その他 |
| 4. 短期大学、高専 | (具体的に:) |

問 20

豊中市での居住年数は、通算で何年くらいですか。

- | | | |
|--------------|-------------|---------|
| 1. 生まれてからずっと | 3. 10～20年未満 | 5. 5年未満 |
| 2. 20年以上 | 4. 5～10年未満 | |

問 21

人権が尊重されるまちをつくるために、あなたはどのようなことができますか。

◆人権や差別などについて、ご意見・ご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

調査項目は以上です。ご協力ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒に入れて、10月7日(月)までに、ポストへ入れてください。(切手は不要です)

人権についての市民意識調査報告書

平成 26 年（2014 年）3 月

豊中市／人権文化部人権政策室
〒561-8501 豊中市中桜塚 3 丁目 1 番 1 号
電話（06）6858-2586